

1. 主な参画と協働施策の実施状況

(1) 地域づくり活動の支援に関する施策(14 施策)

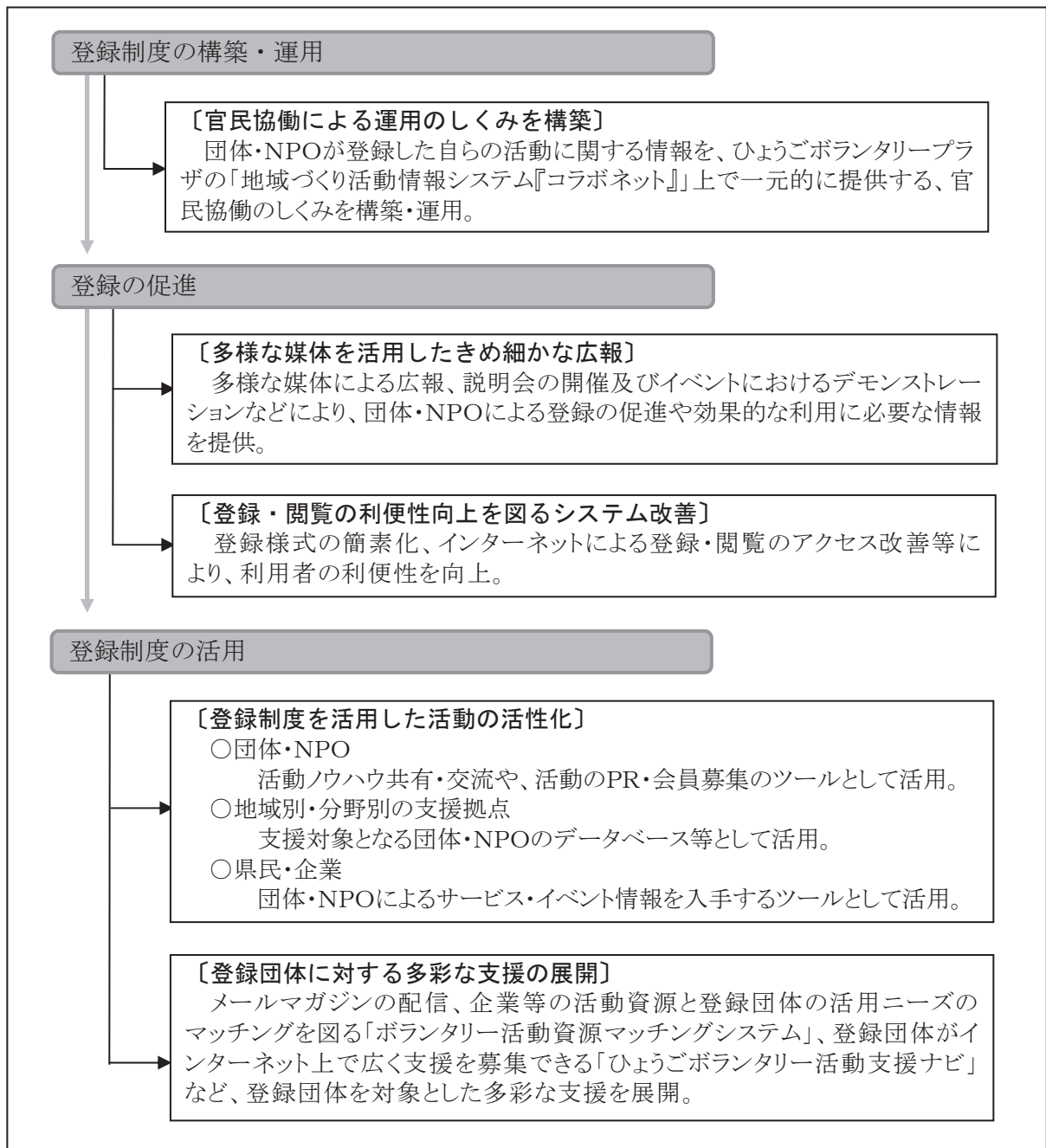
① 新たな活動を生み、育む

地域づくり活動登録制度の運用 (県民政策部)

事業概要

団体・NPOの地域づくり活動に関する情報(活動の内容・団体の概要)を登録し、分野別・地域別に整理のうえ、一元的に提供することを通じて、①地域・分野を超えた活動ノウハウ等の共有②共通する課題解決に向けた複数のアプローチの発見③複数のアプローチを協働して取り組むきっかけづくり、などによる地域づくり活動の活性化を応援する「地域づくり活動登録制度」を運用しています。

参画と協働の方法



1 主な参画と協働施策の実施状況

参画と協働の実施状況

◇登録制度のしくみ

団体・NPOが登録した自らの活動に関する情報を、ひょうごボランティアプラザの「地域づくり活動情報システム『コラボネット』」上に集約し、地域別・分野別に整理のうえ、インターネットで一元的に提供する、官民協働のしくみを運用しています。

さらに平成17年度から、①地域別・分野別の支援拠点、中間支援NPO、助成財団、行政、企業等が実施している活動支援の「提供」情報と、②団体・NPOによる自らの活動に対する支援の「募集」情報を登録してもらい、同様に情報提供する「ひょうごボランティア活動支援ナビ」を追加し、システムの機能強化を図りました。

| 運用システム | 地域づくり活動情報システム「コラボネット」 | |
|--------|---|--|
| 区分 | 地域づくり活動登録制度 | ひょうごボランティア活動支援ナビ (平成17年度拡充) |
| 趣旨 | 団体・NPOの活動に関する情報（活動の内容・団体の概要）を登録し、地域別・分野別に整理のうえ、一元的に提供することを通じて、①地域・分野を超えた活動ノウハウ等の共有②共通する課題解決に向けた複数のアプローチの発見③複数のアプローチを協働して取り組むきっかけづくり、などによる活動の活性化を応援する。 | ①地域別・分野別の支援拠点等が実施している支援の「提供」情報と、②団体・NPOによる支援の「募集」情報を登録し、地域別・分野別に整理のうえ、一元的に提供することを通じて、多様な支援提供の情報を団体・NPOに分かりやすく提供するとともに、多様な支援と団体・NPOのニーズのマッチングを図る。 |
| 登録情報 | 自らの活動に関する情報 (活動の内容・団体の概要) | ①活動に対する支援の提供情報 ②自らの活動に対する支援の募集情報 |
| 登録者 | 団体・NPO | ①地域別・分野別の支援拠点、中間支援NPO、助成財団、行政、企業等 ②団体・NPO |
| 登録手続 | ・地域別・分野別支援拠点等に設置している登録用紙に活動情報を記入のうえ提出 ・パソコンによりひょうごボランティアプラザホームページから登録情報を入力 | |
| 閲覧方法 | ・パソコンまたは携帯電話から閲覧 ・活動の地域別・分野別、キーワード等による情報検索が可能 | |

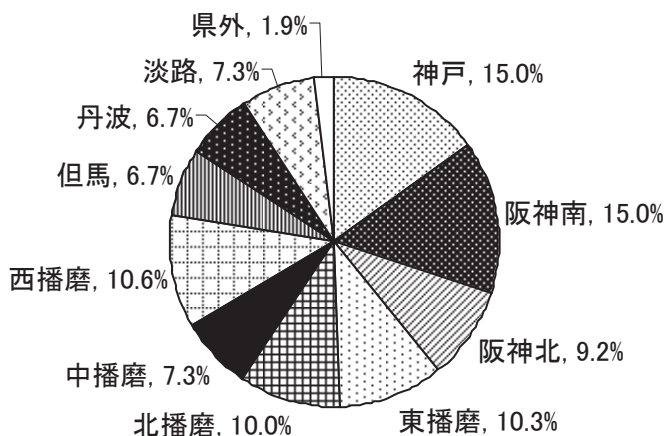
◇登録・活用の状況

(登録件数)

○地域づくり活動登録制度

平成15年度から運用を開始し、登録件数は4,182件です。地域別・分野別（NPO法の活動分野に基づく分類）の主な内訳は次のとおりです。

地域別割合

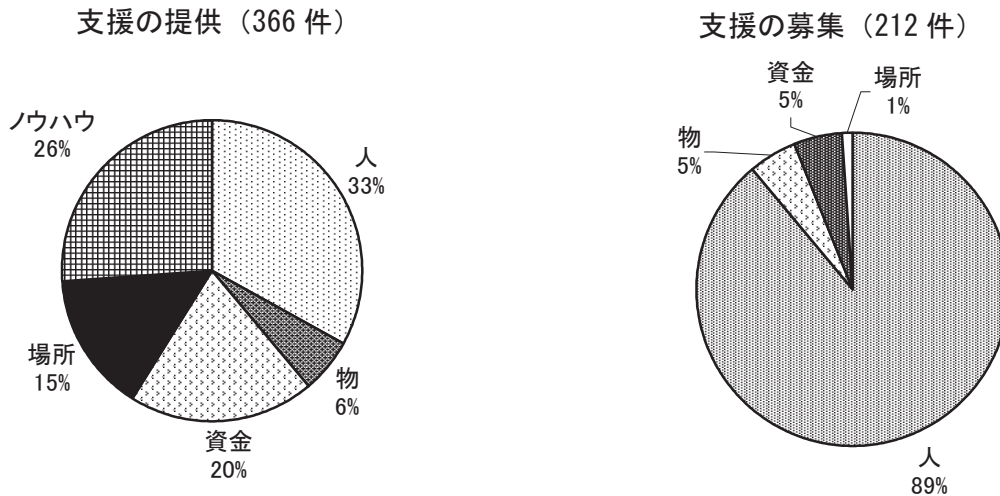


分野別割合

| 分野 | 割合 | 分野 | 割合 |
|------------|-------|---------------|-------|
| 保健・医療・福祉 | 14.7% | 男女共同参画の促進 | 2.3% |
| 社会教育の推進 | 9.1% | 子どもの健全育成 | 10.6% |
| まちづくり | 13.3% | 団体への助言・援助 | 2.4% |
| 文化・芸術・スポーツ | 15.0% | 情報化社会の発展 | 1.7% |
| 環境の保全 | 6.9% | 科学技術の振興 | 0.4% |
| 災害救援活動 | 1.1% | 経済活動の活性化 | 1.7% |
| 地域安全活動 | 10.4% | 職業能力開発・雇用機会拡充 | 2.2% |
| 人権擁護・平和の推進 | 2.7% | 消費者の保護 | 1.1% |
| 国際協力活動 | 2.6% | その他 | 1.9% |

○ ひょうごボランティア活動支援ナビ

平成 17 年度から運用を開始し、登録件数は 578 件です。支援の「提供」「募集」別の主な内訳は次のとおりです。



(活用例)

○ 団体・NPOの活動の活性化

- ・ 特定非営利活動法人 五色ホースクラブ (洲本市)
活動情報の掲載後、団体が運営するホームページ「五色ホースクラブ活動日記」へのアクセスが増えたほか、県内外から、活動見学の依頼があった。
- ・ 特定非営利活動法人 文化・福祉・人権サポートアエソン (播磨町)
活動情報を閲覧された方が、現在ボランティアとして活動に参加されているほか、他団体との連絡が容易になった。
- ・ しんしん倶楽部—新町まちづくり協議会— (養父市)
団体独自のホームページを持っていないので、活動のPR等に利用している。
- ・ 特定非営利活動法人 福祉ネット寿 (神戸市灘区)
団体独自のホームページを持っていないため、情報発信の手段として活用している。イベント参加者には、コラボネットから情報を得て参加した方がいる。
- ・ 特定非営利活動法人 アマモ種子バンク (西宮市)
イベントの開催告知等に活用するとともに、環境保全等を目的とした他団体の事業展開の手法等を参照している。
- ・ 白いりボン運動全国実行委員会 (神戸市中央区)
資金助成の応募団体は全国を対象としているが、コラボネットでの情報を見た兵庫県内の団体からの申請が他府県に比べ多い。

○ 地域別・分野別支援拠点等の施策展開

- ・ 兵庫県労働者福祉協議会 (神戸市中央区)
「ボランティアをしたい」勤労者等と「ボランティアを頼みたい」県民のマッチングを図る「ひょうご勤労者ボランティアシステム」の利用を広く呼びかけている。
- ・ (財) 兵庫県まちづくり技術センター (神戸市中央区)
「ひょうごまちづくり情報バンク」のまちづくりグループ情報のデータベースとして活用している。
- ・ (社福) 丹波市社会福祉協議会 (丹波市ボランティア市民活動センター) (丹波市)
「ボランティアグループ登録」団体による情報発信の場として活用している。

◇登録・登録制度の活用の促進

- ・ 多様な媒体を活用したきめ細かな広報

リーフレット、ホームページ、メールマガジン等による広報、地域支援拠点やNPO法人を対象とした説明会及び各種イベントにおけるデモンストレーションなどにより、団体・NPOによる登録の促進や効果的な利用に必要な情報を提供しています。

- ・ 登録手続きや閲覧の利便性向上を図るシステム改善

インターネットによる登録時にワンクリックで登録画面にアクセスできるよう、ひょうごボランティアプラザホームページのリンクを設定するとともに、インターネット・紙媒体の登録様式の簡素化を図るほか、閲覧については、携帯電話からの検索を可能とするなど、利便性向上に努めています。

- ・ 登録団体に対する多彩な支援の展開

各種講座・助成など活動に役立つ情報を掲載したメールマガジンを配信するほか、活動に対する支援者の輪の拡大を図るため、企業等が有する資機材・スペース、人材等の活動資源と登録団体の活用ニーズのマッチングを図る「ボランティア活動資源マッチングシステム（平成18年度～）」、登録団体がインターネット上で広く「活動に対する支援（イベントボランティアや寄付）」を募集できる「ひょうごボランティア活動支援ナビ（平成17年度～）」など、登録団体を対象とした多彩な支援を展開しています。

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

（団体・NPOに関する情報公開を通じた支援者の輪の拡大）

NPO法人については、NPO法上の情報公開義務が課せられているところですが、すべての団体・NPOが、企業・県民等の共感や信頼を獲得し、活動への「支援」「参画」の輪を拡大していくためには、義務的な情報公開から一歩進め、自らの活動の社会的意義や成果を積極的にアピールしていくことが求められます。

このため、登録制度が、団体・NPO間における活動ノウハウの共有化等を図るだけでなく、企業・県民等支援者とのコミュニケーションツールとしての役割を果たすことを周知するとともに、「地域づくり活動情報システム『コラボネット』」によるNPO法人閲覧資料の公開や、団体・NPOの信頼性向上、企業・県民等による寄付先・協働相手の選定に役立つ「NPO評価」等新たなきみの有用性について、幅広い検討を進めます。

（登録情報の充実と地域支援拠点等における登録制度の活用促進）

現在の登録は4,182件と着実に件数を伸ばしていますが、各種助成や表彰の対象となった活動など、そのノウハウを広く共有すべき活動情報の登録を重点的に促進するとともに、市区町社会福祉協議会ボランティアセンター、各地域で整備が進む市町設置のボランティア・市民活動支援センター等地域支援拠点等の支援展開における登録制度の活用を促進するなど、登録制度が「県域の情報ネットワーク基盤」として最大限に活用されるために必要な取り組みを進めます。

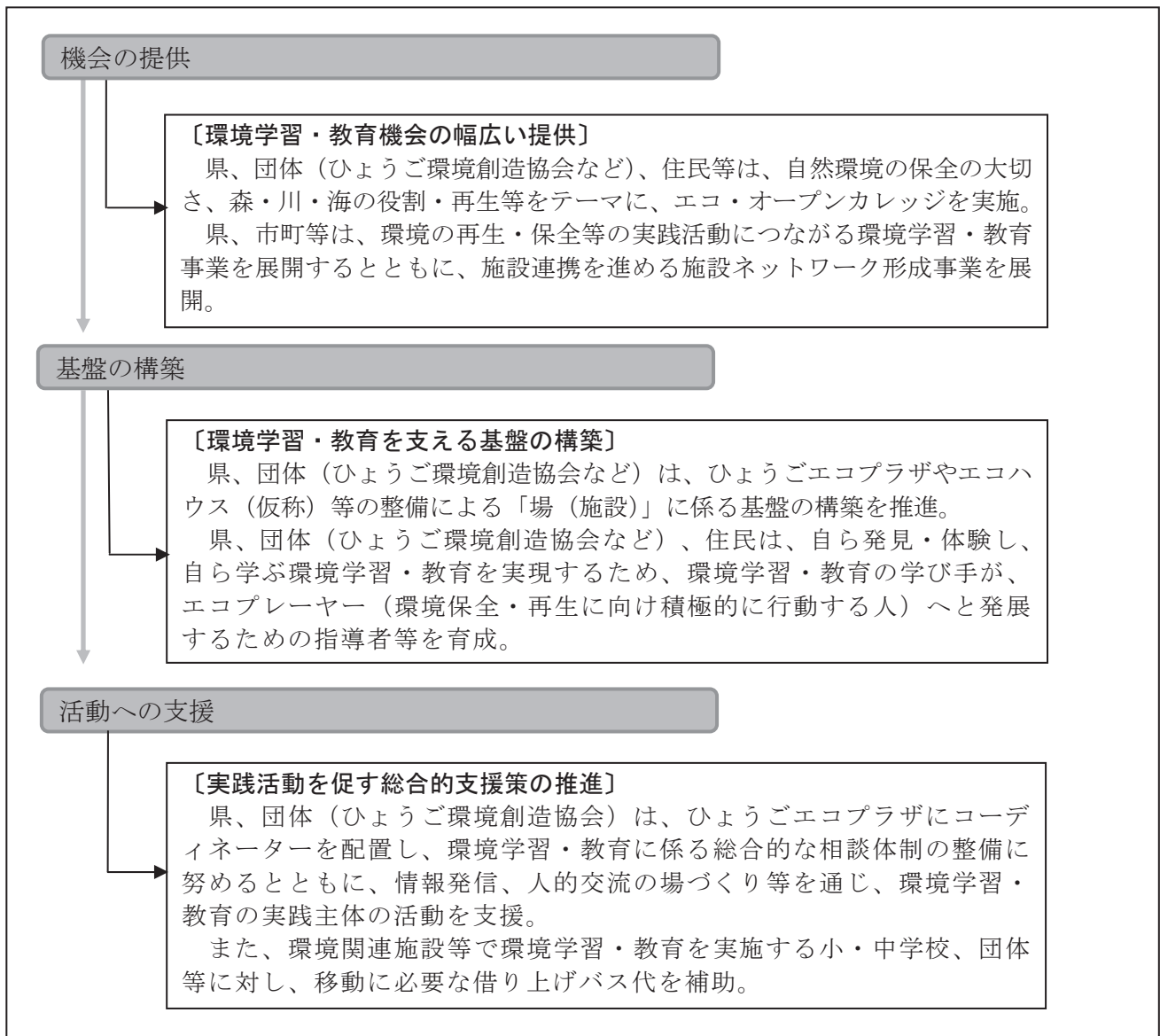
ひょうごの環境学習・教育の総合的推進（健康生活部）

事業概要

自ら「体験」「発見」し、自ら「学ぶ」環境学習・教育を進めることにより、環境や生命を大切に思う“こころ”を育み、学習から実践へとつなげていくため、平成18年度から、環境学習環境教育推進本部・同地域推進本部を設置し、関係部局間の連絡調整を図りながら、環境学習・教育の推進に係る施策の総合的かつ効果的な推進を図っています。

事業の推進に当たっては、ひょうご環境創造協会、NPOなどの多様な主体が、多彩な環境学習・教育に取り組むとともに、より多くの県民が環境学習・教育に参加できるよう、全県に広がる「学びの場」を舞台に、エコ・オープンカレッジなどの先導的事業を展開するとともに、実施団体等への支援策を推進しています。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

◇環境学習・教育機会の幅広い提供

体験型環境学習・教育の機会を県民に幅広く提供するため、森・川・海で一つにつながる地域を舞台に、県民が森・川・海の機能や役割について学ぶことができる講義や森・川・海をフィールドとした体験学習事業（エコ・オープンカレッジ事業）を実施しました。

また、市町や県、企業等が有する環境問題に関する施設の連携を進め、そこでの環境学習や交流を通じて、地域活動や環境学習の実施主体、今後の環境学習・教育の中核となる人材のネットワークを形成する施設ネットワーク形成事業を展開しました。

<体験学習事業（エコ・オープンカレッジ事業）の実施状況>

① こども環境学習サポータートレーニング

| 日 時 | 場 所 | 参加者数 | 内 容 |
|------------------|-------------------------------|------|---|
| 平成 18 年 7 月 29 日 | ひょうごエコプラザ | 20 名 | ・子どもへの環境学習とエコツアーについてのワークショップ及び講座 ・西播磨の自然・環境についての講義 |
| 平成 18 年 8 月 6 日 | 鞍居川（上郡町） （夏の子どもエコツアー活動予定地） | 23 名 | ・サポーターの役割についての現地講義（リスクマネジメントなど） ・夏のこどもエコツアーの学習プログラムの一部先行体験 |
| 平成 18 年 9 月 15 日 | ひょうごエコプラザ | 10 名 | ・夏の子どもエコツアーの反省・評価 |

② 夏の子どもエコツアー（森・川・海の総合プログラム）

| 日 時 | 場 所 | 参加者数 | 内 容 |
|-------------------------------------|-------------------------------|------------------------------|---|
| 平成 18 年 8 月 19 日 ～20 日 （一泊二日） | 千種川中・下流域 （坂越海岸、赤穂海浜公園、鞍居川） | 子ども 32 名 サポーター 10 名 | ・漁業体験と調理実習、塩作り体験、星や昔の生活のお話 ・川遊びと生物観察、川魚の採捕獲・試食 |

③ 千種川 秋のエコツアー～川と海の接点を探る（川のプログラム）

| 日 時 | 場 所 | 参加者数 | 内 容 |
|------------------|-------------------------|------|---------------------------------------|
| 平成 18 年 11 月 5 日 | 千種川河口域 （唐船海岸、赤穂海浜公園） | 31 名 | 河口域の自然・生物観察と講義、海洋科学館見学、塩づくり体験、千種川汁試食等 |

④ 相生湾 冬の親子エコツアー～牡蠣から学ぶ森・川・海（海のプログラム）

| 日 時 | 場 所 | 参加者数 | 内 容 |
|------------------|-------|------|-----------------------------------|
| 平成 19 年 2 月 10 日 | 相生湾周辺 | 73 名 | 船からカキの養殖場所等見学、カキから考える環境の講義、カキの試食等 |

⑤ 国見山 春のエコツアー（森のプログラム）

| 日 時 | 場 所 | 参加者数 | 内 容 |
|------------------|----------|------|--------------------------------|
| 平成 19 年 3 月 17 日 | 県立国見の森公園 | 30 名 | 森の自然・生物観察と講義、野生動物の肉の試食、ドンダリの植樹 |

<施設ネットワーク形成事業の実施状況>

| | 概要 | 実施施設 | 実施テーマ・開催日 | 参加人数 |
|---|---|------------------|---|------------------------------|
| 森 | 「里山保全・再生」を切り口に、身近な自然を通じた環境学習を実施することにより、里山をフィールドとした地域活動ネットワークを形成するため、園芸・公園協会、人と自然の博物館等と連携し、今後の環境学習のあり方を考えるフォーラムを開催しました。 | 県立六甲山自然保護センター | 【はげ山から都市山へ】 平成 18 年 9 月 3 日 | 32 人 |
| | | | 【都市山の地形と地質】 平成 18 年 9 月 23 日 | 32 人 |
| | | 県立有馬富士公園 | 【新しい里山管理】 平成 18 年 11 月 19 日 | 42 人 |
| | | 県立一庫公園 | 【日本一の里山】 平成 18 年 10 月 22 日 | 36 人 |
| | | 神戸市産業振興センター | フォーラム『6・3・1 環境学習セミナーをふりかえろう』 平成 19 年 1 月 28 日 | 36 人 |
| 川 | 中間支援組織の協力を得ながら、NPO法人や企業等の環境学習の実施主体のネットワークを形成するため、希少種の保護・育成という共通のテーマに取り組む企業や大学、NPO法人、市町等と連携し、各施設を相互訪問し、現状を視察するとともに、今後の活動のあり方を考えるフォーラムを開催しました。 | 県立コウノトリの郷公園 | 【コウノトリ野生復帰に学ぶ環境学習】 平成 19 年 1 月 14 日 | 28 人 |
| | | キリンビール神戸工場 | 【企業と研究機関の協働による希少種保全と環境学習の取り組みを学ぶ】 平成 18 年 12 月 2 日 | 46 人 |
| | | 西宮市立環境学習サポートセンター | 【メダカのすむ水辺を考える環境学習】 平成 18 年 11 月 21 日 | 30 人 |
| | | キリンビアパーク神戸工場 | 【希少生物の保全に向けた環境学習の役割を考える】 平成 19 年 3 月 18 日 | 70 人 |
| 海 | 県立母と子の島などで、県民に自然や人々との暮らし、生き物にふれあうなど、海の環境とわたしたちの生活とのつながりについて体験してもらうとともに、兵庫県立大学生、兵庫県子ども会連合会、フロンティア会などで構成するサポーターに環境学習・教育の実践者、指導者として参画してもらう体験型環境学習・教育を実施しました。 | 県立母と子の島 | 【海から学ぶ環境教室】 平成 18 年 8 月 21 日～22 日 | 56 人 (うち、サポーターの大学生等 21 人) |
| | | | 【サポーター研修】 (プログラム企画、安全講習等) 平成 18 年 5 月～9 月にかけて 12 日間実施 | 21 人 (サポーターの大学生等) |
| | | 西宮市立甲子園浜自然環境センター | 【海の環境学習】 平成 18 年 6 月 11 日 | 40 人 (うち、サポーターの大学生等 13 人) |
| | | 相生湾 | 【わたしたちの生活と海】 平成 18 年 11 月 5 日 | 31 人 (うち、サポーターの大学生等 13 人) |

◇環境学習・教育を支える基盤の構築

環境学習・教育を実施する基盤を構築するため、ひょうごエコプラザやエコハウス（仮称）等の活動拠点の整備を進めるとともに、環境保全・再生に向け積極的に活動に取り組むエコプレーヤー等の人材育成を進めました。

＜ひょうごエコプラザの設置・運営＞

環境学習・教育の中核交流拠点として、①環境に関する様々な情報発信 ②環境活動を行っている団体・グループの交流促進 ③環境学習用器材の貸し出し、環境学習・教育コーディネーターによる相談対応による活動支援機能を有する「ひょうごエコプラザ」を設置・運営しています。

＜エコハウス（仮称）の整備＞

建物自体に導入している地球温暖化防止対策技術や映像、参加・体験学習プログラムにより、地球温暖化をはじめとする環境問題について、「気づき」「学び」「創造する」ことができる環境学習拠点として、「エコハウス（仮称）」の整備を進めました（平成19年度開館予定）。

＜エコプレーヤー指導者養成講座の開催＞

環境学習・教育の学び手が、教え手・つなぎ手として、環境学習・教育や環境保全の実践活動をリードすることができるよう「エコプレーヤー指導者養成講座」を開催し、指導者等の人材育成を進めました。

| 開催日時 | 開催場所 | 内 容 |
|--------------------------|---------------------------------|---|
| 平成19年2月17日（土） ～18日（日） | スペースアル ファ神戸 | 想像力を生かした環境学習プランの企画、立案を参加体験的に学ぶ講座を開催 |
| 平成19年3月10日（土） ～11日（日） | ニチイ学館 神戸ポート アイランド センター | 立場の違う人たちが集い、グループワークで活動企画を立案することにより、活動の視野を広げ、また、異なる人達をつなげる場として開催 |

◇実践活動を促す総合的支援策の推進

ひょうごエコプラザに、環境学習・教育コーディネーターを配置し、環境学習・教育に関する総合的な相談に対応するとともに、環境学習に関する情報の収集・提供、環境学習講師・サポーターの紹介等、県民のニーズに応じた環境学習にかかるコーディネートを行いました。

また、県内の環境関連施設等で、施設の職員などの指導員のもと、環境学習・教育を実施する小・中学校や団体等に対し、移動に必要な借り上げバス代を補助するなど、県民の実践活動への総合的な支援に努めました。

＜環境学習・教育コーディネーターによる相談対応件数＞

・4,213件

＜エコツーリズムバス経費の補助団体数等＞

| 種 別 | 補助団体数 | バス台数 |
|--------|-------|------|
| 一般分 | 224 | 229 |
| 小・中学校分 | 66 | 107 |

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向**(ひょうごの環境学習・教育の総合的推進)**

環境学習・教育を効率的・効果的に展開していくためには、幼児期からシニア世代までのそれぞれのライフステージに応じて体験を基本とする体系的なプログラムを内容とする環境学習・教育を展開していくことが必要です。

このため、各ライフステージにおいて、自ら「体験」「発見」し、自ら「学ぶ」環境学習・教育を進め、環境や生命を大切に思う“こころ”を育み、学習から実践へとつなげる事業を展開していきます。

特に、子どもの頃から自然のなかで、生命の大切さを知り、感性を養うことで、自分の生命の大切さを知れば知るほど、他者の生命の大切さも理解できるとともに、相手の状況や立場も理解する思いやりにもつながっていくものと考えられることから、幼稚園・保育所や小学校3年生において自然体験を通じた環境体験学習を地域住民をはじめとする多様な主体の参画を図りながら行うなど、参加体験型を基本に環境学習・教育を展開していきます。

(環境学習・教育の総合化・体系化)

環境学習環境教育推進本部・同地域推進本部を中心に効率的・効果的に事業を展開していくためには、地域における環境学習・教育の円滑な実施を支援する必要があります。

特に、幼児期や学齢期の環境学習・教育については、「地域環境学習コーディネーター」を各県民局に設置し、主体・人材・フィールド等の総合調整を進めます。

また、幼児期・小学生を対象とした地域で行われる環境学習と、幼児期に公園や自然の中で動物や花木に接するなどの自然体験をする「ひょうごっこグリーンガーデン」、学齢期には学校菜園や学校林などで自ら耕作や取り入れなどの環境体験活動を行うことにより、自然の一員であることを学ぶ「ひょうごグリーンスクール」事業との連携促進やさまざまな主体・人材のネットワーク化により環境学習の日常化を図るなど環境学習・教育の総合化・体系化を進めていきます。

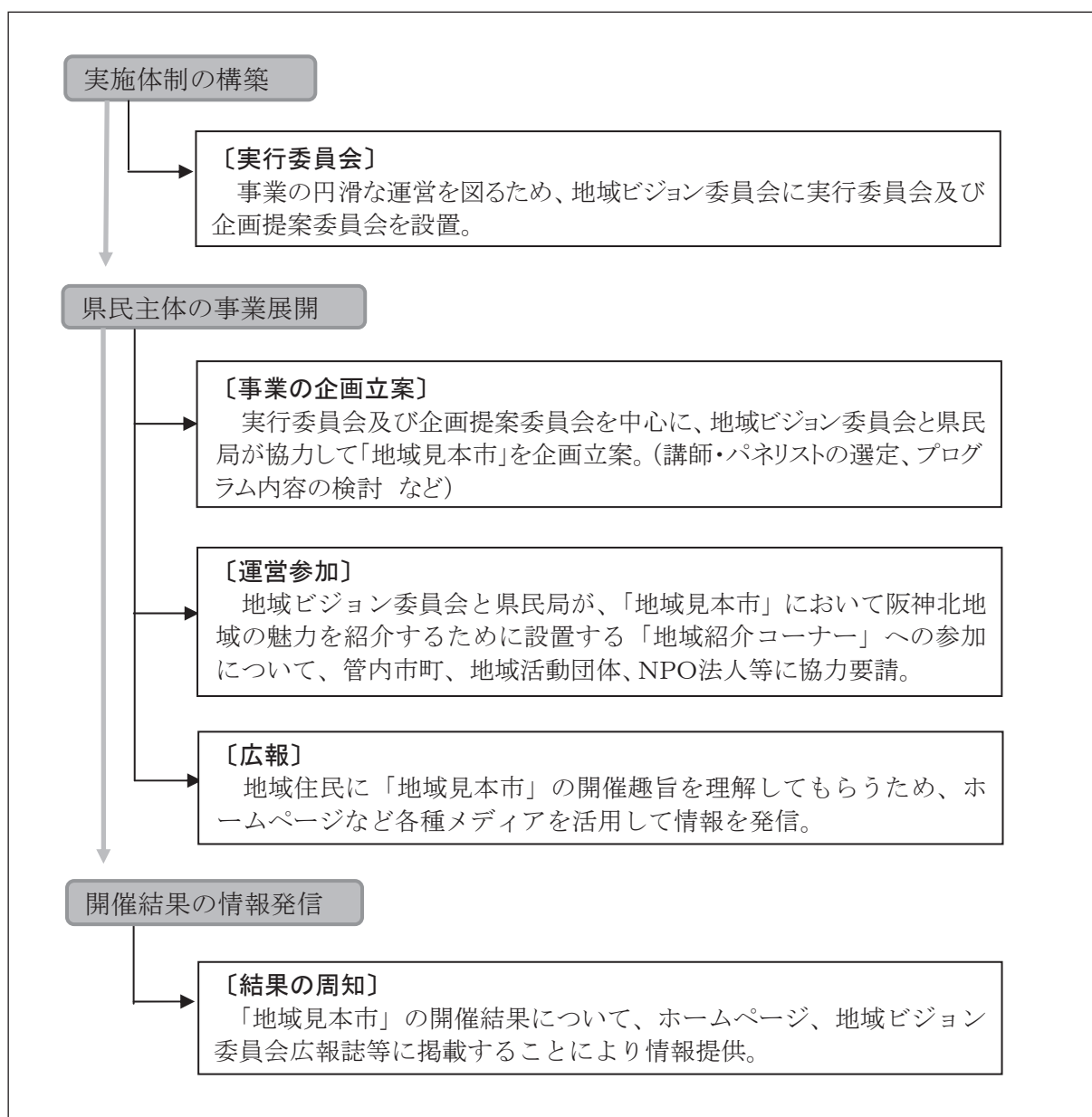
「地域見本市“地域ってこんなところよ、お父さん！”～知ろう、創ろう我がまちの魅力～」の開催(新)
(阪神北県民局)

事業概要

団塊の世代をはじめ、地域づくり活動の担い手として期待される各層に、自らの住む地域の良さや、人と人のつながりの大切さを再発見し、地域への愛着を持ってもらうことにより、潜在的な地域づくり活動の担い手の発掘につなげるため、地域の魅力を発信する「地域見本市“地域ってこんなところよ、お父さん！”～知ろう、創ろう我がまちの魅力～」を開催しました。

参画と協働の方法

地域ビジョン委員会（公募で選ばれた県民で構成）と県民局が協力して事業を展開するなかで、開催趣旨に共感する地域活動団体・NPO等の参加を得ることにより、本事業の目的である潜在的な地域づくり活動の担い手の発掘をより効果的に進めました。



参画と協働の実施状況

◇実行委員会等の開催状況

地域ビジョン委員会に企画提案委員会と実行委員会を設置し、地域見本市のプログラム構成、講師・パネリストの選定、広報の方法などについて協議しました。

| | 企画提案委員会 | 実行委員会 |
|-------------|-------------------------|---------------------|
| 開催回数 | 6回 | 6回 |
| 主な協議 内 容 | 講師・パネリストの選定、 プログラム構成 | ビジョン委員会としての協力 体制 |

◇地域見本市の開催

- 開催日：平成18年11月23日
- 開催場所：アステ川西（6階アステホール、5階コンパス80）
- 参加者・参加団体
 - ・ 参加者……約320人
 - ・ 参加団体……58団体

〔内訳〕伊丹市5団体、宝塚市10団体、川西市13団体、三田市11団体、
猪名川町4団体、ビジョン委員会5グループ、広域団体・行政等10団体

(地域見本市での役割分担の状況)

| | |
|--------|----------------------------|
| 実行委員会等 | 企画・提案、地域団体との連絡調整 等 |
| 阪神北県民局 | 会場の手配、設営、関係公共団体との連絡調整、広報 等 |

<内 容>

① シンポジウム

ア) パネルディスカッション

「地域ってこんなとこよ、お父さん！」をテーマに、地域の魅力や、退職後の地域での生き方、現役世代の地域づくり活動への結び付け方、仕事で培ってきたノウハウを地域づくり活動に生かす方法などについて、来場者も交えた形で活発な討論が行われました。



「パネルディスカッション」

(コーディネーター)

中瀬 勲氏 (県立人と自然の博物館副館長、兵庫県立大学教授)

(パネリスト)

堀江 忠司氏 (宝塚市中山台コミュニティ会長)

三井ハルコ氏 (特定非営利活動法人 市民事務局かわにし 副理事長)

福西 文彦氏 (社団法人 三田青年会議所 2007年度理事長)

イ) 講演

「肩書きをはずした時～あなたに何が出来ますか?～」をテーマに、定年後にどのような形で地域づくり活動にかかわっていったらよいか、また、地域づくり活動を通じての生きがいづくりなどについて、講演が行われました。

(講師)

堀田 力 氏 (弁護士、さわやか福祉財団理事長)



「講演」

② 地域見本市

ア) 阪神北地域の自然・文化・歴史の魅力紹介

ビデオ、写真・パネル等展示による「名所紹介」、清酒、菊炭等の展示及びイチジク茶、炭酸せんべい等の試飲・試食による「特産物紹介」、北摂歴史年表、宝塚映画祭等のパネル展示等による「歴史・文化紹介」を行いました。

イ) 阪神北地域の市民生活の魅力紹介

まちづくり協議会、自治会、シニアクラブ等の活動のパネル展示等による「まちづくり紹介」、緑化グループ、福祉グループ、消費・生活グループ等の活動のパネル展示等による「テーマ別地域づくり活動紹介」、阪神シニアカレッジ、ひょうごボランティアプラザ、各市町公民館等の「生きがいづくり施策紹介」を行いました。



「地域見本市」

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(潜在的な地域づくり活動の担い手発掘に向けた取り組みの継続)

今回、会場で実施したアンケート結果によると、パネルディスカッションでは約93%、講演では約98%、地域見本市では約87%の参加者が、「良かった」または「どちらかと言えば良かった」と回答されました。

また、参加団体からは、「このような場（自分たちの活動を紹介できる場、他団体の活動を見て学べる場、他団体と交流できる場）が欲しかった」「参加してよかった」との声が聞かれるなど、おおむね良好な評価を得ることができ、今後も継続して実施する必要性を感じました。

一方、今後の事業展開に当たっては、地域づくり活動に対する関心が低い方に、どのようなアプローチをしていくのか、また、参加団体間のネットワークをどのように構築していくのかなどの課題があります。

このため、有効な広報手段や参加団体同士のつながりの機会の提供方法の検討などを行いながら、本事業を一過性のものに終わらせることなく、継続的に展開できるように取り組んでいきます。

②活動を高め、支える

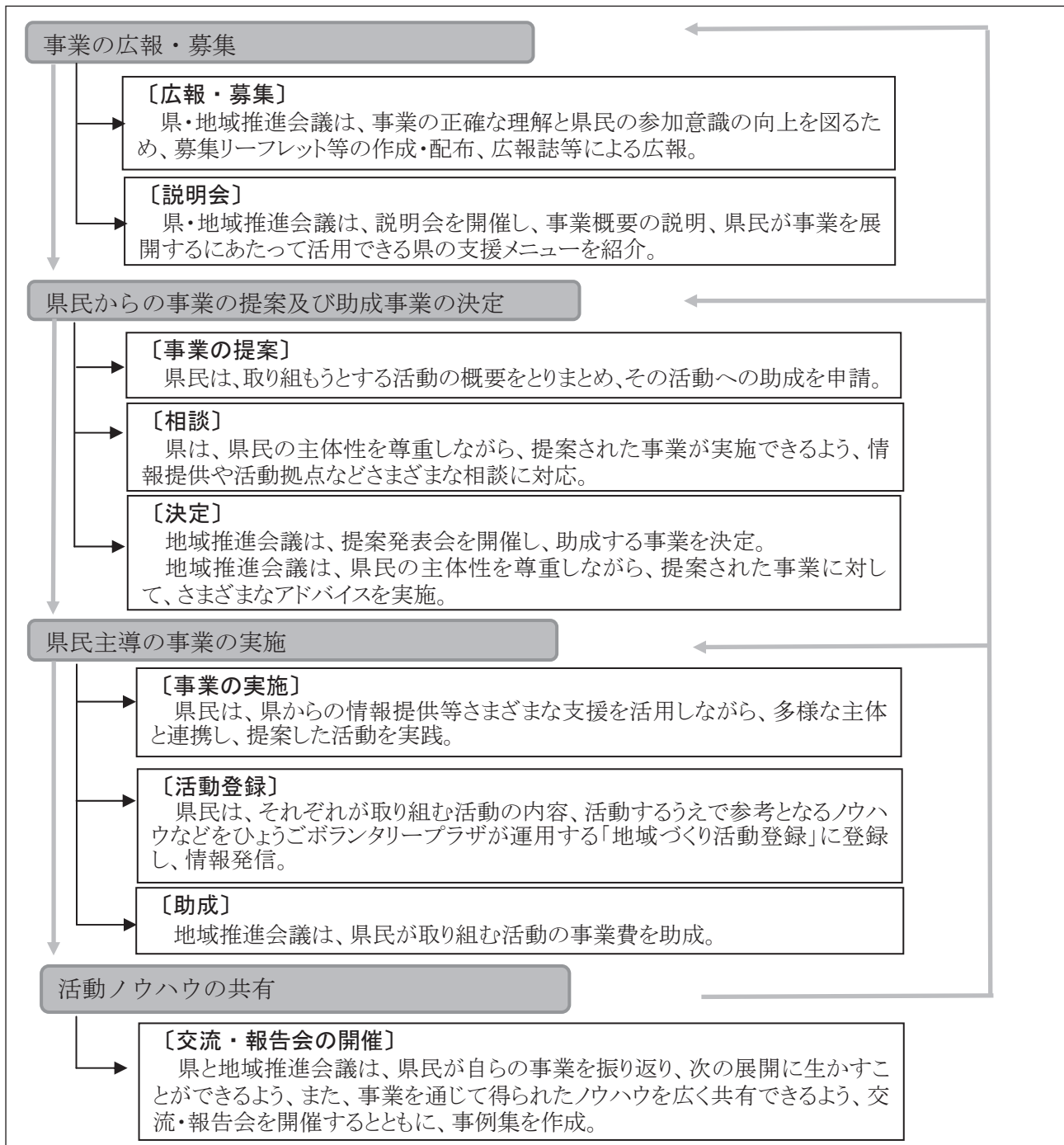
地域づくり活動応援(パワーアップ)事業 (県民政策部)

事業概要

地域団体(自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会等)が提案する、地域をよりよくするさまざまな取り組みの企画に対して、県民局単位で助成します。〔助成金額1件あたり50万円以内(中間支援組織である広域団体等(市町域を超える地域団体の連合組織等)による取り組みや市町域を超える活動拠点への支援については、1件あたり100万円以内)、各県民局1,000万円を限度とします。〕

なお、事業の実施にあたっては、より地域の主体的な取り組みを推進するため、県民局が、各地域における地域団体で構成するところ豊かな美しい地域推進会議(以下「地域推進会議」という。)に補助し、同会議が募集、助成決定、交流・報告会の開催等を行います。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

◇事業の企画・提案

- ・ 地域団体が企画した事業については、申請書類審査や公開の提案発表会等で審査し、助成する事業を決定しています。
- ・ 多様な団体とネットワークを組んだ取り組み提案が出るようにしています。
- ・ 応援事業を契機に構想レベルであった企画が実施されるなど、地域団体自らが、地域の課題を見つけ出し、自ら解決しようとする活動の呼び水となっています。

◇地域団体への県の支援

- ・ 助成が決定した事業について、地域団体の主体性を尊重した効果的な事業展開が図られるよう、各県民局において、各種支援メニューの提供や相談・助言など様々な支援を行っています。
- ・ 地域づくり活動サポーターなどがコーディネーター役となって、他団体との連携や協働を広げています。

◇ノウハウの共有等

- ・ 地域団体自らが、企画提案段階から事業実施まで取り組むことで、地域が抱える課題の発掘・再認識、その解決策を整理することが可能になり、協働する団体との調整、事業の実施ノウハウの蓄積ができるようになります。
- ・ 事業実施後、交流・報告会を開催し、助成を受けた団体に取り組みの概要や成果を報告いただくとともに、創意工夫された取り組みや多くの団体にとって参考となる取り組みについて、事例集を作成することにより、事業を通じて得られたノウハウを、多くの県民と共有しています。
- ・ 限定された地域における事業であっても、県民局がかかわることにより、そのノウハウをより広い地域や団体に伝え広げることができます。

◇県民局ごとの助成状況

平成 18 年度は、合計 475 件の申請があり、448 件（約 99,000 千円）助成しました。そのうち、広域活動枠の事業は、32 件（約 8,960 千円）となっています。

応援事業を活用し、各地で、地域団体等の創意工夫による様々な事業が実施されました。

(単位：件、千円)

| 県民局名 | 申請 件数 | 助成 件数 | 助成額 | 成果及び活動例 |
|------|----------|-----------|------------------|---|
| 神戸 | 51 | 48 (7) | 9,680 (1,490) | 地域の活性化や防犯関係の事業に加え、IT関連の事業やシニアの力を活用する事業が提案された。 ・住民の力で町を点検し、ユニバーサルマップ作成など、バリアフリー及びユニバーサルデザインの推進を図る事業 ・シニアの豊富な経験・技術を生かした、まちづくりサポートセンター事業 |
| 阪神南 | 48 | 37 (0) | 10,000 (0) | 管内全市の団体から幅広い分野の提案があった。特に、都市部特有の課題を踏まえた取り組みや地域団体の活性化はもとより、親子・世代・地域の交流をめざした事業が提案された。 ・子どもの手による子ども会を目指し、地域リーダー育成、出前指導者研修、子どもによる子どものための新聞等に取り組む事業。 |

| | | | | |
|-----|----|-----------|-------------------|---|
| 阪神北 | 57 | 57 (0) | 10,000 (0) | 管内全市町から幅広い分野の提案があり、特に子どもの健全育成や親子・世代・地域の交流に関する取り組みが多かった。また、管内の自然環境の保全・活用の取り組みについても、特色ある事業が提案された。 ・子どもたちが安全・安心・健全に成長できる環境を、おやじの立場で「できる事を、できる人が、できる時に」創り、親父の学校や地域社会への貢献の場を提供することを目的とし、親子家族のふれあい事業を企画運営する事業。 |
| 東播磨 | 63 | 59 (1) | 9,850 (50) | 各種団体から幅広い分野の事業提案があったが、特にまちづくりと子どもの健全育成の分野に関する取り組みが多かった。また、環境保全の取り組みについても、特色ある事業が提案された。 ・地域資源である「石打山」を活用し、町内会を中心に炭焼きの体験学習や、清掃活動を小学校などと連携して実施することで、地域の活性化を図る事業。 |
| 北播磨 | 50 | 49 (0) | 10,000 (0) | 管内全市町から幅広い分野の事業提案があり、昨年同様まちづくり分野の事業が多いが、近年の世相を反映して、子育て、地域防犯の取り組みが目立った。また、国体を盛り上げる事業も提案された。 ・地域の子どもと大人と一緒に植栽して「子ども110番見守りの街 小坂町」のロゴを入れたプランターを各家庭に設置してもらい、地域ぐるみで防犯活動を行う事業。 |
| 中播磨 | 69 | 62 (6) | 9,852 (1,320) | 福祉系の活動団体、防犯協会等の自主防犯組織からの申請が多くみられた。また、子育て支援、青少年健全育成に関する活動の申請も多くみられた。申請件数については、前年度とほぼ変わりはないが、1件あたりの申請額が減ってきており、団体側で事業について綿密に計画したうえで助成を申請している様子が見える。 ・国体の開催地であることから、夏祭りや、国体ボランティアの募集を行ったり、地場産業の革製品で国体の選手に記念品を作成するなど、地域で国体を応援し地域の活性化を図る事業。 |
| 西播磨 | 30 | 30 (5) | 9,447 (2,007) | おおむね、管内の全市町から、幅広い分野において事業提案があった。内容については、特にまちづくりに関する事業が多かった。 ・小学校5、6年生を対象に、県立母と子の島の沖にある松島(無人島)において、子どもたちが自らの手で水・食料を調達するなど、無人島生活を体験することにより、モノのありがたさや親から受ける愛情のありがたさを改めて認識させる事業。 |
| 但馬 | 43 | 43 (5) | 10,000 (1,150) | 本年度は子育て支援に関する取り組みについて優先することとしたため、子どもの健全育成(子育て支援)の分野での申し込みが多数あった。取り組み方法としては、いずみ会のように広域的なものから地域の親子を対象にしたものまで、様々だった。 ・サークル活動やリズム体操、人形劇等親子参加のイベントを通じて子どもたちの豊かな心を育むとともに、子育てに悩む親の手助けをする事業。 |
| 丹波 | 29 | 29 (3) | 10,000 (1,110) | 取り組み内容では、「地域の整備及び交流の促進」や「地区の歴史、史実の調査、編集」という内容の事業が多かった。 |

(1)地域づくり活動の支援に関する施策

| | | | | |
|----|-----|-------------|-------------------|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・校区内の通学路を子どもたちとともに公園化（花ももの植樹等）することにより、地域の交流を図る事業。 ・ふるさとに伝わる史実の調査と収録、パンフの作成、史跡にかかわる看板設営により、高齢者や離村者、地域住民や都市住民との交流を図る事業。 |
| 淡路 | 35 | 34 (5) | 10,000 (1,833) | <p>地域文化や郷土芸能などの振興を図る事業が多いことと、淡路地域では、従来、環境保全活動が活発で、特に平成18年度は、のじぎく兵庫国体が開催されたこともあり、会場周辺の植栽や花壇づくり等の取り組みが見られた。また、子どもの健全育成や高齢者の安全確保等地域安全に向けた取り組みも増えてきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成ヶ島の現状を調査し、自然観察本の発行や、学習会や「成ヶ島クリーン作戦」の実施等によりゴミを川、海に捨てない運動を実施する事業。 |
| 合計 | 475 | 448 (32) | 98,829 (8,960) | |

※助成件数及び助成額の（ ）内の数字は、広域活動枠事業に関するもので内数です。

◇助成した団体の活動内容の内訳

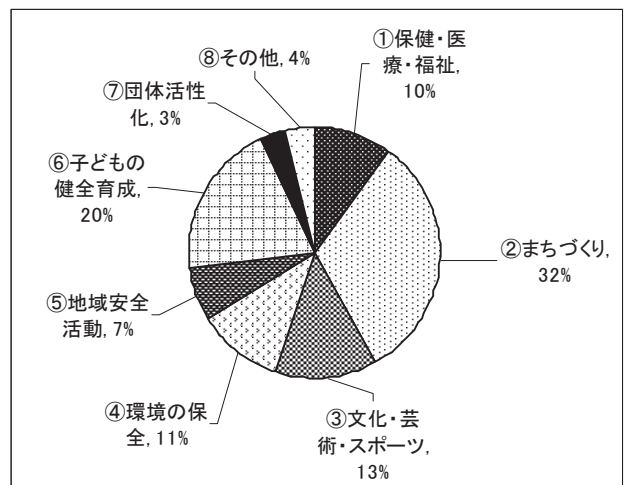
活動内容の内訳をみると、「新しい取り組み」が全体の約40%を占めており、本事業が地域の新たな課題に取り組む契機となっています。

| 活動内容の区分 | 15年度 | | 16年度 | | 17年度 | | 18年度 | |
|----------------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| | 団体数 | 構成比 | 団体数 | 団体数 | 構成比 | 構成比 | 構成比 | 構成比 |
| 新しい取り組み | 277 | 54.7 | 129 | 27.0 | 202 | 43.6 | 169 | 37.7 |
| 従前の活動を工夫した | 219 | 43.3 | 198 | 41.4 | 129 | 27.8 | 130 | 29.0 |
| 15年度助成事業の更なる展開 | — | — | 151 | 31.6 | 49 | 10.4 | 17 | 3.8 |
| 16年度助成事業の更なる展開 | — | — | — | — | 81 | 17.2 | 33 | 7.4 |
| 17年度助成事業の更なる展開 | — | — | — | — | — | — | 95 | 21.2 |
| 中断した活動を復活した | 10 | 2.0 | — | 0.0 | 5 | 1.1 | 4 | 0.9 |
| 合計 | 506 | 100.0 | 478 | 100.0 | 466 | 100.0 | 448 | 100.0 |

◇助成した団体の活動分野別内訳

応援事業を活用し、各地で幅広い分野の事業が実施されています。特に「コミュニティの再生」や「交流」などをキーワードに取り組む「まちづくり」の分野の事業が、全体の32%を占めています。

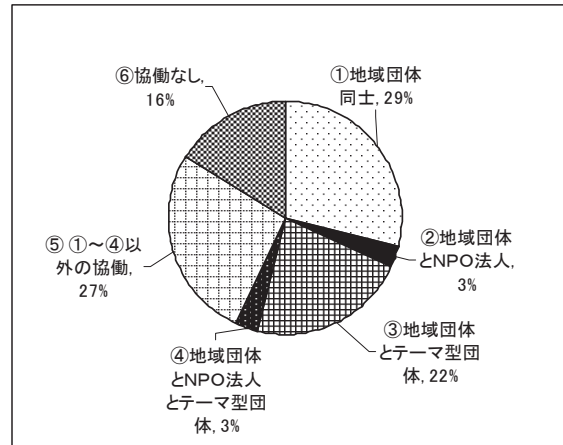
平成18年度は地域ぐるみの防犯活動が県内各地で活性化し、「地域安全活動」分野の取り組みが前年より増えています（17年度4.7%→18年度7.1%）。



◇助成した団体の協働の状況

地域団体と協働した事業が全体の約60%となっており、地域団体が地域の要として課題解決に取り組んでいることが分かります。

また、全事業の80%以上が、他の団体と協働した事業となっており、地域団体やNPO法人、テーマ型団体等の多様な主体による協働、ネットワーク・交流が進んでいます。



参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(より効果的な事業展開に向けた検討)

応援事業については、平成15年度に事業開始以来、平成18年度までの4年間で、合計1,898団体に助成し、毎年多くの新しい取り組みが各地で展開されるなどの成果を生んでいます。県民からも、地域住民が自ら考え実施する取り組みに対する助成事業として、地域課題への住民の意識の向上、コミュニティの形成、ネットワークの広がりにも寄与しているなど一定の評価を得ています。

一方、事業開始から4年が経過し、地域づくり活動支援における県・市町それぞれの役割や他の支援制度との関係等の観点から、事業のしくみを見直すことが課題となっています。

このため、助成団体や市町等の関係機関の意見を聴きながら、これまでの事業の効果を検証し、その結果を踏まえ、県民の発案に基づく主体的な地域づくり活動に対し、より効果的に支援できるような事業のあり方について、検討していくこととします。

(自律的な活動への支援)

地域団体等の創意工夫による自律的な活動をさらに広げるためには、地域団体等が助成を受けた後も、活動を継続できるよう支援するとともに、地域づくりを支える中間支援組織の育成を図ることが必要です。

このため、地域団体等が、事業の実施に至るまでの人的ネットワークの形成、活動資源(場所・資金等)の確保、事業のPR方法などの活動ノウハウを蓄積・共有することができるよう、地域づくり活動サポーターによる指導、助言、情報提供等を行っていきます。また、既存の中間支援組織の広域的な取り組みを支援するとともに、広域的な活動を行う中間支援組織になる可能性のある団体も併せて支援していきます。

さらに、団塊の世代が地域に帰ってくる時機を迎え、地域に根ざした活動を支える人材を育成し、地域力のアップを図るためにも、同様に自律的な活動への支援を進めていくこととします。

(ネットワーク化への支援)

これまでの協働の取り組みの多くは、地域団体同士の協働による取り組みでしたが、地域団体がボランティアグループやNPOと協働した取り組みや地域団体が各種専門家と協働した取り組みなど今までになかったネットワークが広がっています。事業を通して交流のなかった団体同士が出会い、連携し、事業を実施することにより地域や団体の活性化につながる場合もあります。また、最近では、多様な団体からの申請が増加しており、地域づくり活動の活性化を図るためには、こうした団体のネットワーク化のさらなる促進が必要です。

今後、地域団体同士はもとより、地域団体とテーマ型団体、NPO、企業といった多様な団体による協働の取り組みが、一層多彩に展開され、ネットワーク化による効果が図られるよう、地域づくり活動サポーターによる相談・助言等の支援を強化していきます。

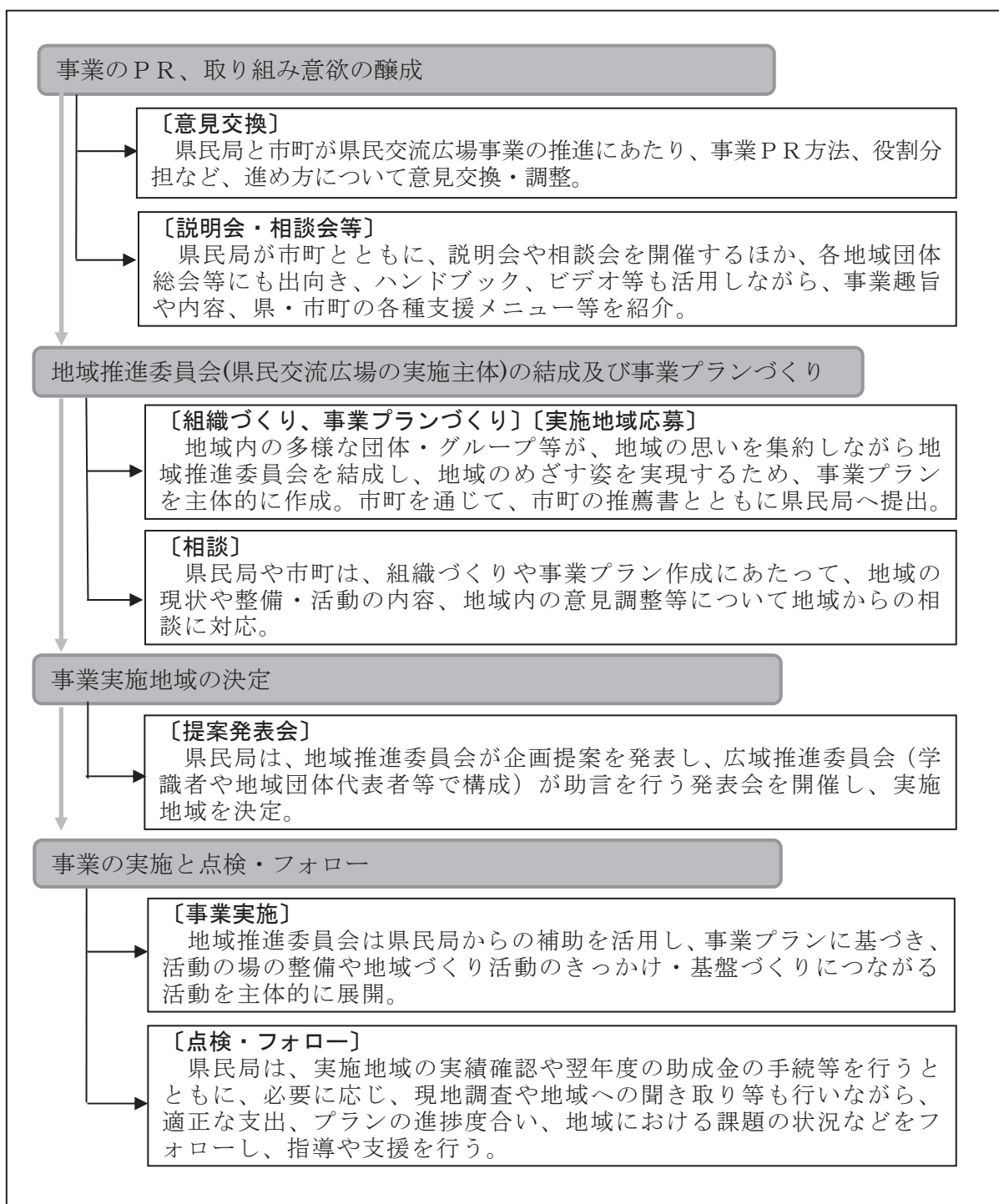
県民交流広場事業の展開（県民政策部）

事業概要

県民一人ひとりが、身近な地域を舞台に、多彩な分野で、実践活動・交流、生涯学習、情報収集・発信等に取り組むことができるよう、活動の場の整備と活動に要する経費の助成を行うとともに、地域コミュニティの担い手づくりや広場のネットワーク化を応援し、参画と協働によるコミュニティづくりを広げます。

参画と協働の方法

18年度事業については、下記のような進め方で、兵庫県（県民政策部、県民局）及び市町が連携して事業を推進しました。



参画と協働の実施状況

◇18年度事業の概要

- 対象地域 小学校区、小学校区の統合または分割による地域
- 実施主体 地域推進委員会（自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会、PTA、ボランティアグループ、NPOなどで構成された住民組織。まちづくり協議会等既存組織も可）
- 助成限度額 1 小学校区あたり
 - ・ 整備費 1,000万円（備品購入のみの場合1/2）
 - ・ 活動費 300万円
 - ※ 小学校区統合の場合、1校区の限度額×統合数（3限度）
 - ※ 小学校区分割の場合、1校区の限度額を分割
 - ※ 整備費・活動費間の配分変更特例あり（200万円限度）
- 助成方法 各県民局から地域推進委員会へ、おおむね5年間で分割して助成

◇18年度事業の実績

「参画と協働による地域コミュニティの再生・構築」という事業趣旨を実現していくため、これまでの2年にわたるモデル事業の検証を踏まえ、地域の実情により柔軟に対応できるよう、整備費・活動費間の配分変更を可能とするなど、事業のしくみの見直しを行い、平成18年度から本格展開しています。

平成18年度は、全県で95地区（104小学校区）が新たに採択され、平成16、17年度のモデル地区を含め、計131地区（142小学校区）で事業を実施しています。

〈実施地区一覧〉

| 県民局 | 市町名 | 実施地区 | |
|---------------|------|---------------------------|---|
| | | 16, 17 年度モデル事業 | 18 年度採択地域 |
| 神戸 【10地区】 | 神戸市 | ①長田区重池、②北区大原・桂木、 ③北区有馬 | ①中央区港島、②兵庫区熊野、③兵庫区夢野、④兵庫区川池、⑤長田区真野、⑥須磨区東落合、⑦垂水区塩屋 |
| | 尼崎市 | ①立花 | ①尾浜、②武庫第8、③園田南 |
| 阪神南 【13地区】 | 西宮市 | — | ①越木岩、②高木、③甲子園口、④東山台、⑤南甲子園、⑥瓦木・深津 |
| | 芦屋市 | ①大原、②西蔵 | ①潮見 |
| 阪神北 【18地区】 | 伊丹市 | — | ①稲野、②桜台、③天神川、④昆陽里 |
| | 宝塚市 | ①長尾台、②西谷 | ①宝塚第一、②高司、③逆瀬台、④小浜、⑤中山台ニュータウン |
| | 川西市 | ①川西北、②緑台・陽明 | ①加茂、②多田、③北陵 |
| | 三田市 | — | ①けやき台、②高平 |
| 東播磨 【10地区】 | 明石市 | — | ①松が丘、②王子、③藤江、④大久保南、⑤魚住 |
| | 加古川市 | ①西神吉 | ①別府町 |
| | 高砂市 | ①荒井 | — |
| | 稲美町 | ①天満南 | — |
| 播磨町 | ①播磨 | — | — |

(1)地域づくり活動の支援に関する施策

| | | | |
|---------------|-------|------------------------------|---|
| 北播磨 【10地区】 | 西脇市 | さくらがおか ①桜丘 | ほうた ①芳田 |
| | 三木市 | — | くちよかわ ほそかわ ①口吉川、②細川 |
| | 小野市 | しもとうじょう ①下東条 | おの ①小野 |
| | 加西市 | にしありた ①西在田 | とみた ①富田 |
| | 加東市 | — | かもがわ ①鴨川 |
| | 多可町 | やまと ①大和 | — |
| 中播磨 【18地区】 | 姫路市 | おおいち よべ ①太市、②余部 | じょうさい じょうほく やすむろ ひろはただいに おおつ ①城西、②城北、③安室、④広畑第二、⑤大津、 ⑥勝原、⑦八木、⑧花田、⑨谷外、⑩豊富 |
| | 神河町 | しんでん さくはた かわかみ ①新田・作畑、②川上 | かみおだ おちだにだいいち あわが おおやま ①上小田、②越知谷第一・栗賀・大山 |
| | 市川町 | — | せか かわなべ おぼた あまじ ①瀬加、②川辺・小畑・甘地 |
| 西播磨 【16地区】 | 相生市 | あいおい ①相生 | — |
| | たつの市 | かしま はんた ①香島、②半田 | おやけ いっさいひがし かみおか しんぐう むろつ ①小宅、②揖西東、③神岡、④新宮、⑤室津 |
| | 赤穂市 | — | さこし ほん ①坂越、②原 |
| | 宍粟市 | たかのす ①鷹巣 | かんの つたさわ ひじま しもみかた ①神野、②葛沢（2校区）、③土万、④下三方 |
| | 上郡町 | — | たかた ①高田 |
| 但馬 【16地区】 | 豊岡市 | なさ ①奈佐 | なかさじ あいはし ふくずみ てらさか きのさき ①中筋、②合橋、③福住、④寺坂、⑤城崎 |
| | 養父市 | せきのみや ①関宮 | みたに あぎの おさ ①三谷、②浅野、③小佐 |
| | 香美町 | — | おじろ ①小代 |
| | 新温泉町 | くとやま ①久斗山 | はるき へった はまさかみなみ はまさかにし ①春來、②八田、③浜坂南、④浜坂西 |
| 丹波 【9地区】 | 篠山市 | おくも おおやま ①大芋、②大山 | にしききた ①西紀北 |
| | 丹波市 | くろい しぐら ①黒井、②神楽 | とおさか よしみ かもしょう みわ ①遠阪、②吉見、③鴨庄、④美和 |
| 淡路 【11地区】 | 洲本市 | — | なかがわら つし ひろいし あいはら ①中川原、②都志、③広石、④鮎原 |
| | 南あわじ市 | あま いかり ①阿万、②伊加利 | しとり ①倭文 |
| | 淡路市 | えい ①江井 | たが しおた さの ①多賀、②塩田、③佐野 |
| 合計 【131地区】 | 36地区 | 95地区 | |

実施地域では、施設の整備やさまざまな活動を展開した結果、「拠点となる施設が広くなり、使い勝手がよくなった」「地域の課題に即した新たな活動がはじまった」「コミュニティ活動の回数や参加者が大きく増えた」といった整備や活動にかかわる効果はもとより、「地域づくりへの住民の関心が高まった」「世代間の連携・交流が進んだ」「地域団体・グループ間の連携が進んだ」「担い手づくりが進んだ」など、コミュニティの底力を高めるような成果や、さらには市町の取り組みの誘発効果も出始めています。

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

平成19年1月から3月に県民交流広場の実施地域や全市町に対するアンケート等により事業の点検を行いました。

その結果、回答のあった実施地域（104地区）の84%（108地区）及び全市町の85%（35市町）において、「県民交流広場がコミュニティの活性化につながっている」と評価しており、実施地域による自己点検の結果においても、地域ぐるみで開かれた広場運営がなされていることが顕れるなど、おおむね良好に事業展開がなされています。

一方、地域内での意思疎通・情報共有の仕組み、助成期間終了後の活動継続に向けた取り組み、人材の確保等の課題や、「他地域の情報提供や活動発展へのアドバイス・ノウハウ提供」等の要望もありました。

これらを踏まえ、以下のような取り組みを進め、引き続き、地域の自主性を尊重し、地域の意欲やプランの熟度をもとに、地域実情に即しながら、各県民局を中心に事業を展開していきます。

（事業趣旨や先進事例のPR）

県民交流広場事業は、単なる施設整備事業ではなく、地域活動の拠点となる施設の整備と活動の充実への支援を通して、地域自身による課題解決や誇りの醸成など、地域の元気や安心づくりを応援する事業です。

多くの地域でこの事業を活用していただき、元気な地域が増えていくよう、県民交流広場フォーラムなど様々な機会を通じて、これまで以上に事業趣旨を啓発していくとともに、活気あふれる先進地域の事例などを積極的に紹介していきます。

（継続的な活動への支援）

県民交流広場事業がめざすのは、「参画と協働による地域コミュニティの再生・構築」であり、広場事業が呼び水となって地域の活動が広がり、継続していくことが求められています。そのために、資金確保の工夫・事例の提供や他部局と連携した支援メニューの提供をはじめ、事業プラン作成や活動の展開などの各段階で、助言・アドバイスなどの支援を行う専門家（コミュニティ応援隊）の派遣、交流会の開催などを通じた広場間のネットワークづくり、さらに地域SNSなどのコミュニケーションツールの提供など、側面的な支援を展開します。

③活動をつなぎ、^{ひろ}拡げる

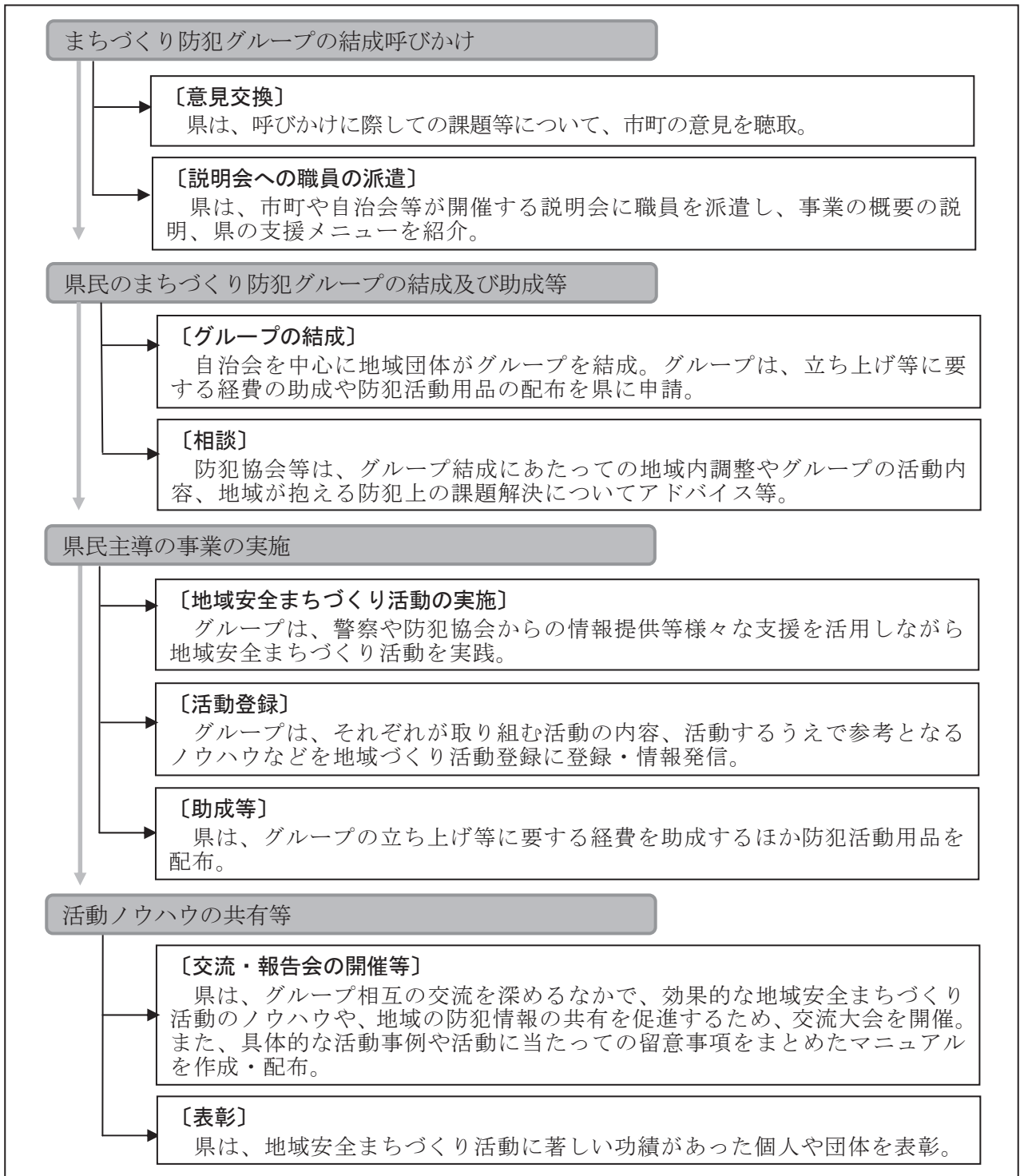
地域安全まちづくり事業（県民政策部）

事業概要

平成18年4月に施行された地域安全まちづくり条例に基づき、まちづくり防犯グループの立ち上げ経費の助成等による結成促進と活動支援に取り組むとともに、地域安全まちづくり推進員の設置や事業所における防犯責任者の設置促進などを通じて、県民、地縁団体等、事業者による地域安全まちづくり活動の一層の促進と定着を図り、県警察との連携のもと、安全に安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指します。

参画と協働の方法

進め方の一例として、まちづくり防犯グループの結成促進・活動支援の推進方策を提示します。

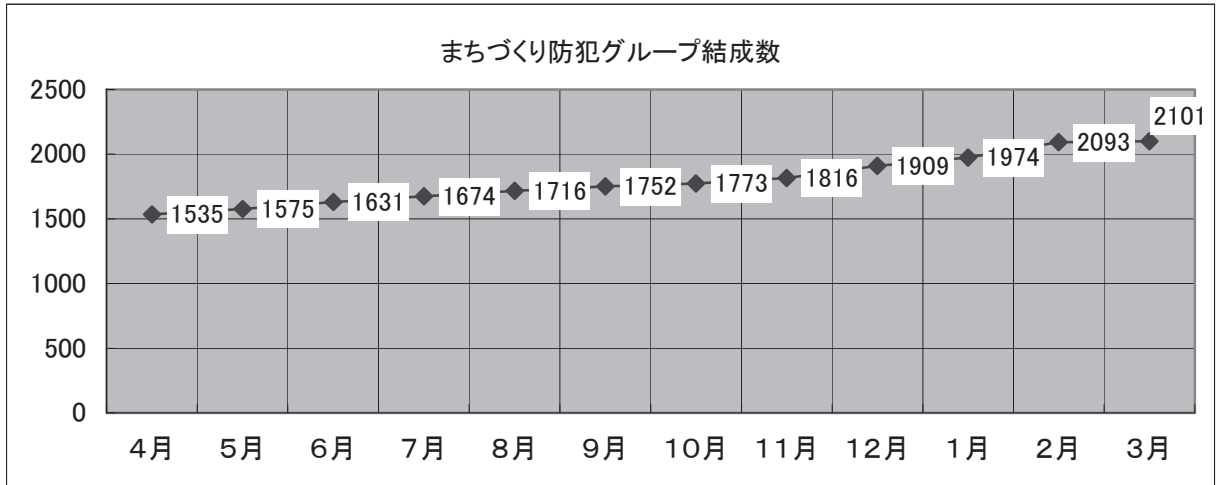


参画と協働の実施状況

◇まちづくり防犯グループの結成

平成19年3月末現在、2,101グループ（7,956自治会の区域で活動）が結成され、地域住民の参画と協働のもと、防犯パトロール、学童見守り活動、防犯意識の啓発活動等が展開されました。

防犯グループの結成件数は、平成16年10月の立ち上げ開始から順調に伸びており、自主防犯活動の輪は着実に広がりを見せています。



◇立ち上げ経費等の助成等

立ち上げ経費等助成では、立ち上げに要する経費のほか、防犯活動の充実・高度化に要する経費を幅広く助成の対象経費としており、グループの事情に応じて活用しやすいものとしています。

平成18年度中に719グループに対して立ち上げ等に要する経費を助成しました。

また、防犯活動用品の配布に当たっては、活動区域の世帯数に応じて、用品メニューから必要な用品を選択できるようにし、各々の活動内容に柔軟に対応しています。

- ・ 助成実績： 108,663千円



◇まちづくり防犯グループへの活動支援

グループの防犯活動を継続し、地域に定着させていくため、地域安全まちづくり活動のリーダーを養成する「防犯活動リーダー養成講座」の開催や、地域住民だけでは解決できない防犯上の課題の解決に向けて個別具体的に支援していく「まちづくり防犯グループ専門サポート事業」に取り組みました。

(防犯活動リーダー養成講座の開催状況)

| 開催日 | 開催場所 | 参加者数 |
|-------------|-------|------|
| 平成18年11月19日 | 西宮市役所 | 136人 |
| 平成18年11月26日 | 姫路市役所 | 100人 |

◇地域安全まちづくり活動の連携推進

まちづくり防犯グループ等の連携した取り組みを推進するため、平成18年度から、おおむね小学校区程度の区域内で、複数のグループ等がネットワークを構築し、協働して活動（事業）を実施する経費を助成しています。

平成19年3月末現在で、78のネットワークが結成され、これらに対し、3,723千円を助成しました。

◇ひょうご地域安全まちづくり活動賞の創設

地域安全まちづくり活動に対する県民意識の高揚を促すため、新たに「ひょうご地域安全まちづくり活動賞」を創設し、継続して活動に取り組み、犯罪の未然防止などに著しい功績があった個人7件、団体14件を表彰しました。

◇地域安全まちづくり活動マニュアルの作成

地域ぐるみで防犯パトロールなどの地域安全まちづくり活動に取り組むまちづくり防犯グループを支援するため、具体的な活動事例や活動に当たっての留意事項をまとめた「地域安全まちづくり活動マニュアル」をまちづくり防犯グループの代表者等に対して配布しました。

◇市町と県との連携

<本事業における市町の役割>

まちづくり防犯グループの結成に向けた地域への働きかけやグループの登録申請、立ち上げ経費等の助成申請、防犯活動用品の支給申請の一次受付を市町が担当しています。

<市町防犯担当課長会議等の開催>

市町の防犯担当課長を一堂に集めた市町防犯担当課長会議を開催し、まちづくり防犯グループの結成促進や活動支援について、17年度の事業実施結果を踏まえた市町の意見を聴取するとともに、相互連携の一層の強化について確認しました。

- ・実施日：平成18年9月28日
- ・参加者数：65人

◇地域安全まちづくり条例の施行等

まちづくり防犯グループを中心とする地域住民の参画と協働による地域安全まちづくりを促進するため、安全で安心な地域づくりに向けた取り組みの理念や県の具体的な支援等を規定した「地域安全まちづくり条例」を平成18年4月から施行しています。

また、同条例に基づき、地域安全まちづくり活動に取り組む県民が参画する「地域安全まちづくり審議会」の意見を踏まえ、県民が活動に取り組む際の具体的な方向性を示す「指針*」を平成19年3月に策定しました。

*「子どもの安全を確保するための活動及び措置に関する指針」「犯罪の防止に配慮した住宅及び住宅地の構造、設備等に関する指針」「犯罪の防止に配慮した深夜営業店舗に係る措置に関する指針」「犯罪の防止に配慮した道路等の構造、設備等に関する指針」と題する4つの指針です。

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

（「地域安全まちづくり推進計画」の策定及び地域安全まちづくり活動に関する「指針」の普及）

地域安全まちづくり活動は、県民の自発的・自律的な意思による主体的な活動であることが基本です。このため、平成19年3月に、条例に基づき、県民の皆さんが具体的な活動に取り組む際のガイドラインとなる「指針」を策定しました。今後は、同指針を積極的に活用いただけるよう、様々な機会を通じてその普及を図ります。

また、県民の皆さんの活動を支援する施策を総合的・計画的に実施するための「地域安全まちづくり推進計画」を策定（平成19年5月）し、全庁をあげて施策を展開します。

（まちづくり防犯グループの結成促進・活動支援）

「まちづくり防犯グループ」は、平成19年3月末現在、2,101グループ（7,956自治会の区域で活動）結成されており、立ち上げ経費等の助成や防犯活動用品の配布など結成促進のための支援により、結成件数は着実に増えています。

今後は、防犯グループが全県下で結成され、地域住民による自主的な防犯活動が展開されるよう、立ち上げ経費等の助成、防犯活動用品の配布、まちづくり防犯グループの事例発表会の開催など、引き続き、グループの結成促進・活動充実に向けた支援を行います。

（地域安全まちづくり推進員の委嘱）

地域の安全は県民自らの力で確保しようと、県内各地で数多くの防犯グループが結成され、地域ぐるみでの取り組みの輪が広がっています。こうした取り組みをさらに広げていくためには、県民の継続的な参画と協働が不可欠です。

このため、小学校区などのコミュニティ区域において、地域安全まちづくり活動の推進を図るため、自ら率先して地域安全まちづくり活動に取り組むほか、他の県民や機関との連携・協働の調整を行う県民を「地域安全まちづくり推進員」として委嘱し、その活動を支援します。

（事業所における防犯責任者の設置促進）

安全に安心して暮らすことができる地域社会の実現には、県民一人ひとりのみならず事業者も地域社会の一員としての自覚と責任を持って積極的に地域安全まちづくり活動に取り組んでいただくことが必要です。

このため、事業所内の防犯点検、改修（改善）の実施、地域の自治会等が行う活動との連携、関係機関との調整、事業所内の防犯体制の整備を行うリーダーとなる「防犯責任者」の設置を事業者働きかけ、その活動を支援します。

農村ボランティア活動の支援（農林水産部）

事業概要

地元住民と交流しながら棚田や水路、農道等の保全や農作業等共同作業を行う農村ボランティアの参加啓発・育成・派遣を行うことにより、棚田保全をはじめ農業の継続的な維持保全活動を支援するとともに、将来この活動を県民主体の活動とするために必要なNPO法人化など組織づくりや人の輪づくりを支援します。

参画と協働の方法

情報の提供

〔情報提供〕

県は、農村の地域情報や活動情報を収集し、県民へ冊子やインターネットを活用して情報を提供。

〔説明会の開催〕

県、市町は、農村地域集落の村づくりを支援する助成事業や支援体制づくりのための説明会を開催。

団体等の組織化に向けた調整

〔農村ボランティア支援事務局の設置〕

県は、農村ボランティアのPR、登録、育成、派遣を実施するとともに、NPOへの組織化へ向けた調整を行うため、兵庫みどり公社に農村ボランティア支援事務局を設置。支援事務局は、意見交換を行い、連携方法を考える。

〔地域活動の調整〕

県は、農村地域の集落や支援事務局と連携し、地域活動の調整・指導を実施。農村地域の集落は、受け入れ態勢を整備。支援事務局は、集落をサポート。

〔支援団体組織化調整会議の開催〕

県は、農村ボランティア支援団体の組織化に向け、既存NPO法人等が出席する支援団体組織化調整会議を開催。支援事務局は、意見交換を行い、連携方法を考える。

人材の育成

〔登録〕

県(兵庫みどり公社)は、申し込みのあった人等を農村ボランティアとして登録。

〔研修〕

県(兵庫みどり公社)は、希望者を対象に農村ボランティア活動リーダーを育成するための研修を実施。県民は、自主的に応募し、研修を受講。

実践活動の展開

〔ボランティア活動〕

県(兵庫みどり公社)は、派遣要請のあった集落に当該集落での活動を希望するボランティアの登録名簿を送付。集落は、ボランティア登録者に活動日時や活動内容を伝達し、参加を依頼。県民は、農村ボランティアとして派遣地で実践活動を展開。

参画と協働の実施状況

◇農村ボランティアの募集・登録

募集パンフレットの作成・配布、(社)兵庫みどり公社広報誌や県広報誌への掲載、募集説明会等を通じて、農村ボランティア募集の周知を図り、ボランティア登録を促進しました。その結果、平成18年度は、340人の登録があり、平成19年3月31日現在の登録者総数は、1,863人となっています。

<ボランティア募集説明会の開催状況>

| 開催月日 | 開催場所 | 参加人数 | 内 容 |
|-----------|---------------|------|---|
| 19. 3. 24 | 兵庫県学校 厚生会館 | 70人 | 農村ボランティア登録希望者に対して19年度に新規募集する地区の概要説明及び意見交換 |

※平成18年度に新規募集したボランティアへの説明会は、平成18年3月25・26日に開催しました。

◇農村ボランティア研修会の開催

新規募集集落等において、集落の情報や活動に必要な知識の習得を図るための「知識研修会」や草刈機・農機具の使い方等の習得のための「実技研修会」を22回開催(参加延べ人数:738人)したほか、活動する集落に関係なく参加を希望するすべての登録ボランティアを対象に、今後の活動を牽引していくリーダーを育成するための活動リーダー研修会を4回開催(参加総数123人)し、ボランティアの資質向上を図りました。

<知識研修会・実技研修会の開催状況>

| 開催月日 | 開催場所 | 参加人数 | 開催月日 | 開催場所 | 参加人数 |
|-----------|--------|------|------------|--------|------|
| 18. 5. 28 | 丹波市笛路 | 40人 | 18. 10. 28 | 上郡町小野豆 | 30人 |
| 18. 6. 7 | 佐用町西新宿 | 10人 | 18. 11. 1 | 佐用町西新宿 | 27人 |
| 18. 6. 25 | 丹波市笛路 | 40人 | 18. 11. 11 | 加東市平木 | 30人 |
| 18. 7. 1 | 加東市平木 | 21人 | 18. 11. 19 | 宍粟市生栖 | 26人 |
| 18. 7. 12 | 佐用町西新宿 | 30人 | 18. 11. 19 | 佐用町金子 | 65人 |
| 18. 7. 23 | 佐用町金子 | 96人 | 18. 11. 23 | 姫路市又坂 | 50人 |
| 18. 7. 30 | 佐用町西新宿 | 26人 | 18. 11. 25 | 上郡町小野豆 | 30人 |
| 18. 8. 27 | 宍粟市生栖 | 37人 | 18. 12. 16 | 姫路市又坂 | 48人 |
| 18. 10. 7 | 篠山市吹 | 15人 | 18. 12. 16 | 上郡町小野豆 | 30人 |
| 18. 10. 8 | 篠山市吹 | 15人 | 18. 12. 23 | 加東市平木 | 27人 |
| 18. 10. 9 | 篠山市吹 | 15人 | 19. 1. 27 | 上郡町小野豆 | 30人 |

<活動リーダー研修会の開催状況>

| 開催月日 | 開催場所 | 参加人数 |
|------------|--------|------|
| 18. 8. 26 | 上郡町小野豆 | 30人 |
| 18. 8. 27 | 宍粟市生栖 | 37人 |
| 18. 9. 23 | 上郡町小野豆 | 30人 |
| 18. 11. 19 | 宍粟市生栖 | 26人 |

◇農村ボランティアの主な活動状況

平成18年度は、延べ約3,000人の農村ボランティアが、39カ所の集落で、農村の人たちとともに、農作業や地域イベント運営補助などの活動に取り組みました。以下では、その主なものを紹介します。

| 集落名 | 集落の概要 | 活動内容 |
|---------------------|---|--|
| おのぞ 小野豆 (上郡町) | 山陽道龍野西ICから車で30分。標高300mに位置し山頂集落と呼ばれている。平家の隠れ里である。 | 延べ177人のボランティアが、集落の住民とともに、コンニャク等の栽培や畦畔等の草刈りを行った。 |
| ひらき 平木 (加東市) | 舞鶴若狭道三田西ICから車で20分。播州清水寺の麓に位置している。地元の有志が「平木ソバをつくる会」を設立。 | 延べ68人のボランティアが、集落の住民とともに、ソバの種まき、収穫を行い、ソバを食べながらの交流会を行った。 |
| ふえじ 笛路 (丹波市) | 舞鶴若狭道丹南篠山ICから車で20分。丹波の山ふところに抱かれた地域で、点在する農家と棚田が味わいのある景観をつくる。 | 延べ152人のボランティアが、集落の住民とともに、黒大豆、サツマイモの植え付け等を行った。 |



(草刈り作業：小野豆)



(ソバの刈り取り：平木)



(ボランティア知識研修会：笛路)

◇農村ボランティア活動情報の提供、交流、情報交換

登録ボランティアに、年4回、兵庫みどり公社の情報誌「ふるさと交流だより」により、農村ボランティアの活動状況やボランティア募集情報を提供するとともに、農村ボランティア交流会を開催し、優良事例の発表や今後の農村ボランティア活動について意見交換等を行いました。

<交流会の開催>

| 開催月日 | 開催場所 | 参加人数 | 内 容 |
|-----------|--------|------|---|
| 18. 8. 26 | 上郡町小野豆 | 30人 | ・活動リーダーと地元住民の交流 |
| 18. 8. 27 | 宍粟市生栖 | 37人 | ・活動リーダーと地元住民の交流 |
| 19. 1. 21 | 兵庫県民会館 | 55人 | ・農村ボランティア活動者及び農村ボランティア受け入れ地区の事例発表及び意見交換 |

◇農村ボランティア支援事務局の設置

農村集落とボランティアをつなぎ、農村ボランティア活動をコーディネートするため、兵庫みどり公社に「農村ボランティア支援事務局」を設置し、農村ボランティア制度のPRや登録、育成などを行っています。

◇支援団体組織化調整会議の開催状況

農村ボランティア支援団体の組織化に向け、農村支援活動等を行っているNPO法人との情報交換の場として「支援団体組織化調整会議」を開催し、今後の県や兵庫みどり公社との連携の可能性について、協議しました。

| 開催月日 | 開催場所 | 情報交換したNPO法人 | 参加人数 |
|------------|-----------------|-------------|------|
| 18. 11. 11 | 塚口さんさんタウン | 「ASUネット」 | 6人 |
| 18. 12. 18 | 神戸大学農学部地域連携センター | 「食と農の研究所」 | 4人 |
| 19. 1. 16 | 丹波の森公苑 | 「ほっと丹波」 | 4人 |
| 19. 3. 23 | 北神戸田園スポーツ公園 | 「里あそび」 | 4人 |

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(農村ボランティアの活動状況等の把握と活動促進)

農村ボランティアについては、平成9年9月の登録開始以来、会員数は着実に増加していますが、「集落まで遠い」「交通費が高くつく」などの理由から、登録はしているものの現在活動を行っていないケースが見受けられます。

このため、集落やボランティアにアンケート調査を実施するなど、個々の会員の活動状況や意向を把握し、活動していない方には再度、会員の意向に合った集落を紹介するなどにより、農村ボランティア参加の啓発を行い、積極的な取り組みを促します。

(農村ボランティア受け入れ集落の取り組みの再活性化等)

農村ボランティアを受け入れた集落の大半は、ボランティアによる継続的な取り組みにより、農作業負担の軽減や集落のにぎわい創出などの効果が上がっています。

一方で、一度はボランティアを受け入れ、取り組みを開始したものの、その後、参加するボランティアが減少したことから、活動が低調となっている集落や、住民の負担が増加したため、ボランティアの受け入れを休止した集落もあります。

これらの集落については、ボランティアを再募集し活動を希望するボランティアを確保するとともに、県が実施する中山間地域等直接支払事業や農地・水・環境保全向上対策事業などと連携を図ることにより、受け入れ集落における取り組みの再活性化や受け入れ休止集落における受け入れ再開を促します。

「いなみ野ため池ミュージアム創設」プロジェクトの推進（東播磨県民局）

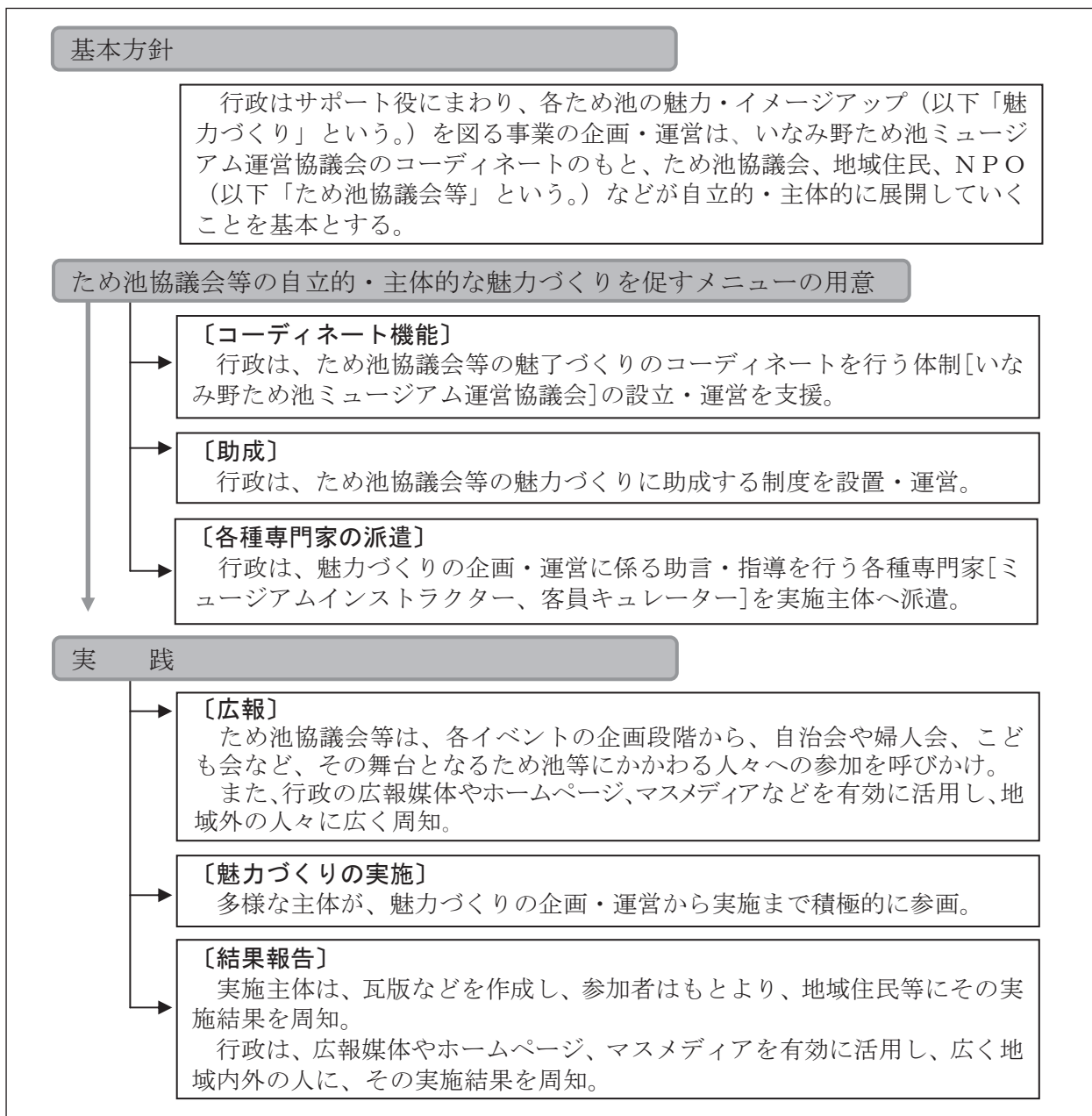
事業概要

ため池やそれを結ぶ水路は、東播磨地域を特徴づける貴重な水辺空間です。「いなみ野ため池ミュージアム」は、そのため池などを核として地域全体が“まるごと博物館”となる新しいふるさとづくりを地域の構成員すべての参画と協働によって進めていこうというものです。

平成18年度は、「個々のため池協議会」「ため池学会」「ため池塾」「いなみ野ため池博覧会」など、これまでの蓄積と成果を生かしつつ、より多様な主体が参画し協働できる場「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」を整備しました。ここを核に『魅力づくり』『体制づくり』『人づくり』『企画開発』をさらに強力に推し進め、中長期的・安定的なミュージアム運営の基盤を固めていきます。

参画と協働の方法

進め方の一例として、『魅力づくり』の推進方策を提示します。



参画と協働の実施状況

◇いなみ野パールプロジェクト

東播磨地域の固有種・ドブガイによる淡水真珠〈いなみ野パール〉づくりをとおして、水質浄化や地域づくりを実施しました。行政とため池管理者・地域住民が力を合わせて放流・メンテナンスを行いながら本プロジェクトを続けています。

〈実施場所〉

| 市町名 | ため池の名称 |
|------|--------------------|
| 明石市 | 納戸池・新池 |
| 加古川市 | 永室皿池、原皿池 |
| 高砂市 | 堂池 |
| 稲美町 | 天満大池・河原山池、満留池、加古大池 |
| 播磨町 | 北池 |

◇地域主導のプロジェクト推進組織の設置・運営支援

○ため池協議会

ため池管理者や地域住民が、各ため池などの維持管理・利活用に主体的・自律的に取り組んでいくための組織である『ため池協議会』を設置・運営するため、瓦版づくり、アンケート、地域集会、研修会、ワークショップ、イベントなどの取り組みを地域主導・住民主役で展開しています。

〈ため池協議会設置の状況〉

| 市町名 | 協議会の名称 |
|------|---|
| 明石市 | 釜谷池協議会、西島ため池協議会、黒星池ため池協議会、戸松池協議会、江井ヶ島ため池協議会、清水ため池協議会、長坂寺ため池協議会、柳井ため池協議会、松陰ため池協議会、松陰新田ため池協議会、金ヶ崎ため池協議会、清水新田ため池協議会 |
| 加古川市 | 峠池を考える会、寺田池を語る会、寺田池協議会、野田池なかよしの会、別府皿池の未来を考える会、神野 21C 水辺リフレッシュ推進協議会、野村池友の会、西牧ため池協議会、ながいけの会、志方／上・中・下の池ため協議会、レインボープラン水足ため池に親しむ会、畑谷池を守る会、山中ため池協議会、成井ため池協議会、布池協議会、ながむろ水辺ミュージアム、白助池協議会、横大路ため池協議会、高畑地域づくり協議会、新井用水に親しむ会 |
| 高砂市 | 堂池ため池協議会、阿弥陀新池ため池協議会、魚橋鴻ノ池ため池協議会、私池ため池協議会 |
| 稲美町 | アサザを育む会、天満大池ため池協議会、内ヶ池ため池協議会、和田新池公園協議会、梶ヶ池ため池協議会、おにおいたため池協議会、竜ヶ池につどう会、後池・天井池につどう会、琴池を愛する会、入ヶ池を愛する会、加古の池を愛する会、加古の池を愛する会／茨池・茨新池支部、加古の池を愛する会／八軒屋池支部、加古の池を愛する会／六軒屋池支部、播州葡萄の里ため池協議会、印西ため池協議会、千波池ため池協議会、蛸草地区ため池協議会、掌中橋保全協議会 |
| 播磨町 | かがやきの北池コミュニティ、大中狐狸ヶ池の会、妹池コミュニティ |
| 合計 | 58 協議会 |

○いなみ野ため池ミュージアム運営協議会

個々のため池協議会への活動支援やため池協議会間の連絡調整、さまざまな情報の集約・発信、人材発掘・育成、行政との調整等の役割を担う中間支援組織として、平成19年3月25日に「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」を設置し、多様な主体が持つ知識や技術、情報などの資源をより効果的に結びつけるなど、その運営を支援しています。

| | |
|--------|-------------------------------|
| 協議会構成員 | 地域団体、NPO、学識経験者、農協、行政など74団体で構成 |
|--------|-------------------------------|

◇講座『いなみ野ため池学』第4期の開設

ミュージアムに関連する各分野での専門的人材の発掘・育成を図るため、水辺を生かしたまちづくり講座を兵庫大学の正規カリキュラムとして開設しました。

- ・ 開設場所：兵庫大学
- ・ 内容：座学11回、フィールドワーク1回
- ・ 参加者：一般聴講生26名、その他兵庫大学生



◇いなみ野ため池博覧会の開催

平成18年10月21日から平成18年10月22日まで2日間にわたって、第28回兵庫県農林漁業祭とタイアップし「食・遊・観・学 みんな集まれ!」をテーマとした多彩なイベント(「催し」「展示」)を展開し、いなみ野のため池群と水路網の魅力や、本プロジェクトに参画する人々の姿を広く内外にアピールしました。

- ・ 開催場所：明石公園西芝生広場
- ・ 参加者数：約20,000人



◇ホームページの運営・管理

ホームページ『ため池王国・東播磨の挑戦～新たな地域づくり「いなみ野ため池ミュージアム」の創設をめざして』の運営管理を行うとともに、将来の「いなみ野ため池ミュージアム・バーチャル博物館」を見据えながら質的な充実を図りました。平成19年3月31日現在、約45,000人が閲覧されました。

◇教育機関・NPO団体との連携

ミュージアム創設に向けた活動を実践するグループ等への自然環境・地域文化・修景緑化・地域づくり等に係る指導、助言を行う学識者・専門家の派遣制度「ミュージアムインストラクター」「客員キュレーター」を設置・運営し、大学・高専・NPO団体等の関係者に積極的に登録してもらっています。

登録数：ミュージアムインストラクター152名、客員キュレーター26名

◇市町との連携

いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクトを連携・協力して推進する「いなみ野ため池ミュージアム推進実行委員会」を設置・運営し、その委員会のなかで市町との連携を図っています。

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向**(持続的発展可能な活動のための支援)**

今回のプロジェクトをきっかけとして、個々のため池における「協議会」に象徴されるように、地域のため池を次世代によりすばらしい姿で引き継いでいこうとする団体や、水辺の保全・活用に係る研究や実践活動を広域的に繰り広げていこうとするグループが生まれています。また、清掃活動や花壇づくりなど、魅力ある地域をめざした取り組みも数多く始まっています。このように地域全体としては、ミュージアム創設の機運は大いに高まっていますが、一方で、地域によって住民の意識や取り組みに差が見られます。

このような状況を踏まえ、平成 18 年度は、より多くの主体が連携しながら、自律的・主体的に活動を展開できるよう「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」を設置しました。

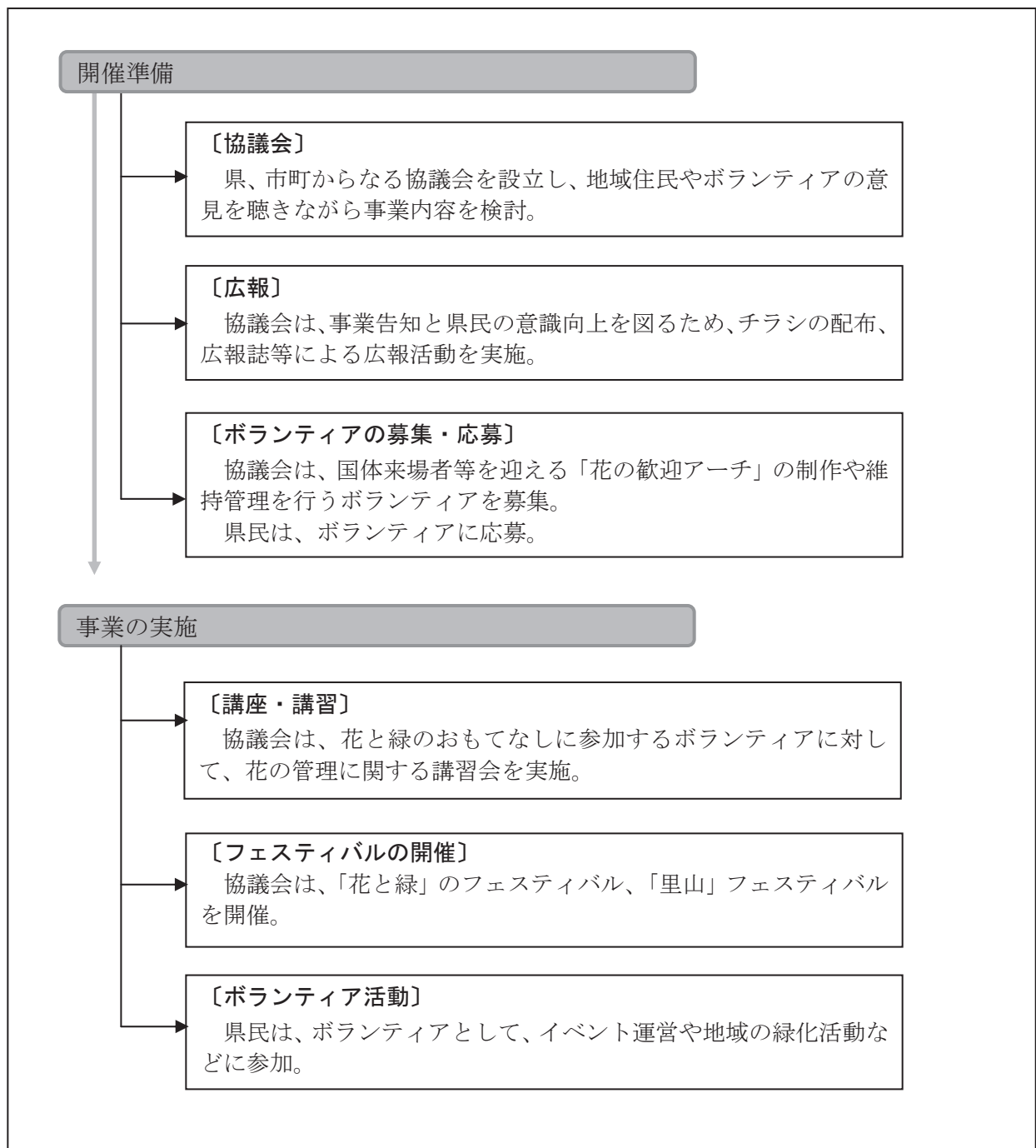
今後は、地域主導の協議会運営を促し、住民主体の取り組みとして持続的に発展するよう、多様な主体が持つ知識や技術、情報などの資源をより効果的に結びつけるなどの側面的支援を行っていきます。

花と緑の交流フェスティバルの開催(新) (北播磨県民局)

事業概要

平成17年度の「北播磨交流の祭典」の開催を通じて醸成された地域協働の取り組みを継承しつつ、新たな視点に立ち、北播磨の魅力である「花」と「緑」を一つのキーワードにして、北播磨の元気づくりを展開するため、地域住民、関係団体（地元NPO、ひょうごオープンガーデン開催機構など）及び管内各市町の参画と協働のもと、「花と緑」のフェスティバルと「里山」フェスティバルを開催しました。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

◇協議会の設置・運営

県、市町からなる協議会を平成18年7月5日に設置し、事業内容について検討しました。検討に当たっては、各市町が聴取した地域住民の意見を参考にしました。また、ボランティア募集後は、適宜、ボランティアの意見も聴取しながら、事業を進めました。

| 日時 | 検討内容 |
|-----------|------------------------|
| 平成18年7月5日 | ・事業計画について ・収支予算について |

◇「花と緑」のフェスティバルボランティアの募集・応募状況

各市町の国体会場に設置する花の歓迎アーチの制作、維持管理を行うボランティアを平成18年7月に募集し、約100人の応募がありました。

◇「花と緑」のフェスティバル

「花と緑」のフェスティバルでは、各市町の国体会場において、選手や監督を花と緑で出迎えるため、国体会場に設置する花の歓迎アーチの制作やプランターの維持管理など「花と緑のおもてなし」を行うボランティアに対して、アーチの制作及び花の管理方法に関する講習会等を実施しました。

また、オープンガーデン※に取り組む人の交流及び地域住民への情報発信を図るため、県下各地域のオープンガーデンの事例発表や意見交換を行う「花と緑のまちづくりフォーラム」を開催しました。

オープンガーデンフォーラムには、北播磨管内をはじめ兵庫県下でオープンガーデンや公共用地の緑化に取り組む約250人のボランティアなどが参加しました。

※オープンガーデンとは、個人の庭で行っているガーデニングを一般公開して、皆さんに楽しんでいただくもので、ガーデニングの本場イギリスで始まったものです。

<花の歓迎アーチ制作講習会>

- ・開催日：平成18年8月26日
- ・開催場所：小野市うるおい交流館エクラ（小野市）
- ・参加ボランティア数：約100人



(花の歓迎アーチ)

<花と緑のまちづくりフォーラム>

- ・開催日：平成19年3月10日
- ・開催場所：小野市うるおい交流館エクラ（小野市）
- ・参加ボランティア数：約250人



(オープンガーデンフォーラム)

◇「里山」フェスティバルの開催

「里山」フェスティバルでは、地域に多く存在する里山を舞台に、人々が自然とふれあう機会の創出と森林機能や森林保全の意義等を考える契機とするため、以下の事業を実施しました。

特に、「1,000人ハイキング」では、約70人のボランティアが、体験教室講師、道路案内などのイベント運営に取り組みました。



(里山イベント)

| 事業名 | 実施日 | 実施場所 | 参加者 |
|---------------------------------|-------------------|---|-------|
| ①自然とふれあおう！ フィールドビンゴ & ゲームラリー | 平成 18 年 8 月 16 日 | なか・やちよの森公園 | 30 人 |
| ②お月見コンサート&野点 | 平成 18 年 9 月 9 日 | なか・やちよの森公園 | 300 人 |
| ③播州秋祭り鑑賞と伝統、 味めぐり | 平成 18 年 10 月 8 日 | 杉原紙研究所～エーデルささ ゆり～播州糺屋稲荷神社～エ アレーベン八千代 | 30 人 |
| ④里山ふれあい祭り ～1,000人ハイキング～ | 平成 18 年 11 月 19 日 | なか・やちよの森公園 (当日雨天のため、申込数 1,000 人に対して参加者 600 人) | 600 人 |

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(花と緑の活動の継続に向けた支援の検討)

今回の花と緑の交流フェスティバルでは、「のじぎく兵庫国体」の開催に合わせて、多くのボランティアの協力を得ながら、花の歓迎アーチなどの「花と緑のおもてなし」を展開するとともに、花と緑のまちづくりフォーラムを開催するなど、北播磨の魅力である「花」と「緑」をキーワードに、地域が一体となって交流による元気づくりを推進することができました。

今後は、このフェスティバルを契機に盛り上がった地域連帯の機運を継続し、地域住民による自主的・自律的な公共花壇の管理やオープンガーデンの取り組みを定着させていくことが必要です。

このため、これらの取り組みが地域に根付いたものとなるよう、地域住民や団体とともに、地域の花と緑の活動などに対する効果的な支援のあり方を検討していきます。

コウノトリと共生する地域づくりの推進（但馬県民局）

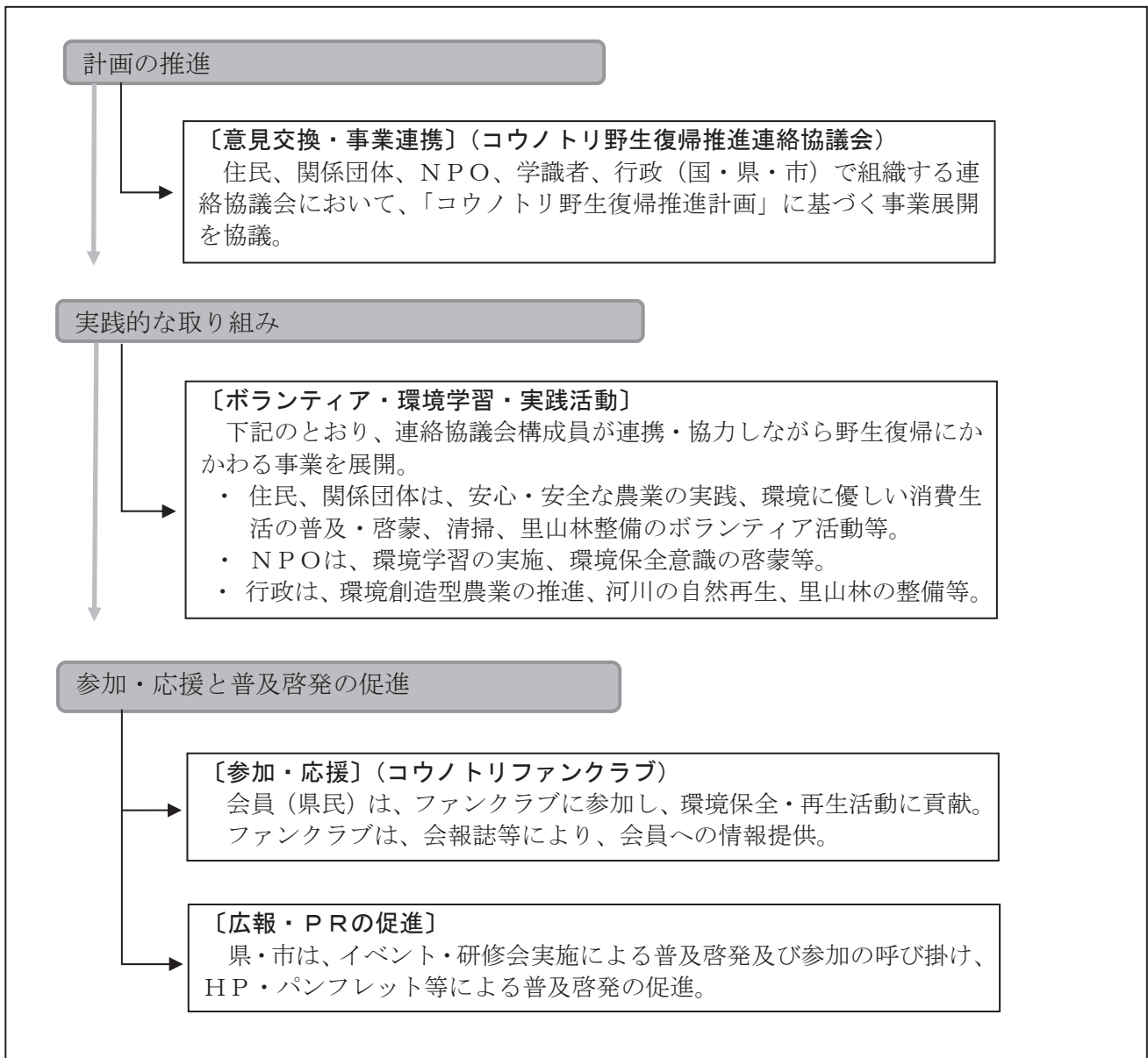
事業概要

昭和 46 年に我が国最後の野生コウノトリが、但馬の空から姿を消して以来、再びコウノトリを大空へ戻すために、行政と地域が一体となって保護・増殖の取り組みを進めてきました。

平成 15 年には放鳥に向けての具体的なアプローチを示した「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定し、計画に沿って平成 17 年 9 月に、5 羽のコウノトリを放鳥。34 年ぶりに但馬の空にコウノトリが舞いました。

放鳥を契機として、人と自然が共生する地域づくりをさらに広げていくため、安全・安心な農業、生態系豊かな河川の整備、人と共に生きる里山づくりなどを地域が一体となって推進しています。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

◇コウノトリ野生復帰推進連絡協議会の開催状況

- ・ 住民、関係団体、NPO、学識者、行政で組織する「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を開催し、野生復帰関連事業の連携や方策の検討などについて官民協働による事業の総合的な推進を図っています。

| | 時 期 | 内 容 |
|-----|-------------|--|
| 第7回 | 平成 18 年 8 月 | ・18 年度の各団体における事業活動の進捗状況及び連携方策について |
| 第8回 | 平成 19 年 3 月 | ・18 年度の各団体の事業・活動結果、19 年度の予定及び連携について ・コウノトリ自然博物館構想について |

- ・ コウノトリの野生復帰の取り組みに、より県民の理解を得るため、「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を公開し議事概要をHPに掲載しています。
- ・ 関係団体の具体的事業・活動を「コウノトリ野生復帰推進事業・活動一覧」としてとりまとめ、住民の参画と協働によるコウノトリと共生する地域づくりの普及啓発を図っています。

◇コウノトリファンクラブ事業の推進

- ・ コウノトリの野生復帰の取り組みに地域内外の理解と参加を得るため、平成 16 年 12 月にコウノトリファンクラブを設立し、自然環境の保全・再生に取り組んでいます。
- ・ 平成 19 年 3 月末会員数
一般会員 1,104 人 賛助会員 44 人

◇住民参加による具体的な取り組み

| | 内容 | 実施時期、実施回数 | 参加者数 |
|------------------------------|---|---|--|
| 転作田のビオトープ化・常時湛水稻作等環境創造型農業の推進 | 野生復帰を推進するうえで大きな課題は、餌場の確保である。農家の理解と協力を得て、転作田のビオトープ化や常時湛水稻作、有機栽培農法等の環境創造型農業の促進を図り、田園の餌場としての機能を確保している。 | H15 7.9ha H16 12.8ha H17 35.3ha H18 35.4ha | 94 人 94 人 283 人 284 人 |
| ボランティアによる里山林整備 | かつてのコウノトリの営巣地において営巣木を再生するため、森林ボランティアによる林間歩道・松林等を整備している。 | H15 5 回 H16 6 回 H17 8 回 H18 5 回 | 177 人 149 人 440 人 205 人 |
| 花いっぱい事業 | コウノトリの郷公園周辺の地域住民が主体となって「花のあるまちづくり」を進め、美しい風景、生活環境の整備を図っている。 | H15 4 区 H16 4 区 H17 4 区 H18 3 区 | 156 人 156 人 150 人 127 人 |
| クリーン但馬 10 万人大作戦 | 地域住民がより一層クリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬をアメニティに富んだ地域とするため、毎年、但馬全域の住民が参加する美化活動「クリーン但馬 10 万人大作戦」を実施している。 | H15 36 日 H16 38 日 H17 29 日 H18 141 日 | H15 69 千人 H16 68 千人 H17 77 千人 H18 114 千人 |
| 田んぼの学校等 | NPOのコウノトリ市民研究所では、生き物調査を通じて子供たちの環境に対する意識を高め、自分たちの生活環境を見直す、田んぼの学校等を実施している。 | H15 12 回 H16 12 回 H17 15 回 H18 14 回 | H15 1000 人 H16 1000 人 H17 1049 人 H18 1000 人 |
| 環境にやさしい消費生活の促進 | 但馬地区消費者団体連絡協議会では、「環境にやさしい消費生活」を推進するため、買い物袋持参運動をはじめとする「環境にやさしい買い物運動キャンペーン」を実施している。 | H15 5 回 H16 5 回 H17 5 回 H18 6 回 | H15 1134 人 H16 953 人 H17 1257 人 H18 1411 人 |

◇団体等の参加による具体的な取り組み

- ・ 民間事業者：たじま農業協同組合（安心、安全農産物の生産・販売促進）、円山川漁業協同組合（稚魚の放流） 等
- ・ ボランティア：コウノトリパークボランティア（コウノトリ行動観察支援） 等
- ・ 市民団体：NPO法人コウノトリ市民研究所（子どもたちへの環境学習）、コウノトリの郷営農組合（環境創造型農業の実践） 等
- ・ 全国からの参加応援：コウノトリファンクラブ（全国の人たちからの自然環境再生への支援）

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

（参加の促進）

平成17年、18年と2カ年にわたりコウノトリの放鳥を実施してきたところですが、平成19年秋には、さらに地域を拡大し新たな拠点からの放鳥が計画されています。

放鳥地域の拡大に向けて、餌場の確保となる水田のビオトープ化・常時湛水稻作等の環境創造型農業や河川の自然再生、また、営巣木確保のための里山林整備の推進、放鳥後のコウノトリのモニタリングなどについて、より多くの人々の理解と参加が必要となります。

このため、コウノトリ野生復帰推進連絡協議会を中心に関係団体や行政等の連携、コウノトリファンクラブの会員拡大等を図ることにより、本事業への地域内外の人々の理解と参加を促します。

（多彩な活動への支援）

「環境創造型農業の推進」「ボランティアによる里山林整備」「花いっぱい事業」「クリーン但馬10万人大作戦」「田んぼの学校」「環境にやさしい消費生活の促進」など、コウノトリと共生できる地域環境の発展に向け、地域住民、ボランティア、NPO、事業者など多様な主体の参画と協働による取り組みは着実に広がっています。今後、これらの取り組みを一層広げていくためには、それぞれの主体や活動内容に応じて、支援の方法を工夫することが必要です。

このため、引き続き、活動に必要な情報や場の提供、ネットワーク化など、各主体がそれぞれの特性を生かしながら活動に取り組めるよう、それぞれの取り組みごとに創意工夫をこらしながら効果的に支援していきます。

（全国に向けての情報発信）

コウノトリの放鳥後は、全国へ飛来していくことも予想されることから、全国に向けて、取り組みへの理解を呼びかけるとともに、全国からの来訪者に対して、地域の先導的な取り組みを紹介、体験してもらうことが理解促進には必要です。

このため、野生復帰の取り組みを分かりやすく情報発信し、体験してもらうためのしくみや来訪者が地域の人たちと交流できる『コウノトリ自然博物館構想』を推進します。

丹波大納言小豆の生産・消費拡大支援事業(新) (丹波県民局)

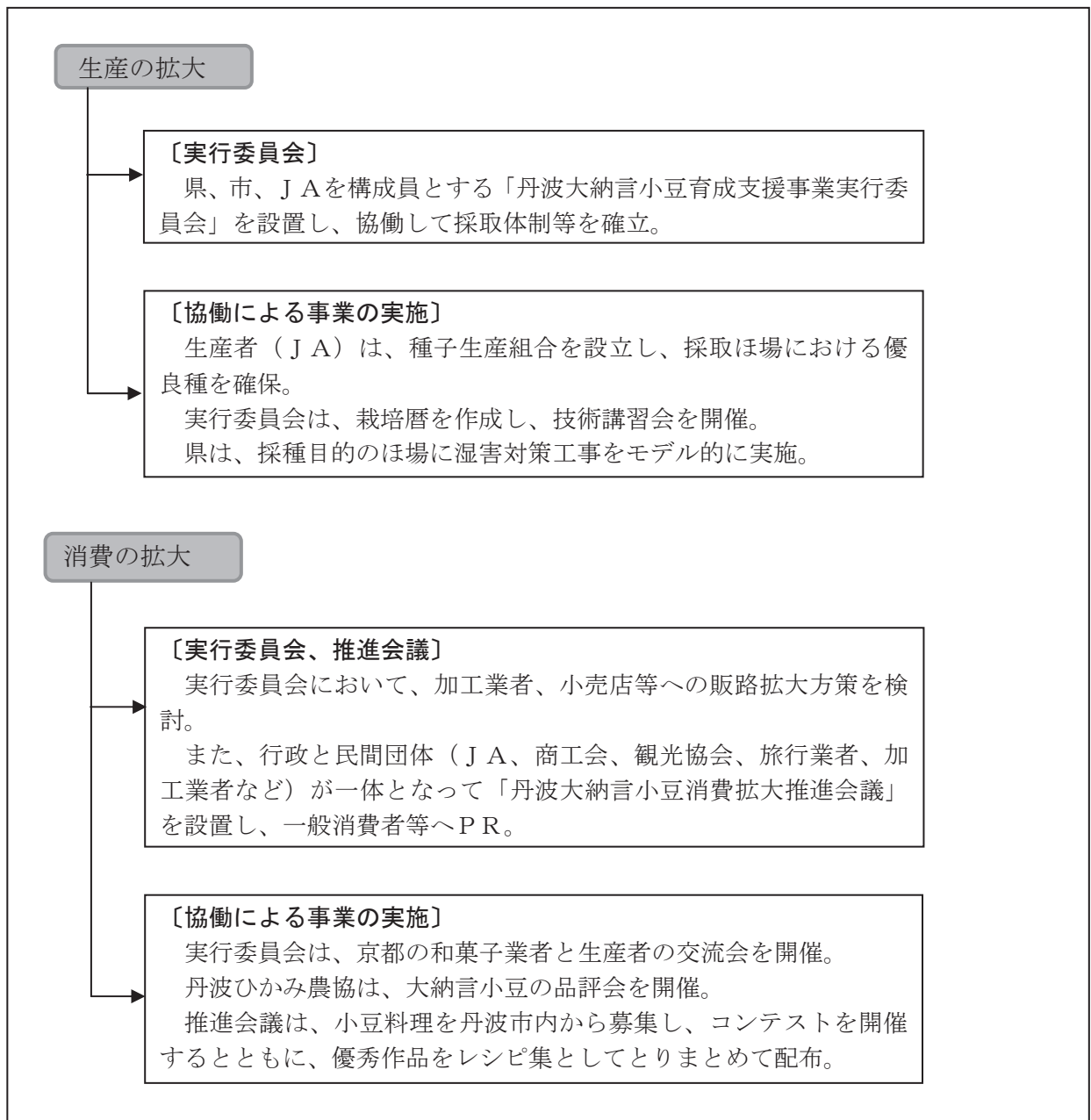
事業概要

丹波地域は、県内一の小豆生産量を誇り、特に丹波大納言小豆は高級和菓子等の材料として業界から高く評価されるなど、地域を代表する特産物となっていますが、生産量が少なく、消費に結びつきにくいといった課題があります。

このため、地域住民、民間団体（JA、商工会、観光協会、旅行者、加工業者など）の参画と協働により、丹波大納言小豆の生産と消費の拡大に向けた取り組みを進め、丹波地域の新たなブランドとして確立し、農業、観光、商業等との一体的な活性化を図ります。

参画と協働の方法

生産・消費それぞれの課題の解決を図るため、地域住民、民間団体、行政が一体となった実行委員会等を設置し、生産拡大や消費拡大に向け、議論を重ねながら、各種取り組みを進めています。



参画と協働の実施状況**◇丹波大納言小豆育成支援事業実行委員会の設置・運営**

丹波大納言小豆の生産と消費の拡大に向けた取り組みを、地域住民、民間団体、行政が一体となって進めるため、平成18年5月23日に「丹波大納言小豆育成支援事業実行委員会」を設置しました。

実行委員会では、単に生産量を増加させるだけでなく、優良種を確保しブランド力を高めるための方策について検討し、種子生産組合の設立(種の管理等)、栽培暦作成による技術講習会、モデルほ場の設置などを行いました。

また、加工業者、小売店等への販路拡大方策を検討し、和菓子業者と生産者の交流会や加工業者、小売店等に対するPR資材の作成などを行いました。

実行委員会構成員 11名 (会長：西田 政介 JA丹波ひかみ営農販売部次長兼振興課長)
(JA5名、市担当課長等2名、県企画調整部1名、県農林振興課長等2名・県普及センター1名)

<実行委員会の開催>

| | 年 月 日 | 内 容 |
|-----|---------------|---------------------------------|
| 第1回 | 平成18年5月23日(火) | 総会の開催 |
| 第2回 | 平成18年9月11日(月) | 経過報告(小豆業者と生産者のバス交流会等)、PR資材の内容検討 |
| 第3回 | 平成19年3月16日(金) | PR資材の報告、来年度の事業内容の検討 |

<実行委員会による具体的な取り組み>**① 種子生産組合の設立**

平成18年6月に国領丹波大納言小豆生産組合(会員26名)を設立し、優良種子の確保のため、種まき・収穫後の脱粒作業等を共同で実施するなど農家間の交流に取り組み、地域農業の活性化を促しました。

② 栽培暦作成・技術講習会

栽培管理手順などを記載した栽培暦を2,000枚作成し、栽培暦に基づいた技術講習会を4回開催しました。

平成18年度は天候不順であったことから、講習会では、JA、普及センターからも緊急営農情報を配布し、生育遅れに対する対応を普及指導しました。

③ モデルほ場の設置

生産拡大に向け、省力機械化実証ほ場*を設置しました。(密植栽培で機械収穫の検証*)

*省力機械化実証ほ場: 収穫等手作業で手間と時間がかかる作業をコンバイン等を使って機械化して収穫する方法を検討する実証圃。

*密植栽培で機械収穫の検証: 播種の際、播種密度を高め、従来の条間よりも幅を狭くして植えることにより、機械で収穫しやすくなり、手刈り収穫から機械化収穫への転換が図れる。また、安定多収生産技術の確立も図れる。

④ 京都の和菓子業者と生産者の交流会の開催

平成19年2月26日(月)に京都市下鴨 あずき処宝泉堂で、販売先と生産者との意見交換会を実施しました。当日は、丹波地域の生産者が一堂に会したことから、生産者相互間の情報交換等の場ともなりました。

⑤ 大納言小豆品評会の開催

平成18年12月3日(日)に丹波ひかみ農協本店で開催された、丹波ひかみ農協主催の農業振興大会において、丹波大納言小豆品評会を実施しました。優良生産者・団体の表彰と出品物の展示、和菓子業者からの提供による和菓子の試食配布を行いました。

◇丹波大納言小豆消費拡大推進会議の設置・運営

加工業者、小売店等だけでなく、一般消費者への丹波大納言小豆の普及、消費拡大に向けた取り組みを、民間団体と行政が一体となって進めるため、平成18年7月3日に「丹波大納言小豆消費拡大推進会議」を設立しました。

推進会議では、一般消費者への普及、消費拡大方策を検討し、小豆料理コンテストや小豆料理レシピ集の作成・配布を行いました。

| |
|---|
| 推進会議構成員 14名 (会長：柳川拓三 春日ふるさと振興株式会社社長) |
| (生産者2名、食育・健康1名、加工・販売5名、広報・集客3名、消費1名、行政2名) |

<推進会議の開催>

| | 年 月 日 | 内 容 |
|-----|---------------|---------------------------------|
| 第1回 | 平成18年7月3日(月) | 要綱・要領制定、会長・副会長選任、18年度事業計画・予算策定等 |
| 第2回 | 平成18年8月23日(水) | 長田・篠山・丹波の大バザール出展、各構成団体の取り組み協議等 |
| 第3回 | 平成19年3月12日(月) | 18年度活動報告、レシピ集の配布・活用方法、19年度事業計画等 |

<推進会議による具体的な取り組み>

① 小豆料理コンテストの開催

住民による新しい小豆料理の開発を通して消費拡大につなげるため、小豆料理コンテストを行いました。

市内各地の幅広い年代の方(小学生から70代の方まで)から応募(36名、56件)がありました。県立氷上高校ファッションクッキング部が優秀賞とアイデア賞をダブル受賞しました。

| | 年 月 日 | 内 容 |
|----------|-----------------------------|-------------------------|
| 第1回審査委員会 | 平成18年8月11日(金) | 募集方法、審査方法協議等 |
| 応募者募集 | 平成18年9月20日(水) ～10月31日(火) | 小豆料理コンテスト応募者募集 |
| 第2回審査委員会 | 平成18年10月19日(水) | 審査基準、2次審査詳細、レシピ集活用方策協議等 |
| 第3回審査委員会 | 平成18年11月2日(金) ～11月16日(木) | 小豆料理コンテスト第1次審査(書類審査) |
| 第4回審査委員会 | 平成18年12月10日(日) | 小豆料理コンテスト第2次審査(試食審査) |

② 優秀作品レシピ集の作成

小豆料理コンテストにおける優秀作品を掲載したレシピ集を作成し、推進会議構成団体や関係団体を通じて活用を図るとともに、消費者や家庭でも気軽に小豆料理が作れるよう希望者に配布し、また、県ホームページで発信しました。

◇丹波大納言小豆PRの展開

県民と一体となった実行委員会等の立ち上げやその事業等を広くPRするとともに、丹波大納言小豆そのものをPRするため、PR資材の作成やイベントでのPR等を実施しました。

① 取り組みPR資材の作成

のぼり・ポスター2種類・パンフレットを作成

② イベントでのPR

長田・篠山・丹波大バザール、全国駅弁とうまいもんまつり等都市部において、丹波大納言小豆を使用した菓子等加工品の販売や現物・パネル展示を行い、PRを図るとともに、ふれあいフェスティバル2006など地元でのイベントにおいても広報活動を行いました。

また、丹波大納言小豆の特徴等を紹介したチラシを作成し、上記イベント等で配布しました。

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(多様な主体による生産・消費の拡大に向けた取り組みの推進)

丹波大納言小豆の生産と消費の拡大に向けた取り組みを、地域住民、民間団体、行政など多様な主体が一体となって進めることにより、採種体制の確立や販路の拡大が図られ、丹波大納言小豆は丹波地域の新たなブランドとして認知されつつあります。

今後、地域の特産物として一層の浸透を図り、ブランドとして確立するためには、生産面では、実行委員会への生産者の参画や、高齢化している生産の担い手の確保が必要です。また、消費面では、知名度が十分ではない都市部の大消費地域や購買層(年齢層)に対し、より一層のPRに努め、日常の身近な食材として需要を掘り起こすことが必要です。

このため、生産面では、実行委員会のメンバーとして生産者にも参画いただき、ブランド確立に向けた取り組み方策を検討し、実施していきます。また、平成19年以降退職期を迎える団塊世代の帰農希望者を対象に栽培技術を伝承する講座を開催し、生産の担い手の確保を図ります。

また、消費面では、推進会議の構成団体がそれぞれの立場で取り組みを行うとともに、推進会議として一体的な取り組みも行い、また、今後はさらに連携を強め、調整を図り、創意工夫しながら一層の普及啓発に取り組んでいきます。さらに、丹波大納言小豆について、より多くの人に親んでもらえるよう、マスコットキャラクターを公募し、各種イベント等で広くPRしていきます。

あわじ菜の花エコプロジェクト推進事業（淡路県民局）

事業概要

淡路花博の開催により形成された「花と緑の島」としてのイメージのもと、休耕田や棚田等に菜の花を栽培し、観光資源として活用したうえで、菜の花から菜種油を精製して特産物とするとともに、廃食用油を回収してバイオ・ディーゼル燃料(BDF)等に再生利用することにより、地球温暖化防止、ごみの減量化と併せて公共水域の保全、大気汚染防止に取り組み、「資源循環型淡路島づくり」の実現をめざします。

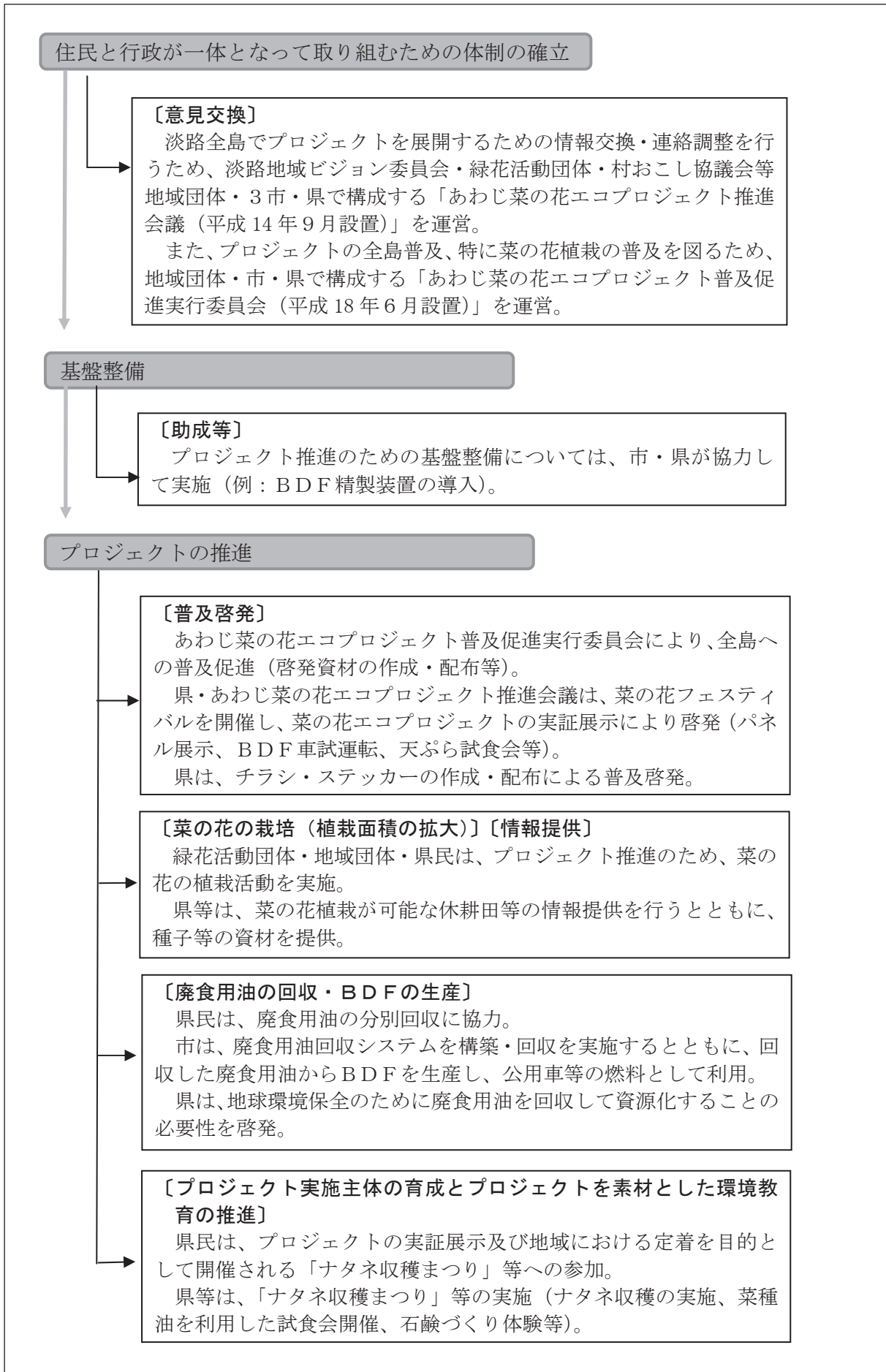
参画と協働の方法

(各主体の役割分担と推進計画の概要)

あわじ菜の花エコプロジェクトは、淡路地域ビジョン推進プログラムにおいて、県民行動プログラムと行政推進プログラムの両方に位置づけられており、住民主導の推進体制のもと、県民、行政など多様な主体が次のような役割分担により、地域が一体となり取り組んでいます。

| 区分 | 平成 17 年度まで | 平成 18 年度 | |
|----|--|--|--|
| 県民 | <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花栽培・収穫 ・菜種の搾油 ・廃食用油回収への協力 ・環境学習の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花栽培・収穫 ・菜種の搾油 ・廃食用油回収への協力 ・環境学習の実施 | |
| 行政 | 市 | <ul style="list-style-type: none"> ・廃食用油回収システムの構築・回収の実施 ・BDF精製機の設置・運用 (洲本市、淡路市：各1基) ・BDFの生産と利用（公用車に利用） ・環境教育の実施 ・2005・第5回全国菜の花サミット開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・廃食用油回収システムの構築・回収の実施 ・BDF精製機の運用 ・BDFの生産と利用（公用車等に利用） ・環境教育の実施 |
| | 県 | <ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の設置・運営（地域ビジョン委員会、関係団体、地域団体、県、市町等） ・BDF精製機設置補助（2基） ・普及啓発（チラシ作成、種子配布等） ・啓発イベントの実施（フォーラム、種まきの集い等） ・2005・第5回全国菜の花サミット開催支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の運営 ・普及促進実行委員会の設置・運営（地域ビジョン委員会、関係団体、地域団体、県、市等：菜種収穫用コンバインを導入） ・普及啓発（種子配布、ステッカー作成等） ・啓発イベントの実施（菜の花フェスティバル、ナタネ収穫まつり等） |

(具体的な手法)



| |
|------------|
| 参画と協働の実施状況 |
|------------|

| 項目 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 |
|-------------------|---|---|
| 推進体制 | 推進会議の運営 | <ul style="list-style-type: none"> 推進会議の運営 普及促進実行委員会の設置・運営 |
| 菜の花栽培 | 採油用種子を、市を通じて希望者に配布。 (町内会等 80 グループ) | 採油用・景観用種子を、市を通じて希望者に配布。 (町内会等 66 グループ) |
| 廃食用油の回収 BDFの生産 | <p>洲本市 (旧五色町) (廃食用油) 平成 17 年度回収実績：4,810 L (BDF) 平成 17 年度生産実績：3,990 L (BDFの利用状況) マイクロバス、トラクター 各 2 台 (公用車)</p> <p>淡路市 (廃食用油) 平成 17 年度回収実績：4,704.5 L (BDF) 平成 17 年度生産実績：3,520 L (せっけん) 平成 17 年度生産実績：100 L (BDFの利用状況) マイクロバス 6 台、ダンプ 5 台 (公用車)</p> <p>南あわじ市 (廃食用油・・・試験的に回収開始) 平成 17 年度回収実績：80 L</p> | <p>洲本市 ・旧五色町での回収に加え、旧五色町以外でも平成 18 年 8 月より順次、町内会単位での回収を開始。 (廃食用油) 平成 18 年度回収実績：6,244 L (BDF) 平成 18 年度生産実績：4,470 L (BDFの利用状況) マイクロバス 2 台、トラクター 2 台、ダンプ 1 台 (公用車)</p> <p>淡路市 ・旧東浦町での回収に加え、他地区でも平成 18 年 9 月から回収開始 (廃食用油) 平成 18 年度回収実績：6,882 L (BDF) 平成 18 年度生産実績：4,824 L (せっけん) 平成 18 年度生産実績：100 L (BDFの利用状況) マイクロバス 6 台、ダンプ 5 台 (公用車)</p> <p>南あわじ市 ・平成 18 年 3 月から各支所・出張所にて回収開始 (廃食用油) 平成 18 年度回収実績：170 L</p> |
| 普及・啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 種まきの集い 地元小学校児童を中心に実施。 ①平成 17 年 10 月 8 日淡路市岩屋 ：採油用 25 ㍓ ②平成 17 年 10 月 31 日洲本市五色町都志 ：景観用 30 ㍓ 菜の花種子配布 (採油用 12 ㍓分) 環境フェアの実施 (平成 17 年 11 月 23 日) プロジェクト実証展示コーナーにおいてナタネ油を使った天ぷら試食、菜の花の鉢植え講習会、BDF 車の実物展示等を行った。 参加者約 4,000 人。 あわじ環境立島まつり (菜の花フォーラム) の開催 (平成 18 年 3 月 25 日) プロジェクトに関する講演、パネルディスカッション等を行った。参加者約 200 人。 あわじ菜の花マップ 2006 年版の作成配布 | <ul style="list-style-type: none"> 普及促進実行委員会において「ナタネ収穫用コンバイン」を導入し、プロジェクト (特に菜の花植栽) の全島への普及を促進。 ナタネ収穫まつり 地域団体との相互協力のもと、地域の小学生の参加を得て実施。 ①平成 18 年 6 月 8 日洲本市五色町都志 洲本市都志小学校 42 名 ②平成 18 年 8 月 4 日淡路市岩屋 淡路市の小学生 70 名 ③平成 18 年 10 月 30 日洲本市五色町都志 洲本市都志小学校 111 名 菜の花種子配布 (景観用 8.4 ㍓、採油用 9.2 ㍓分) 菜の花フェスティバルの開催 (平成 18 年 11 月 23 日) プロジェクト実証展示コーナーにおいてナタネ油を使った天ぷら試食、菜の花の鉢植え講習会、BDF 車の実物展示等を行った。参加者約 3,600 人。 啓発ステッカーの作成配布 |

廃食用油の回収については、平成 17 年度には旧五色町、旧東浦町でのみ回収されていましたが、平成 18 年度中に、島内各市全域において回収システムが構築されました。今後は、自治会等の協力を得て回収拠点を増設することなどにより、さらに回収活動を推進していきます。

菜の花植栽面積

(単位: a)

| 平成 18 年春開花 (平成 17 年秋播種) | | | | | | 平成 19 年春開花 (平成 18 年秋播種) | | | | | |
|-------------------------|-------|-----|-----|-------|-------|-------------------------|-------|-----|-----|-------|-------|
| 市町 | 切り花 | 生食 | 採油 | 景観形成 | 合計 | 市 | 切り花 | 生食 | 採油 | 景観形成 | 合計 |
| 洲本市 | 30 | 20 | | 270 | 320 | 洲本市 | 100 | 170 | 492 | 865 | 1,627 |
| 五色町 | | 100 | 200 | 590 | 890 | | | | | | |
| 南あわじ市 | | 100 | 243 | 167 | 510 | 南あわじ市 | | 70 | 35 | 200 | 305 |
| 淡路市 | 1,303 | | 460 | 988 | 2,751 | 淡路市 | 1,200 | 100 | 470 | 1,300 | 3,070 |
| 合計 | 1,333 | 220 | 903 | 2,015 | 4,471 | 合計 | 1,300 | 340 | 997 | 2,365 | 5,002 |

採油用品種については、希望者に種子を配布するなどして、面積は増加しました。この種子配布は、プロジェクト本来の目的の一つである「菜の花からなたね油を精製する」という過程の取り組みを強化するため実施したものです。

このように、菜の花の植栽・廃食用油回収の両面から、資源循環型淡路島づくりに向けた取り組みは確実に進んでいます。

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(活動の普及啓発)

平成 18 年度は、プロジェクトの全島普及、特に菜の花植栽の普及を図るため、地域の村おこし実行委員会等、菜の花の植栽を行うことが可能な団体の参画を得て、「あわじ菜の花エコプロジェクト普及促進実行委員会」を立ち上げました。実行委員会では、菜の花の植栽面積を増やすため、菜種収穫用コンバインを導入しました。

また、地域団体との相互協力のもと「なたね収穫まつり」を開催し、なたねの収穫体験や、BDF車の試験走行などにより、小学生の環境学習を兼ねた普及啓発を行いました。さらに、平成 18 年 11 月 23 日に開催した「菜の花フェスティバル」では、資源循環型の公園島あわじづくりを目指すリサイクルセール・イン淡路会場において、プロジェクトの実証展示コーナーを開設し、なたね油を使った天ぷらの試食や、菜の花の鉢植え講習会、BDF車の実物展示等、実際にプロジェクトの内容を体験してもらった形で普及啓発を行い、好評を得ました。

今後も引き続き、プロジェクトを推進するうえで、住民の参加を得ることが不可欠な菜の花栽培・廃食用油回収活動について、より一層の参加と協力が得られるようなイベント等を通じて普及啓発を行います。

(住民主導で継続できる推進体制の構築)

平成 18 年度は、菜の花の栽培を普及させるため、種子配布を行うとともに、収穫作業の負担を軽減するため、菜種収穫用コンバインを導入しました。また、収穫した種子については、洲本市が平成 19 年度中に導入する搾油機を利用することにより、搾油することが可能となります。このような施設整備により、栽培から搾油までの流れが島内で完結するため、これらを住民が利用し、なたね油などの特産品づくりを行えるよう、活動を支援します。

また、廃食用油の回収については、町内会単位での回収への協力が順次行われ、平成 18 年度中に島内全市において回収システムが確立しました。

今後も、町内会等の協力を得て回収拠点を増設することなどにより、住民がより参加しやすいシステム作りを進めていきます。これらを通じて、住民主導で恒久的に継続していくことのできる推進体制の構築に取り組んでいきます。

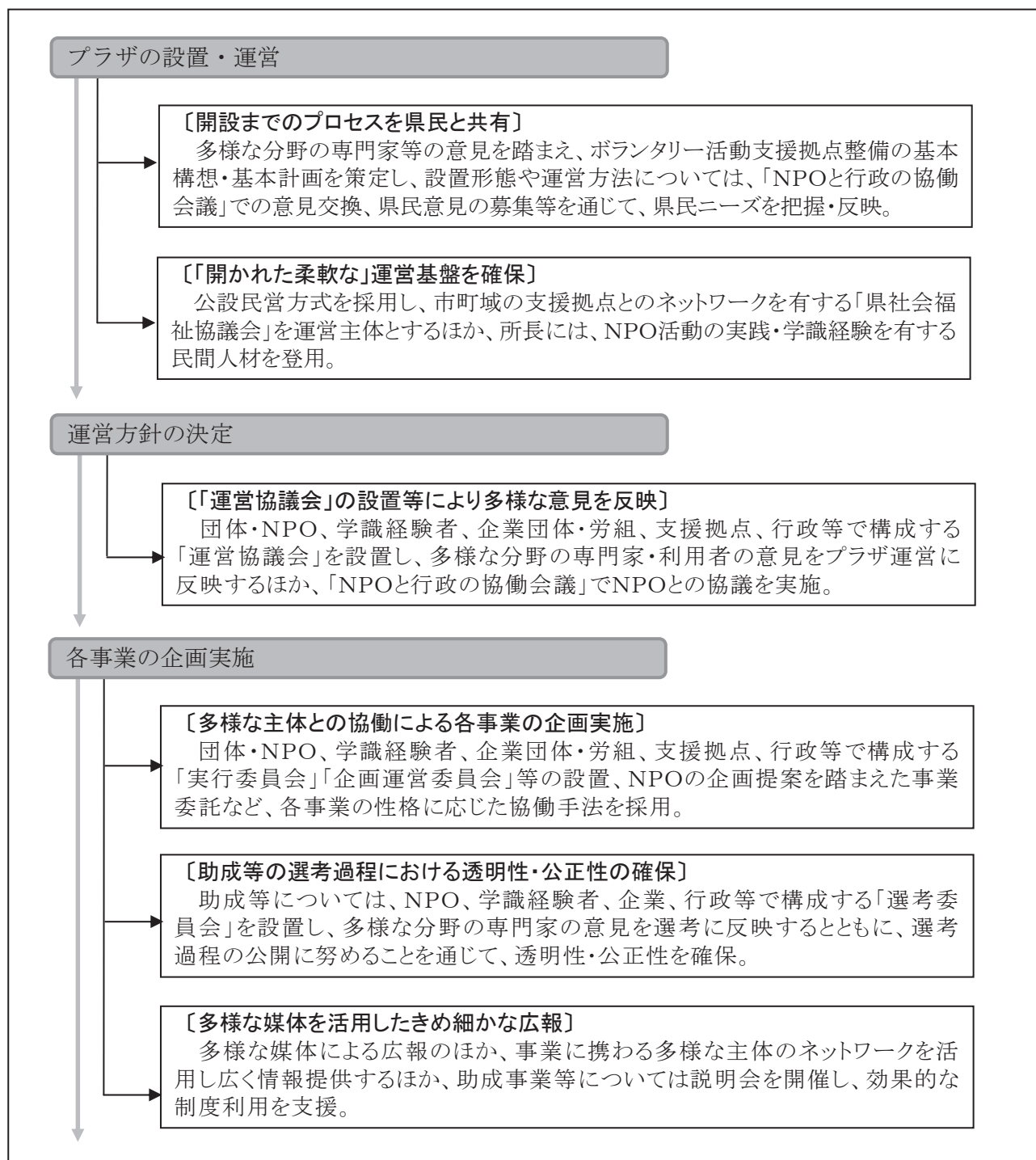
ひょうごボランティアプラザの運営（県民政策部）

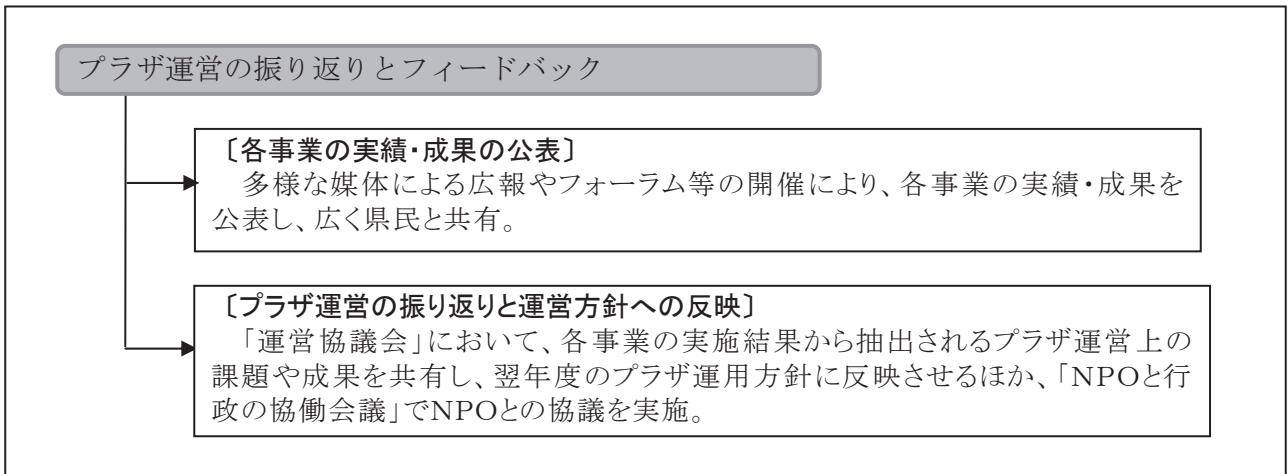
事業概要

①市民自律社会を支えるアクティブ・シチズンシップ（主体的・能動的市民参加）の形成②NPO等・企業・行政のパートナーシップの確立を図るため、県民ボランティア活動の全県的支援ネットワーク拠点「ひょうごボランティアプラザ」を設置し、基盤的・総合的な支援を展開しています。

[コンセプト] 地域支援拠点・中間支援組織に対する支援、県域の情報ネットワークの基盤強化等
[支援機能] ①交流・ネットワーク②情報の提供・相談③人材養成④活動資金支援⑤調査研究

参画と協働の方法





参画と協働の実施状況

1 プラザの支援体制

◇諮問機関「運営協議会」の開催

運営協議会において、プラザ運営の基本事項を協議し、多様な分野の専門家・利用者の意見を反映するよう努めています。

| | 運営協議会 | 運営協議会幹事会 |
|--------|--|--|
| 役割 | 次の事項を協議し、プラザ所長に建議 <ul style="list-style-type: none"> ・プラザの事業計画の企画・執行 ・プラザの予算の大綱 ・プラザの施設利用 ・プラザの機能 ・その他プラザ運営に関すること | プラザの個別事業・個別課題を協議し、プラザ所長に建議 (必要に応じて運営協議会で協議) |
| 委員構成 | NPO・地域団体関係者、学識経験者、企業団体・労組、マスコミ関係者、支援拠点、行政等 23 名 | NPO関係者、学識経験者、企業団体、マスコミ関係者、支援拠点、行政等 9 名 |
| 開催回数 | 2回／年度 | 2回／年度 |
| 主な協議内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○18 年度事業進捗状況等 (のじぎく兵庫国体等含む) ○18 年度事業報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・プラザの利用状況 ・ボランティア基金の管理運営と助成 ・災害救援ボランティア活動支援 ・ボランティア活動資源マッチングシステム ほか ○19 年度事業計画等 <ul style="list-style-type: none"> ・のじぎくボランティアネット設置 ・団塊世代等地域づくり活動きっかけづくり支援 ・団塊世代等地域づくり活動支援NPO等ネットワーク ・ボランティア基金助成 ・NPO法人実態調査 ほか | 左記事項に係る個別事業・個別課題 |

◇プラザを中心とした県域の支援拠点ネットワークの構築

○地域別・分野別の支援拠点ネットワーク「ひょうごボランティア活動支援ネット」

プラザを中心とした分野別・地域別の支援拠点が、互いに顔の見えるネットワークを構築し、地域の課題・活動の実態及び各支援拠点の体制・事業に関する情報共有や意見交換を行う場として「ひょうごボランティア活動支援ネット」を設置しています。

| | |
|----------------|--|
| 分野別の支援拠点ネットワーク | 高齢者生きがい創造協会、青少年本部、ひょうご環境創造協会、兵庫県労働者福祉協会、男女共同参画センター、神戸生活創造センター ほか |
| 地域別の支援拠点ネットワーク | 市区町社会福祉協議会ボランティアセンター、中間支援NPO、公民館、地方青少年本部、生活創造情報プラザ等、県民局（地域づくり活動サポーター、地域協働推進員） ほか |

○災害時の支援拠点ネットワーク「災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議」

プラザが中心となり、災害救援ボランティアが最大限の力を発揮できるよう、その支援に当たる関係機関がネットワークを形成し、相互の役割・機能の明確化及び支援方策の検討・確立を通じた支援体制の強化を図るため、「災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議」を設置しています。

平成18年度は、県地域防災計画の改正内容や、実際に災害救援マニュアルを作成した市区町社会福祉協議会のリーディングケースを反映した手引「災害救援マニュアル作成ハンドブック」を作成し、災害救援ボランティアの支援窓口を担う市区町社会福祉協議会ボランティアセンター等に配布するなど、いつ発生するか分からない災害に備えた実践ノウハウの構築・普及を図りました。

| | |
|------------------------|--|
| 災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議 | 災害救援・中間支援NPO、企業団体・労組団体、消費者団体、医療関係団体、県・市社会福祉協議会、ボランティア活動支援機関、県等16団体 |
|------------------------|--|

○ その他市区町社会福祉協議会ボランティアセンターとの連携強化

プラザでは、平時・災害時における地域の中核支援拠点である「市区町社会福祉協議会ボランティアセンター」との連携強化に努めています。

(情報共有)

「市区町社会福祉協議会ボランティアセンター連絡会議」及びメーリングリスト「VCネット」を活用し、プラザと市区町社会福祉協議会ボランティアセンターとの情報共有・意見交換を行っています。

(ボランティアコーディネーター研修)

ボランティアコーディネーターのエンパワーメントを図るため、専門技術・知識を習得する研修会を実施しています。

(各市区町社会福祉協議会ボランティアセンター事業に対する個別支援)

このほか、各市区町社会福祉協議会ボランティアセンターが実施するボランティア活動推進に係る事業について、助言等の個別支援を実施しています。

◇プラザの来所者数

交流サロンやセミナー室を中心に、県民の活動・交流の場として活用されています。

| | 来所者数 | 月平均来所者数 (対前年比) | うち交流サロン 利用者数 | 月平均利用者数 (対前年比) |
|--------------------|----------|-------------------|-----------------|-------------------|
| 平成 14 年度 (6 月～3 月) | 10,580 人 | 1,058 人 | 6,634 人 | 663 人 |
| 平成 15 年度 | 18,370 人 | 1,531 人 | 9,613 人 | 801 人 |
| 平成 16 年度 | 24,065 人 | 2,005 人 | 12,320 人 | 1,027 人 |
| 平成 17 年度 | 28,666 人 | 2,389 人 | 12,759 人 | 1,063 人 |
| 平成 18 年度 | 25,324 人 | 2,110 人 | 14,560 人 | 1,213 人 |

2 プラザの支援事業

① 交流・ネットワーク

<団体・NPOと行政>

◇NPOと行政の協働会議の開催 (66 ページ参照)

◇県・市町職員ボラターン研修

県・市町職員の「参画と協働の推進役」としての見識と資質を高め、県・市町行政と県内団体・NPOのパートナーシップ確立を図るため、県・市町職員のインターン研修（共通講座、県内団体・NPOでの実地体験）を実施しました。

◇プログラムオフィサー派遣事業

行政システムに精通した専門家が、団体・NPOに対して、行政の政策形成・予算策定のしくみや行政との調整に関するアドバイスを行う「プログラムオフィサー」を無料で派遣し、NPOによる協働事業提案の実現を図る「ひょうごボランティア基金事業『行政・NPO協働事業助成』」等においてNPOと行政の協働がスムーズに進むよう支援しています。

(アドバイスの内容)

- ・行政の政策形成・執行や予算策定・会計のしくみ
- ・協働事業の企画書・計画書の作成
- ・協働の相手方となる行政との調整やプレゼンテーション ほか

<団体・NPOと企業・県民>

◇ひょうごボランティア活動メッセ (ひょうごボランティア・スクエア 21) (70 ページ参照)

◇ボランティア活動資源マッチングシステム

企業等が有する「活動資源 (資機材・活動スペース・人材等)」と、地域づくり活動登録により自らの活動内容や団体概要を明らかにしている団体・NPOの「活用ニーズ」の個別マッチングを図る「ボランティア活動資源マッチングシステム」の構築をめざし、各地域で4回のモデル運用を図るほか、フォーラム「企業とNPOの新たな協働をめざして『活動資源マッチングシステムの構築』」を開催しました。

(企画・運営委員会)

プラザ、企業団体・労組、中間支援NPO、市町社会福祉協議会ボランティアセンター、学識経験者、行政等が、①システムのビジョンづくりを担当する「企画委員会」及び②実際の運用を担当する「運営委員会」を構成し、両組織が車の両輪となって、本システムを支えています。

| 区分 | 企画委員会 | 運営委員会 |
|--------|--|--|
| 役割 | ボランティア活動資源マッチングシステムの企画（しくみづくり・運営 ほか）に関する検討 | ボランティア活動資源マッチングシステムの運営に関する検討・実践 ・課題検証とシステムづくりの提案 ・企業・NPOのネットワーク構築の普及啓発 ・CSR促進とNPO活動強化の機会づくりほか |
| 委員構成 | NPO、学識経験者、地域支援拠点、企業・労組、行政等7名 | NPO、学識経験者、地域支援拠点、企業・労組、行政等18名 |
| 開催回数 | 4回/年度 | 1回/年度 |
| 主な協議内容 | ○運営委員会の運営方針 ○18年度事業計画等 ・年間スケジュール ・システムの運営方法 ・フォーラムの開催 ・モデル運用の検証 | ○運営委員会の運営方針 ○18年度事業計画等 ・年間スケジュール ・システムの運営方法（体制・利用ルール） ・フォーラムの開催 |

(モデル運用実績)

| 地域 | 提供企業 | 提供物品 |
|-----|---------------|---------------------|
| 神戸市 | 市内企業（住宅設備業） | 事務机・椅子、キャビネット、ロッカー等 |
| 川西市 | 公文教育研究所 | パソコンラック、テーブル、机・椅子等 |
| 姫路市 | 姫路キャッスルホテル ほか | 壁画、座卓、椅子等 |
| 三木市 | 市内企業（雑貨製造業） | 運動靴 |

② 情報提供・相談

◇ 県域の情報ネットワークの構築

団体・NPOはもとより、分野別・地域別の支援拠点や中間支援NPOの活動を応援するため、多様な媒体を活用したきめ細かな情報提供のしくみづくりに努めています。

| | |
|-----------------------|--|
| 地域づくり活動情報システム「コラボネット」 | <p>団体・NPOの活動情報を集約し、分野別・地域別に整理のうえ、インターネットで広く提供する「地域づくり活動情報システム『コラボネット』（地域づくり活動登録制度）」に、平成17年度から、①行政・民間の支援機関、中間支援NPO、企業等が実施している地域づくり活動支援施策・事業に関する情報と、②団体・NPOによる地域づくり活動支援の募集に関する情報を集約し、分野別・地域別に整理のうえ提供する「ひょうごボランティア活動支援ナビ」の機能を付加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域づくり活動登録制度（1ページ参照） 4,182件（団体登録4,506件） ○ ひょうごボランティア活動支援ナビ 支援情報366件・募集情報212件 |
|-----------------------|--|

| | | |
|------------------|-------|------------|
| ホームページ | アクセス数 | 50,460件／年度 |
| メールマガジン「コラボNEWS」 | 配信数 | 32回／年度 |
| 情報紙「コラボレーション」 | 発行数 | 年4回、各1万部発行 |

◇NPO専門相談

NPOの運営に関する法律や会計・財務などの諸問題に対し、弁護士・公認会計士等による専門的な対応が可能な相談窓口を設置しています。

| | | | |
|----------|-----------------|------|-----|
| 法律相談 | 原則として奇数月第3土曜日 | 実施件数 | 0件 |
| 会計・財務相談 | 原則として偶数月第3土曜日 | 実施件数 | 9件 |
| NPO法人化相談 | 原則として毎月第2・第4水曜日 | 実施件数 | 47件 |

③ 人材養成

◇NPO大学事業の実施（63ページ参照）

◇ボランティア活動トライやる事業

ボランティア活動への意欲を持ちながら、実践活動に踏み出せていない①退職者・退職予定者のシニア世代②出産・育児により退職した女性③フリーター・学生等若者といった県民を対象に、ボランティア活動の体験機会を提供する「ボランティア活動トライやる事業」を新たに実施しました。

（事業の実施主体）

- ・ 企画提案コンペにより選定した中間支援NPOに事業の企画実施を委託
- ・ 同中間支援NPOが中心となって、神戸地域・阪神地域・東播磨地域・北播磨地域の中間支援NPO・地域支援拠点がプラットフォームを構築
- ・ 同プラットフォームで、活動体験者の受け入れ先として38の団体・NPOを確保

（事業の実施結果）

- ・ 受け入れ団体・NPOにおいて、51名の県民が、ボランティア活動入門講座、ボランティア活動ミニ体験、報告・交流会に参加
- ・ このほか、県内各地域でボランティア相談会を5回実施
- ・ 本事業の企画運営ノウハウをまとめた「ボランティア活動トライやる実施マニュアル」を地域別・分野別支援拠点や中間支援NPOに配布し、ノウハウを普及

| 区分 | 実施日 | 実施内容 |
|----------------|-----------------------|---|
| ボランティア活動入門講座 | 平成18年11月23日 | ・ オリエンテーション ・ 講義「ボランティア活動の必要性と魅力」 ・ ボランティア活動事例と体験報告 ・ 意見交換 |
| ボランティア活動ミニ体験 | 平成18年11月1日～平成19年2月28日 | 県内各地域の受け入れ団体・NPO（38団体）で、51名の県民が、おおむね5日間のボランティア活動を体験 |
| ボランティア活動報告・交流会 | 平成19年3月4日 | ・ 講義「震災と私」 ・ ボランティア活動ミニ体験の報告・講評 ・ 交流会 |
| ボランティア活動相談 | 平成18年11月23日～平成19年3月4日 | ボランティア活動相談会を全5回開催 |

◇のじぎくボランティアネットの構築

県民ボランティアの活躍により成功裏に幕を閉じた「のじぎく兵庫国体」「のじぎく兵庫大会」におけるボランティア活動の機運の高揚を一過性のものとせず、より多くの県民に広げていくため、広域イベントの開催や災害発救援等の活動機会に関する情報を、メールマガジン登録者にタイムリーに提供する「のじぎくボランティアネット」を新たに構築しました。

④ 活動資金支援

◇ひょうごボランティア基金等による助成（57 ページ参照）

◇NPO活動応援貸付制度

NPO法人等の設備投資やコミュニティビジネスの展開などの資金需要に対応するため、低利の貸付制度を実施しています。

金融機関、学識経験者、行政等で構成する審査会を設置し、多様な分野の専門家の合議による審査を行っています。

(制度概要)

| | |
|------------|--|
| 対象団体 | 1年以上継続して県内で活動しているNPO法人等 |
| 対象事業 | ・設備資金（機器の購入費、事務所増改築費など） ・運転資金（補助金・委託料入金までのつなぎ資金、研究開発資金など） |
| 貸付額・利率 | 50～300万円（年1.75%） |
| 貸付条件・返済方法等 | ・返済期間5年以内（うち6カ月以内据置可） ・元利均等月賦方式による返済 ・貸付希望団体代表者のほか2人以上の連帯保証人が必要 ・年間2回募集 |

(審査会)

| | |
|------|--------------------------------|
| 役割 | ・貸付の可否の審査 ・貸付の可否の審査に必要な現地調査 |
| 委員構成 | 金融機関、学識経験者、行政等 5名 |
| 開催回数 | 2回/年度 |

(貸付実績)

| | 使 途 | 貸付額 |
|---|---------------|---------|
| 1 | 委託料入金までのつなぎ資金 | 3,000千円 |
| 2 | 補助金入金までのつなぎ資金 | 3,000千円 |
| 3 | 介護保険事業資金 | 3,000千円 |
| | 合 計 | 9,000千円 |

⑤ 調査研究

◇調査研究事業

ボランティア活動に関する課題や支援方策等について、毎年テーマを設定し、調査研究を行う「団体・NPO等活性化調査・研究事業」等を実施しています。実施に当たっては、学識経験者、団体・NPO、地域支援拠点等で構成する調査研究委員会の設置、NPOの企画提案を踏まえた調査研究事業委託、NPO・企業・地域支援拠点等に対するアンケート、地域の協力を得ての実証実験など、多様な主体の参画を得るとともに、その成果を、報告書・ホームページ・フォーラム等多様な媒体を活用して公表しています。

| | |
|----------|---|
| 平成 14 年度 | 「事業創造型地域通貨の可能性に関する研究（実証実験含む）」 |
| 平成 15 年度 | 「市町域でのボランティア活動推進方策に関する調査・研究」 「市民活動の基盤強化のための実践的調査」 |
| 平成 16 年度 | 「県民ボランティア活動実態調査」 「市町域でのボランティア活動推進方策に関する調査・研究」 「市民活動の基盤強化のための実践的調査」 |
| 平成 17 年度 | 「NPOと行政の連携・協働に関する調査研究」 「大規模災害時の災害ボランティアセンターの機能・役割」 「地域づくり活動担い手づくり提案事業（モデル事業）」 |
| 平成 18 年度 | 「NPOと企業の連携・協働に関する調査研究」 |

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

（団塊世代・企業を中心とするボランティア活動のすそ野拡大）

成熟時代にふさわしい地域づくりを進めていくため、ボランティア、企業等多様な主体のサポートにより成功裏に幕を閉じた「のじぎく兵庫国体」「のじぎく兵庫大会」におけるボランティア活動の機運の高揚を一過性のものとせず、一層広げ定着させていく必要があります。

① 団塊世代等のボランティア活動の促進

退職者等「団塊世代」の活力を地域づくり活動の活性化につなげていくため、平成 18 年度実施した「ボランティア活動トライやる事業」のノウハウを生かし、ボランティア活動に関する多彩な「学び」「体験」「交流」「実践」の機会を提供するとともに、そのサポーターとなる県関係機関やNPOのネットワーク化による支援体制強化を通じて、活動のすそ野拡大を図ります。

② 企業による社会貢献活動の促進

ボランティア活動に対する支援者の輪を拡大する観点から、「ボランティア・市民活動元気アップアワード」「ボランティア活動資源マッチングシステム」等により、地域社会を構成する重要なファクターである企業の寄付文化醸成や活動資源のマッチングに取り組んできたところですが、併せて、団体・NPOの情報公開等を通じた寄付をしやすい環境の整備を進めていく必要があります。

さらに、ボランティア活動に対する支援から一歩進め、企業自身による社会貢献活動の啓発やノウハウ普及に努め、多様な主体がそれぞれの役割を果たしながら相互のパートナーシップを築く「ひょうごの地域づくり活動」をより大きく確かなものとしていきます。

（団体・NPOの自律的・継続的な運営基盤の確立に向けた支援展開）

プラザでは、ひょうごボランティア基金を活用し、地域における草の根の活動から中間支援活動まで、多様な活動に対応したきめ細かな助成メニューを展開しているところですが、併せて、団体・NPOの自律的・継続的な運営基盤を確立するためには、①ミッションの着実な実現に必要となる専門的・実践的な知識・技能の向上を図るとともに、②企業・県民等社会全体で団体・NPOを支える環境の整備を進めていく必

要があります。このため、①リーダーのマネジメント能力向上を図る人材養成や、団体・NPOの事業企画・実践ノウハウの形成 ②団体・NPOの情報公開等を通じた企業・県民等が寄付をしやすい環境の整備や、企業等が有する活動資源と団体・NPOの活用ニーズのマッチングなどに重点を置いた支援を展開します。

(地域支援拠点等の機能強化に対する支援)

身近な地域課題の解決に向けた地域ぐるみの取り組みや、災害時における住民・ボランティアの災害救援活動、復旧・復興活動に対しては、地域固有の課題・資源を熟知した、市区町社会福祉協議会ボランティアセンター、中間支援NPO、各地域で整備が進みつつある市町設置のボランティア・市民活動支援センターといった地域支援拠点等によるきめ細かな支援展開が不可欠です。このためプラザでは、県域の支援ネットワーク拠点として、平時・災害時における地域支援拠点等の機能強化を支援します。

① 地域支援拠点等に対する活動支援ノウハウの提供等

これまでのプラザ運営で培った、活動支援ノウハウや多様な主体とのネットワークを生かし、地域支援拠点等の基盤強化や事業の企画実施を応援します。

[取り組み例]

- ・ 地域別・分野別の支援拠点ネットワーク「ひょうごボランティア活動支援ネット」のほか、「市区町社会福祉協議会ボランティアセンター連絡会議」「(市町設置の)ボランティア・市民活動支援機関担当者会議」「NPO法人設立支援機関担当者連絡会議」など、地域支援拠点等の運営や活動支援の企画実施に関するノウハウ共有・意見交換、ネットワークづくりの機会を提供
- ・ 調査研究・先導的事業のモデル実施や、地域支援拠点等との協働による活動支援の企画実施を通じて、活動支援ノウハウを提供
- ・ 「ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成」「行政・NPO協働事業助成」「中間支援助成」「インターン助成」等により、地域支援拠点等の基盤強化やNPOとの協働促進に資する取り組みに対して助成

② 地域支援拠点等における災害救援ボランティア活動支援の機能強化

いつ発生するか分からない災害に備え、「災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議」が中心となって、平成18年度に策定した「災害救援マニュアル作成ハンドブック」を活用し、災害救援ボランティアの支援窓口機能を担う市区町社会福祉協議会ボランティアセンター等におけるマニュアル作成や実地訓練を推進し、災害救援ボランティア支援の基盤強化を支援します。

(県域の情報ネットワーク基盤の確立)

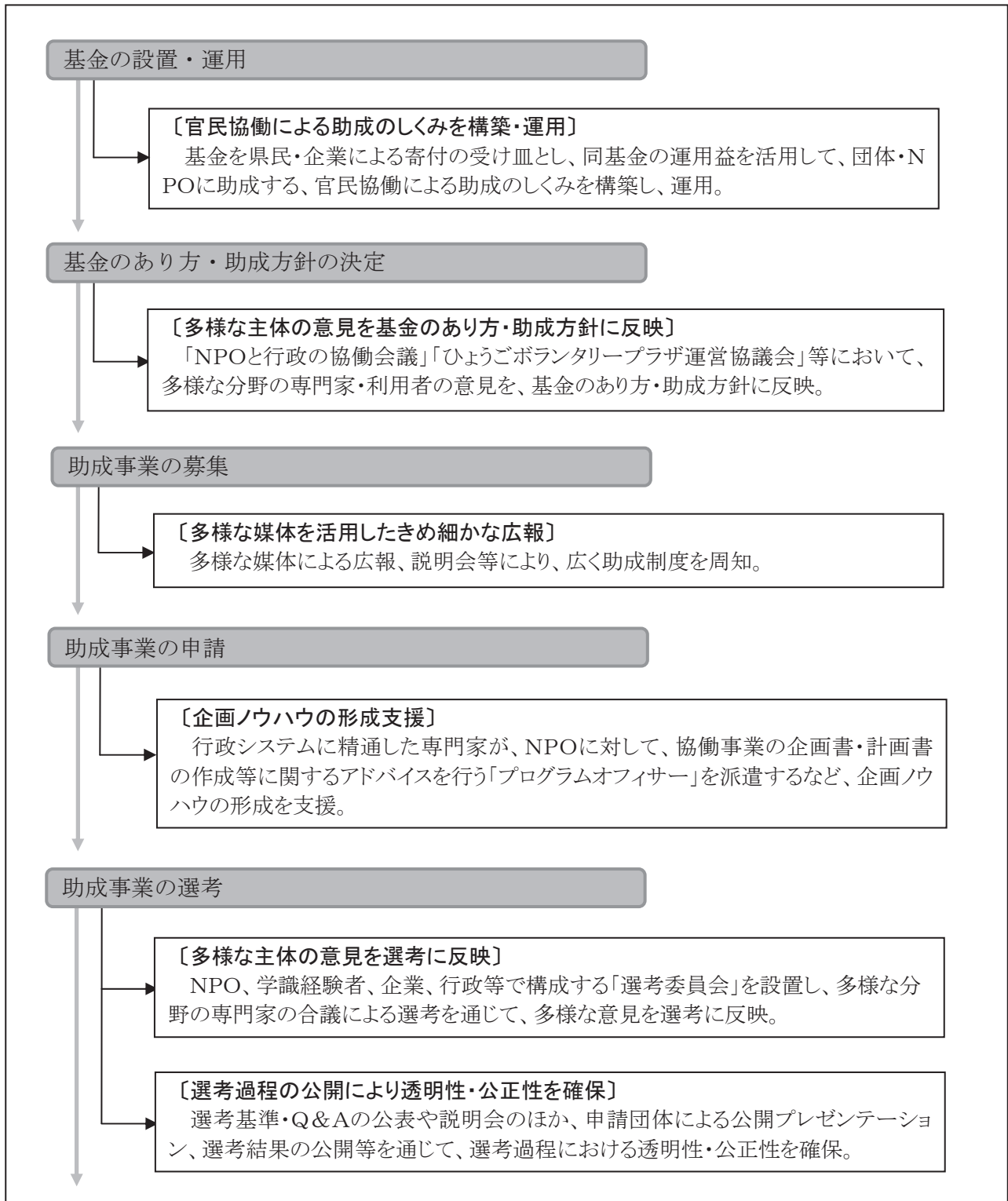
県域の支援ネットワーク拠点として、県内で展開されている団体・NPOの「活動」や地域支援拠点等の「支援」等に関する情報を集約・整理し、「地域づくり活動情報システム『コラボネット』」をはじめ、ホームページ、メールマガジン、情報誌など多様な媒体を通じて分かりやすく提供するよう努めています。今後は、こうした情報提供のしくみが、「県域の情報ネットワーク基盤」として定着し、団体・NPOや地域支援拠点等から最大限に活用されるよう、①提供する情報の質・量の充実②提供する情報や媒体の活用促進を通じて、団体・NPOによる活動の活性化や企業・県民等支援者の輪の拡大を図ります。

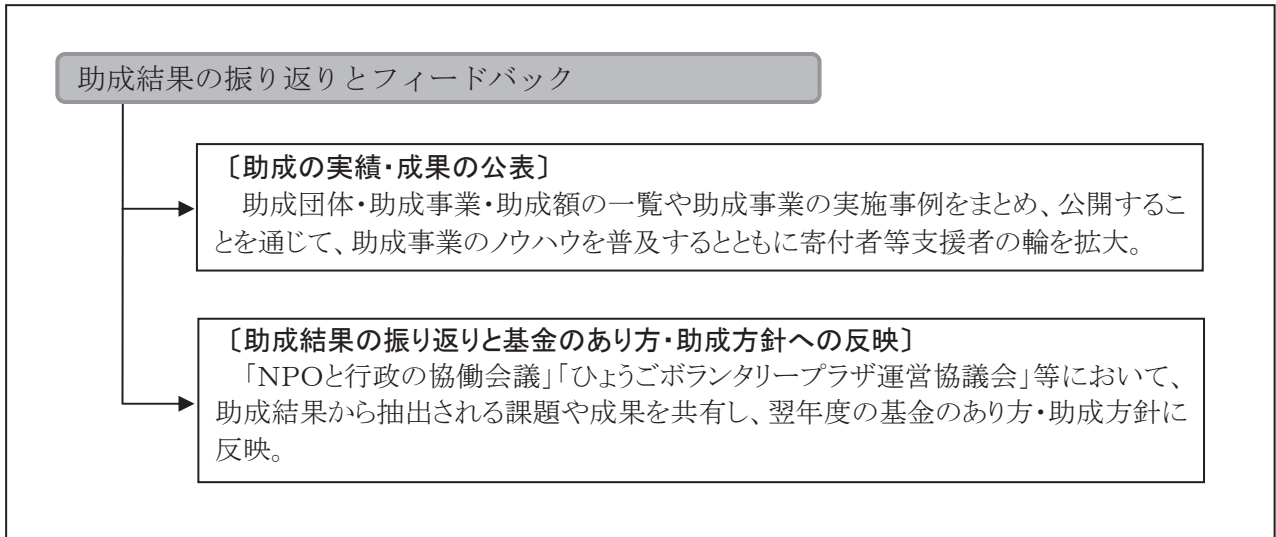
ひょうごボランティア基金等による助成（県民政策部）

事業概要

ボランティア活動の支援強化を図るため、平成14年度に設置した「ひょうごボランティア基金」の運用益を活用し、団体・NPOによる草の根の活動から中間支援活動まで、多様なボランティア活動に対応したきめ細かな助成メニューを展開しています。

参画と協働の方法





参画と協働の実施状況

◇基金の概要

ボランタリー活動の支援強化を図るため、平成14年度に「ひょうごボランタリー基金」を設置しました。同基金を県民・企業からの寄付の受け皿とし、その運用益を活用して、団体・NPOによる草の根の活動から中間支援活動まで、多様なボランタリー活動に対応したきめ細かな助成メニューを展開しています。

また、基金のあり方・助成方針については、「NPOと行政の協働会議」「ひょうごボランタリープラザ運営協議会」等を活用し、多様な専門家・利用者の意見を反映させるよう努めています。

| | |
|----------------|---|
| 趣 旨 | ボランタリー活動の支援強化を図るため、県民・企業の寄付を受け入れ、その運用益により、団体・NPOの活動に助成 (このほか児童福祉施設入所児童・交通遺児等に対する奨励事業あり) |
| 経 緯 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度 平成13年度に解散した(財)ひょうご地域福祉財団の財産に基づき本基金を設置。以降、被災地内の活動助成(平成7年度～)には阪神・淡路大震災復興基金で、被災地外の活動助成には本基金で対応 ・平成16年度 被災地内の活動助成に対応してきた阪神・淡路大震災復興基金事業が終了 ・平成17年度 被災地外の活動助成に対応してきた本基金を全県の活動助成に対応するよう拡大 |
| 規模・構成 | 約100億円(ボランティア基金・地域福祉基金(このほか友愛基金あり)) |
| 助 成 メ ニ ュ ー | <ul style="list-style-type: none"> ○新たな活動を生み、育む〔活動のすそ野拡大〕 <ul style="list-style-type: none"> ・県民ボランタリー活動助成 (ボランタリーグループ助成、ボランタリー活動支援拠点・NPO協働事業助成) ・学生ボランタリー活動助成 ○活動を高め、支える〔団体・NPOの基盤強化、先導的活動や行政・企業との協働促進〕 <ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ支援助成 ・チャレンジ事業助成 ・NPOパワーアップ助成 ・行政・NPO協働事業助成(NPO提案型・行政提案型) ・企業・NPO協働奨励事業 ○活動をつなぎ、^{ひろ}拡げる〔中間支援活動の充実・リーダー育成〕 <ul style="list-style-type: none"> ・インターン助成 ・中間支援活動助成 |
| 助成額 (寄付額) | <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度 35,778千円 (7,607千円) ・平成16年度 34,286千円 (7,324千円) ・平成17年度 101,628千円 (67,183千円) (災害義援金寄付等含む) ・平成18年度 117,408千円 (5,982千円) |

◇助成のしくみ

(助成事業の募集)

助成事業の募集に当たっては、リーフレット、ホームページ、メールマガジン等による広報、地域支援拠点や団体・NPOを対象とした説明会などにより、広く助成制度を周知するとともに、申請手続き・助成要件・選考基準・Q&Aをホームページで公表しています。

(助成事業の申請)

「行政・NPO協働事業助成」等において、行政システムに精通した専門家が、NPOに対して、行政の政策形成・予算策定のしくみ、協働事業の企画書・計画書の作成等に関するアドバイスを行う「プログラムオフィサー」を派遣するなど、団体・NPOにおける企画ノウハウの形成支援に努めています。

(助成事業の選考)

NPO、学識経験者、企業、行政等で構成する「選考委員会」を設置し、多様な分野の専門家の合議による選考を行うことを通じて、多様な意見を選考に反映しています。さらに、助成制度の性格に応じて、申請団体による公開プレゼンテーションを実施するとともに、選考結果をホームページで公開するほか、採択・不採択の別及び選考委員からのコメントを申請団体に通知するなどの情報公開を通じて、選考過程の透明性・公正性の確保に努めています。

| 区 分 | ひょうごボランティア基金助成事業選考委員会 | 学生ボランティア活動助成事業選考委員会 | 企業・NPO協働奨励事業選考委員会 |
|------|--|----------------------------|-------------------|
| 役 割 | 次の助成事業の選考 ・ 立ち上げ支援助成 ・ チャレンジ事業助成 ・ 行政・NPO協働事業助成 (NPO提案型・行政提案型) ・ インターン助成 ・ 中間支援活動助成 | 学生ボランティア活動助成事業の選考 | 企業・NPO協働奨励事業の選考 |
| 委員構成 | NPO、企業、学識経験者、行政等9名 | NPO (学生支援NPO含む)、学識経験者、行政4名 | 企業、NPO、学識経験者、行政5名 |
| 開催回数 | 8回/年度 | 1回/年度 | 1回/年度 |

(助成の実績・成果の公表)

平成17年度助成分から、助成団体・助成事業・助成額の一覧や助成事業の実施事例を「ひょうごボランティア基金助成事業報告書」としてまとめ、団体・NPO等に配布するとともに、ホームページで公開することを通じて、助成事業のノウハウ普及や寄付等支援者の輪の拡大に努めています。

◇各助成メニューの実施状況

○新たな活動を生み、育む〔活動のすそ野拡大〕

・ 県民ボランティア活動助成

福祉、環境創造、国際協力等NPO法17分野のボランティア活動に助成し、団体の自立支援を促進します。(上限3万円・1/2助成)

・ 件数 2, 833件 (84, 990千円)

・ ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成【新規】

地域のボランティア活動支援拠点とボランティアグループ等の連携・協働を支援します。(30～90万円)

・ 件数 3件 (1, 558千円)

・ 学生ボランティア活動助成

学生ボランティア活動の振興に関する事業に助成を行うことにより、県民ボランティア活動への理解と参加の促進を図ります。(上限10万円)

- ・ 件数 9件 (484千円)

○活動を高め、支える〔団体・NPOの基盤強化、先導的活動や行政・企業との協働促進〕

・ 立ち上げ支援助成

NPO法人等の立ち上げを支援し、NPO活動の促進を図ります。

①インキュベート整備②公共スペース活用③事務所借り上げ

(上限30万円・1/2助成)

- ・ 件数 42件 (5,106千円)

・ チャレンジ事業助成

地域課題の解決のための広域性の高い活動や斬新な活動の拡大、発展を図ります。

(新規事業100万円上限、既存事業50万円上限)

- ・ 件数 9件 (7,340千円)

・ NPOパワーアップ助成

NPOの組織としてのマネジメント能力を高め、NPO全体の社会的信用を高めることを奨励するため、①IT活用による情報公開②定期的な機関紙、情報紙の発行③セミナー、講演会等の開催を通じた団体ミッションの普及啓発事業の実施④役職員のスキルアップのための研修会等への参加⑤団体のマネジメント能力向上のための体制整備の特定の項目の要件を満たす場合に助成しています。

- ・ 1項目5万円(各項目1回限り、3項目以上の規準を満たした段階で申請)

- ・ 件数 81件 (4,050千円)

・ 行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)(復興基金と併用)

NPOが企画した行政との協働事業を進めるために、第1年次に事業企画を提案し、第2年次にNPOが行政の協力を得て事業化計画を立案し、第3年次で事業を軌道にのせる、行政の政策形成過程と予算編成スケジュールを考慮した3段階の助成プログラムで実施しています。

| 区分 | 第1年次 | 第2年次 | 第3年次 |
|-----------|---|----------------------------------|------------------------------|
| 助成対象となる活動 | 地域の課題解決や活性化を目的に、NPOと行政とが協働して取り組む事業の企画提案作成活動 | 第1年次に作成した提案の事業化に向けた具体的な事業化計画策定活動 | 第2年次に策定した計画に基づくNPOによる協働事業の実施 |
| 助成金額 | 30万円以内 | 60万円以内 | 100万円以内 |

- ・ 件数 14件 (6,950千円)

・ 行政・NPO協働事業助成(行政提案型)

地域の課題解決や活性化等を推進するため、兵庫県(行政)が提案する事業を、NPOのアイデアを付加しながらモデル的に実施しています。(上限30万円)

- ・ 件数 5件 (1,500千円)

・ 企業・NPO協働奨励事業

地域の活性化や課題解決につながる企業とNPOの協働事業を奨励しています。

(30~50万円)

- ・ 件数 2件 (600千円)

○活動をつなぎ、^{ひろ}拡げる〔中間支援活動の充実・リーダー育成〕・ インターン助成

NPO法人のマネジメント能力向上を目的として、団体運営の中心を担う人材の国内外へのインターン派遣を支援します。

(海外30万円上限、国内15万円上限)

・件数 1件(300千円)

・ 中間支援活動助成

「ネットワーク構築」「調査研究」「講座等の開設」及び「情報提供・相談」等の活動・事業に実績があり、このうち特定部門の機能強化を重点的に行おうとする中間支援活動のレベルアップを図ることを目的に支援しています。

(1団体年額100万円上限)

・件数 7件(6,500千円)

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(助成を通じた団体・NPOの企画力・実践力等の向上)

団体・NPOの自律的・継続的な運営基盤を確立していくためには、単に財政的支援をするということではなく、助成を通じて、団体・NPOが、事業の企画力・実践力等を向上させていくことが大切です。このため、①団体・NPOの企画・プレゼンテーションにおける創意工夫や、行政・企業等他セクターとの交渉・調整力等を重視した助成メニューの編成 ②協働事業の企画書作成等に関するアドバイスを行う「プログラムオフィサー」派遣等、企画ノウハウの形成支援 ③専門家の意見や他団体の企画を参考にしてもらうための選考委員によるアドバイス、公開プレゼンテーションの実施などに努めています。特に、平成17年度助成分からは、助成事業の実施事例等を「ひょうごボランティア基金助成事業報告書」で紹介しているところですが、助成事業のノウハウを効果的に普及していくため、この報告書の一層の内容充実と活用促進を図るとともに、協働事業等については、NPOと行政がよりよい協働のあり方をともに模索する評価とその結果の公表等について検討を進めます。

(基金に対する寄付インセンティブを一層高める工夫)

基金に対する寄付者には、寄付者名の公表、感謝状の贈呈、ひょうごボランティアプラザ情報誌「コラボレーション」の定期配布を行うほか、平成17年度から、助成団体・助成事業・助成額の一覧や助成事業の実施事例を「ひょうごボランティア基金助成事業報告書」としてまとめ、寄付者等に配布しています。このように寄付の成果を可視化して分かりやすく情報提供するほか、寄付者の意向をより反映しやすい基金のしくみづくりなど、企業・県民等寄付者や団体・NPOの意見を踏まえ、基金を活用した、寄付インセンティブを一層高める工夫について、幅広い検討を進めます。

(団体・NPOの自律的な財政基盤の確立に向けた環境整備)

NPOの財政基盤を支えるため、ひょうごボランティア基金による各種助成のほか、「ボランティア・市民活動元気アップアワード」「ボランティア活動資源マッチングシステム」等による寄付文化の醸成や活動資源のマッチングに取り組んできました。

今後は、行政の関与を極力控えた、NPOの自律的・継続的な運営基盤の確立に向けて、NPOが自前で資金調達できる環境整備に取り組めます。

① 「NPO評価」などNPOとその支援者・パートナーをつなぐしくみづくり

地域づくり活動情報システム「コラボネット」により、団体・NPOの活動情報を広く提供してきましたが、団体・NPOに対する企業・県民の寄付、行政・企業による指定管理・アウトソーシング等の協働を一層促進していくため、「地域づくり活動情報システム『コラボネット』」によるNPO法人閲覧資料の公開や、NPOの信頼性向上や寄付先・協働相手の選定に役立つ「NPO評価」等の有用性やしくみについて、幅広い検討を進めます。

② NPO法人に対する税制上の優遇措置等法制度の充実

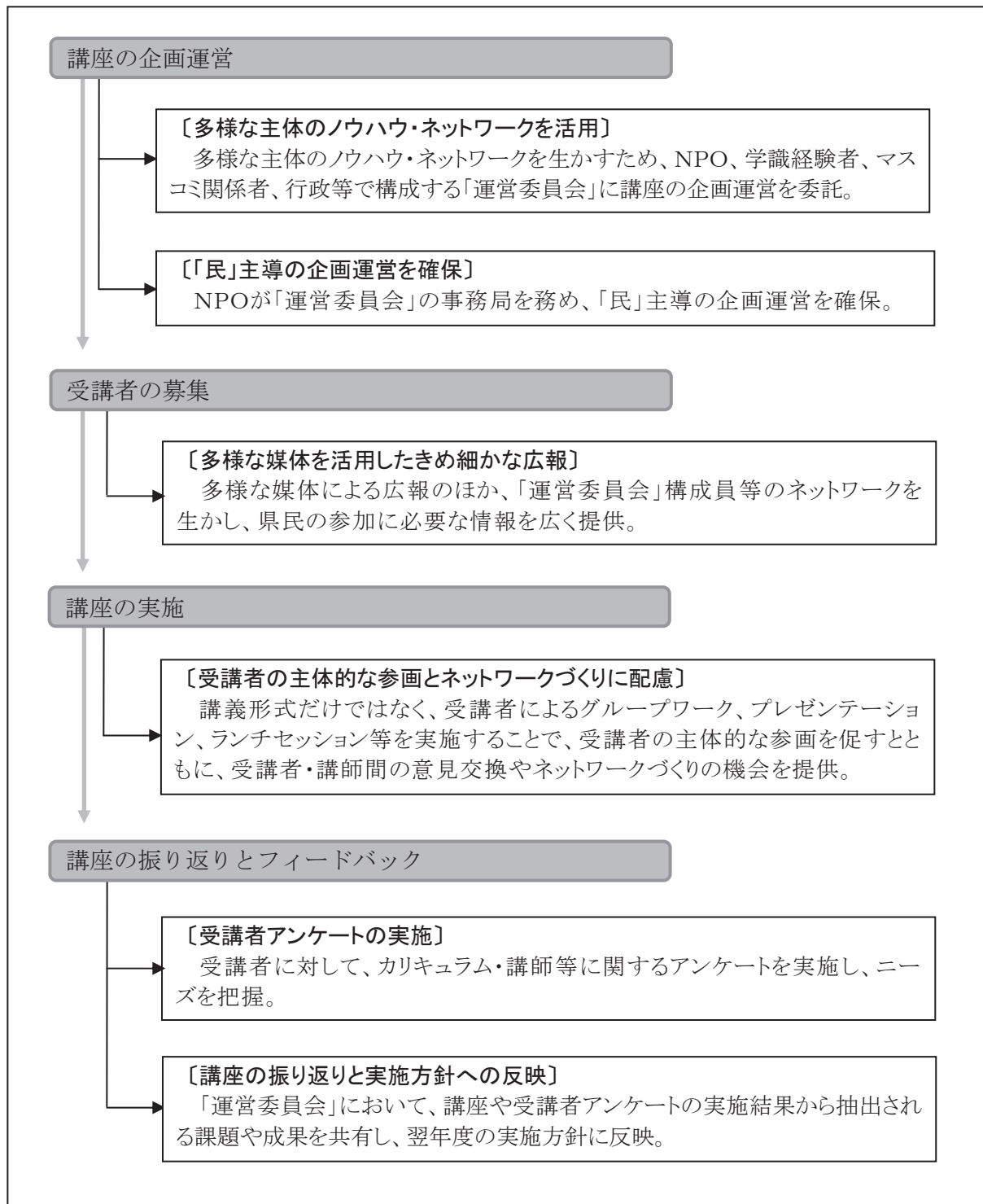
NPO法人に対する企業・県民の寄付を促進するため、NPO法人の収益事業課税・寄付金控除等の制度設計や、認定NPO法人制度における公益性の判断基準・手法の改善について、引き続き国に要望していきます。

NPO大学事業の実施（県民政策部）

事業概要

NPO等のマネジメント能力向上による運営基盤確立を支援するため、NPO等の代表者やスタッフを対象に、SWOT分析（組織の強み・弱み・環境の分析）・BSC（バランススコアカード）を取り入れた経営戦略立案・実行評価の手法など、団体ミッションの着実な実現に必要な専門的・実践的知識や技術を習得する講座を実施しています。

参画と協働の方法



参画と協働の実施方法

◇「運営委員会」による講座の企画実施

多様な主体のノウハウ・ネットワークを生かすため、「運営委員会」に講座の企画運営を委託するとともに、その事務局をNPOが務めることで、「民」主導の企画運営を確保しています。

| | |
|--------|---|
| 役 割 | ・講座の企画・運営・評価 ・運営委員会の運営 |
| 委員構成 | NPO、学識経験者、マスコミ関係者、行政等8名（NPOが事務局を担当） |
| 開催回数 | 4回／年度 |
| 主な協議内容 | ○18年度事業計画等 ・運営委員会の規約・委員 ・講座のカリキュラム・日程・講師・広報、予算 ほか ○18年度事業報告等 ・講座の実施結果・受講者アンケート結果に基づく講座の振り返り ・19年度実施方針 ほか |

◇講座の実施内容

NPO等のマネジメント能力向上による運営基盤確立を支援するため、SWOT分析（組織の強み・弱み・環境の分析）・BSC（バランススコアカード）を取り入れた経営戦略立案・実行評価の手法などに力点を置くとともに、「運営委員会」構成員等のネットワークを生かし、学識経験者、NPO活動実践者、マスコミ関係者など、多彩な専門分野の講師陣の参画を得て、それぞれのノウハウを生かした講座を実施しています。

また、講義形式だけではなく、受講者によるグループワーク、プレゼンテーション、セッション等を実施することで、受講者の主体的な参画を促すとともに、受講者・講師間の意見交換やネットワークづくりの機会を提供しています。

| マネジメントコース | ガバナンスコース |
|---|---|
| <p>NPOでの実務経験があるスタッフまたは常勤の実務責任者を対象に、NPOの基盤を確立するために必要な知識を学びます。</p> <p>【講義】 SWOT分析（組織の強み・弱み・環境の分析） 【講義・グループワーク・実習・発表】 BSC（バランススコアカード）とNPOマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務（資金提供者）の視点から ・業務プロセスの視点から ・スタッフ等の学習と成長の視点 ・顧客の視点 ・受講生による実習・発表 <p>【交流・意見交換】 イブニング・セッション （食事会を含むネットワークづくり）</p> | <p>マネジメントコース修了者またはこれに準ずる方（団体代表者等）を対象に、NPOの適正な経営とさらなる発展を学びます。</p> <p>【講義】 情報とネットワーク 【講義】 ミッション・マネジメント —専門性と付加価値性の追求— 【パネルディスカッション】 ミッション・マネジメントの実践 【交流・意見交換】 ランチ・セッション （食事会を含むネットワークづくり）</p> |

◇講座の実施結果

(受講者数)

平成9年度の開講以来、受講者数は延べ793名に達し、多くの県内NPOの役員や実務者を輩出しており、人材面での運営基盤強化に成果を上げています。

| | トライアルコース | | マネジメントコース | | ガバナンスコース | |
|-------|----------|------|-----------|------|----------|------|
| | 応募数 | 受講者数 | 応募数 | 受講者数 | 応募数 | 受講者数 |
| H14年度 | 44人 | 40人 | 41人 | 30人 | 46人 | 20人 |
| H15年度 | 54人 | 40人 | 36人 | 30人 | 24人 | 20人 |
| H16年度 | — | — | 13人 | 13人 | 18人 | 18人 |
| H17年度 | — | — | 38人 | 37人 | 46人 | 46人 |
| H18年度 | — | — | 37人 | 34人 | 52人 | 52人 |

(受講者アンケート実施結果の概要)

| 項目 | アンケート回答 | 回答の理由 |
|-----|---|---|
| 理解度 | <ul style="list-style-type: none"> ・理解できた (23%) ・だいたい理解できた (77%) ・あまり理解できなかった (0%) ・理解できなかった (0%) | <ul style="list-style-type: none"> ・講座・演習の両面から理解を助けられた ・具体的事例に即した話で分かりやすい ・ワークショップで考える機会をくれたのがよかった ・もう1回聞かないと完全に消化できない ・会計・簿記の知識がなく理解しづらかった ・受講者レベルがまちまちで、全体講義が難しい |
| 満足度 | <ul style="list-style-type: none"> ・満足 (72%) ・やや満足 (23%) ・どちらとも言えない (1%) ・やや不満 (0%) ・不満 (0%) | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの立場とニーズを考える機会となった ・活動で苦勞している人たちと親しくなれた ・グループ発表から課題解決のヒントをもらった ・NPO間のコミュニケーション機会がもっと欲しい ・ミッションそのものをもっと掘り下げてよかった ・講師ともっと意見交換したかった ・会場まで2時間かかり参加が大変 |

◇地域への広がり

初心者向けのNPO講座を実施する中間支援NPO等の地域支援拠点が育ってきていることから、本講座では、平成16年度から、トライアルコースを廃止し、マネジメント・ガバナンスの2コース制で実施しています。

なお、平成18年度は、豊岡市において「NPO大学連携講座（わがまちぐるみで子育て支援・NPO入門講座）」が開催され、本講座の「運営委員会」から講師派遣等の支援を行いました。

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

(カリキュラム充実と講座の企画運営ノウハウの地域への普及)

活動の機運醸成やNPO法人制度の普及により、平成18年度末の県内NPO法人は1,099法人に達していますが、一方で、必ずしも運営基盤が確立しているとはいえない法人も増加しており、団体・NPOの自律的・継続的な運営基盤の確立に必要な「マネジメント能力」の向上に重点を置いた本講座の重要性はますます増大しています。

また、受講者アンケートにおいても、「講義の密度に対して時間が短い」「さらに幅広い学習機会が欲しい」「講師や受講者間でさらに意見交換をしたい」「受講者レベルがまちまちであるため全体講義は難しい」「神戸の会場まで遠く参加が困難」などの声も聞かれました。

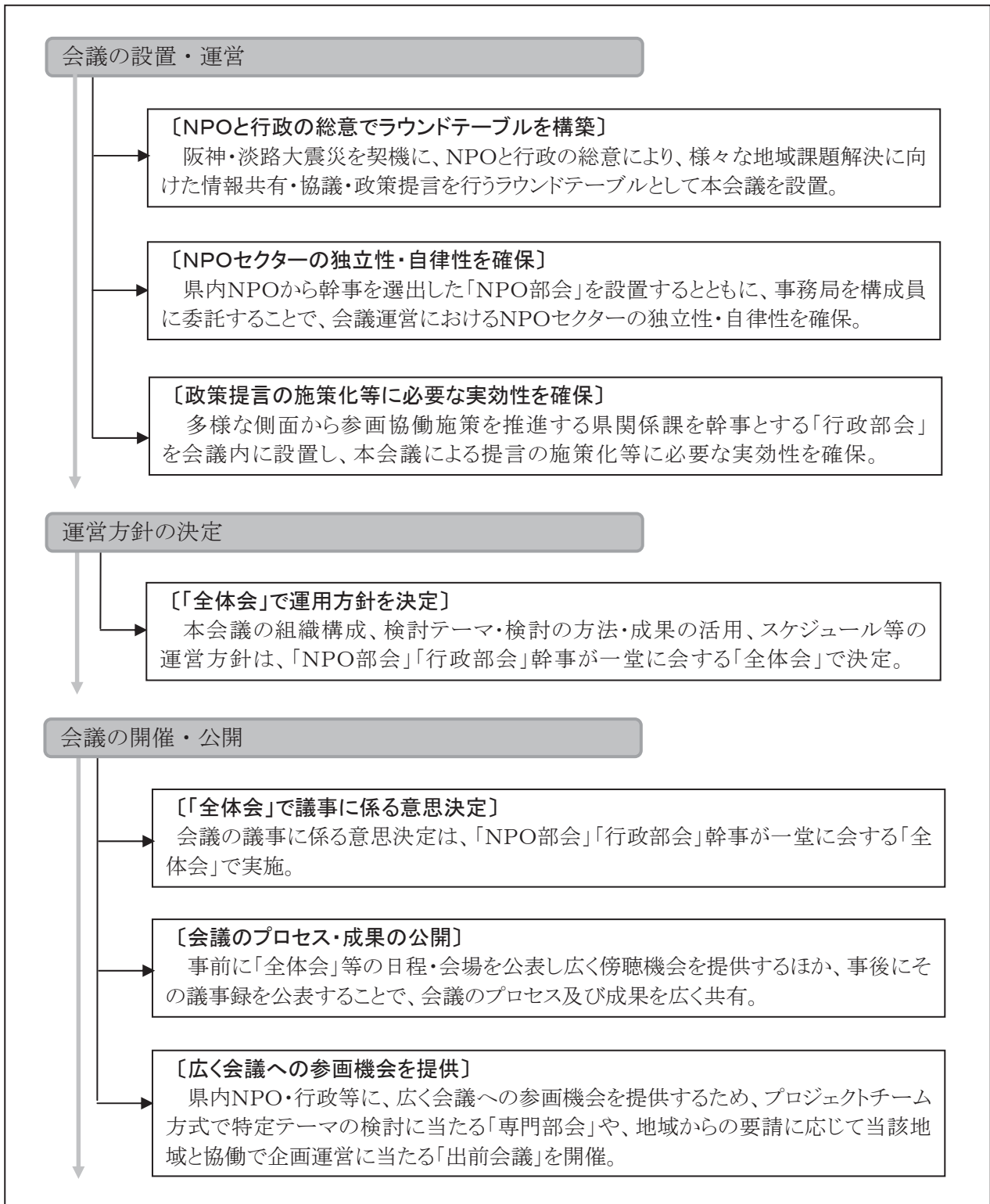
このため、今後は、①受講者からの参加費徴収も視野に入れ、講師・カリキュラム・日程等の一層の充実を図るとともに、②中間支援NPO、市町設置のボランティア・市民活動支援センター、市区町社会福祉協議会ボランティアセンター等地域支援拠点の要請に応じて、「NPO大学連携講座」の協働開催、講師紹介や企画運営ノウハウの提供を通じて、県域の人材養成の環境整備に努めます。

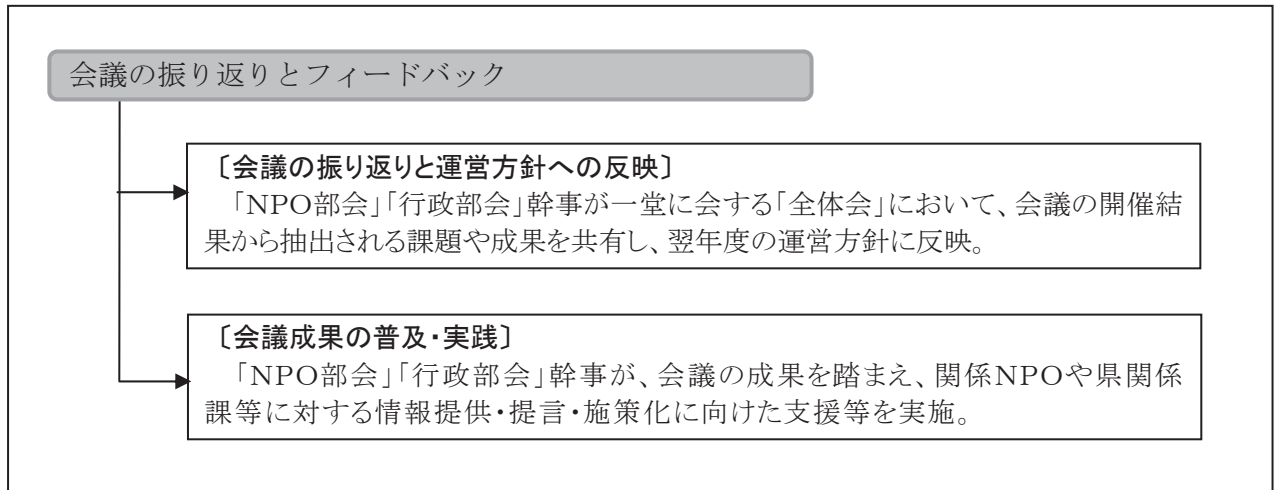
NPOと行政の協働会議の開催（県民政策部）

事業概要

県内関係NPOと県関係課が、NPOと行政の協働による、福祉、子育て、環境、まちづくり等様々な地域課題の解決に向けた、情報共有・協議・政策提言を行う会議を定期的に開催しています。

参画と協働の方法





参画と協働の実施状況

◇会議の設置経緯

- 阪神・淡路大震災を契機に、NPOと行政の総意により、様々な地域課題解決に向けた情報共有・協議・政策提言を行うラウンドテーブルとして本会議を設置しました。
- 平成9年7月（「生活復興会議ラウンドテーブル」の設置）
被災地のNPO等と行政が仮設住宅から恒久住宅への円滑な移行に必要な事項について意見交換
 - 平成11年7月（「NPOと行政の生活復興会議」に改組）
被災地のNPO等と行政が生活復興に関するNPO等からの提案について検討
 - 平成13年10月（現「NPOと行政の協働会議」に改組）
被災地の課題にとどまらず全県的課題に対応

◇会議のしくみ

（会議の構成）

県内NPOが幹事を務める「NPO部会」及び参画協働施策を推進する県関係課が幹事を務める「行政部会」を構成機関とする「全体会」を意思決定機関として運営しています。また、特定分野・地域固有のテーマについて効果的・効率的に対応するとともに、「NPO部会」「行政部会」幹事以外のNPO・行政等に、広く本会議への参画機会を提供するため、「専門部会」や「出前会議」を開催しています。

| 区分 | 目的・役割 | 参画団体 |
|-------|--|---|
| 全体会 | 「NPO部会」「行政部会」幹事が一堂に会し、NPOと行政の協働による、福祉、子育て、環境、まちづくり等様々な地域課題の解決に向けた、情報共有・協議・政策提言を行うほか、会議の運営方針の決定及び振り返りを行う。 | 「NPO部会」「行政部会」幹事 |
| NPO部会 | <ul style="list-style-type: none"> ○ NPOセクターにおいて、県内NPOから幹事を選出した「NPO部会」を設置するとともに、事務局を構成員に委託することで、会議運営におけるNPOセクターの独立性・自律性を確保している。 ○ 「全体会」を効果的・効率的に運営するため、「NPO部会」で検討・調整すべき事案が発生した場合に開催する。 ○ 幹事が、会議の成果を地域に持ち帰り、関係NPO等に対する情報提供・提言・施策化に向けた支援等を行う。 | <p>【構成員】 県内NPO</p> <p>【幹事】 選出された県内NPO22団体</p> |

| | | |
|----------|--|--|
| 行政 部会 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア活動、コミュニティビジネス、震災復興、県ビジョン等多様な側面から参画協働施策を推進する県関係課を幹事とする「行政部会」を設置し、本会議による提言の県施策化等に必要の実効性を確保している。 ○ 「全体会」を効果的・効率的に運営するため、「行政部会」で検討・調整すべき事案が発生した場合に開催する。 ○ 幹事が、会議の成果を県に持ち帰り、県関係課等に対する情報提供・提言・施策化に向けた支援等を行う。 | 【構成員】 県関係 32 課 【幹事】 ・参画協働課 ・ビジョン課 ・しごと支援課 ・復興推進課 |
| 専門部会 | 特定分野のテーマについて効果的・効率的に対応するとともに、「NPO部会」「行政部会」幹事以外のNPO・行政機関等に、広く会議への参画機会を提供するため、プロジェクトチーム方式で特定テーマの検討に当たる「専門部会」を開催する。 | 「NPO部会」「行政部会」幹事、テーマに関係する県内NPO・行政 |
| 出前会議等 | 地域固有のテーマについて効果的・効率的に対応するとともに、「NPO部会」「行政部会」幹事以外のNPO・行政機関に、広く会議への参画機会を提供するため、地域の要請に応じて当該地域と協働で企画運営に当たる「出前会議」等を開催する。 | 「NPO部会」「行政部会」幹事、開催地域のNPO、行政等 |

(会議のプロセス・成果の公開)

専用ホームページを設置し、事前に「全体会」等の日程・会場を公表し広く傍聴機会を提供するほか、事後にその議事録を公表することで、会議のプロセス及び成果を広く共有しています。

◇会議の開催状況

平成 18 年度は、「全体会」において、ひょうごボランティア基金事業「NPOパワーアップ助成」の改正、県民に団体・NPOでのボランティア活動体験の機会を提供する「ひょうごボランティア活動トライやる事業」のあり方など、具体的な県施策の展開方針に関する協議を実施するほか、県内各地域の課題にきめ細かく対応するとともに、より多くの団体・NPO等に会議への参画機会を提供するため、県内団体・NPOから応募のあったテーマについて、当該NPOと県関係課を交えた意見交換を行いました。

また、「専門部会」においては、協働事業の評価を通じて、NPOと行政が相互理解を深めよりよい協働のあり方とともに模索することにより、一層の協働促進を図る「協働事業評価システムの構築」に向けた検討を進めるほか、多くの県民の参加を得て、「出前会議 in 尼崎」や「知事さわやかトーク」を公開で実施しました。

| 区 分 | 議 事 | 開催回数 |
|--------------------------|---|-----------------|
| 全体会 (NPO部会) (行政部会) | <ul style="list-style-type: none"> ○ ひょうごボランティア基金事業「NPOパワーアップ助成」改正 ○ ひょうごボランティア活動トライやる事業 ○ テーマ別協議 <ul style="list-style-type: none"> ・ NPOへの委託・補助の評価のあり方 ・ 学校での子どもと教員のコミュニケーション能力向上 ・ 小学校自然学校指導補助員の充実 ・ 中高年の健康・体力、生きがいコミュニティづくり ※ 県内NPOから応募のあったテーマについて当該NPOと県関係課を交えて意見交換 | 5回 (NPO部会5回) |
| 専門部会 | ○ 協働事業評価システムの構築 | 5回 |
| 出前会議等 | (出前会議 in 尼崎) 安全・安心、空き施設利用、指定管理 (知事さわやかトーク) 企業とNPOの協働、子育て支援、中間支援 | 2回 |

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向**(本会議の政策提言機能の強化)**

本会議は、NPOと行政の情報共有・協議の場にとどまらず政策提言機能を有しており、「NPO活動応援貸付制度」「ひょうごボランティアプラザの設置」「ひょうごボランティア基金助成メニュー」等の県施策は、本会議の提言から生まれたり、本会議の意見が反映されたものです。本会議の実効性を一層高め定着させていくため、政策提言機能の強化に必要な取り組みを進めます。

- ① 提言の内容充実と実効性確保のため、「行政部会」の編成を拡充するほか、県の施策形成・予算策定の動向・スケジュールをにらみながら、本会議の検討テーマ・スケジュールを設定し、実施年度の前半までに検討成果を出していくよう努めます。
- ② これまでに、特定NPOの個別案件に係る要望等が一部見受けられましたが、本会議がNPOセクター全体の課題や協働のしくみを協議する場であることを再認識し、有効な協議を行っていくため、「NPO部会」の編成や「専門部会」活動の充実、「全体会」の運営方法について見直しを行います。

(地域におけるNPOと行政の協働促進に向けた取り組みに対する支援)

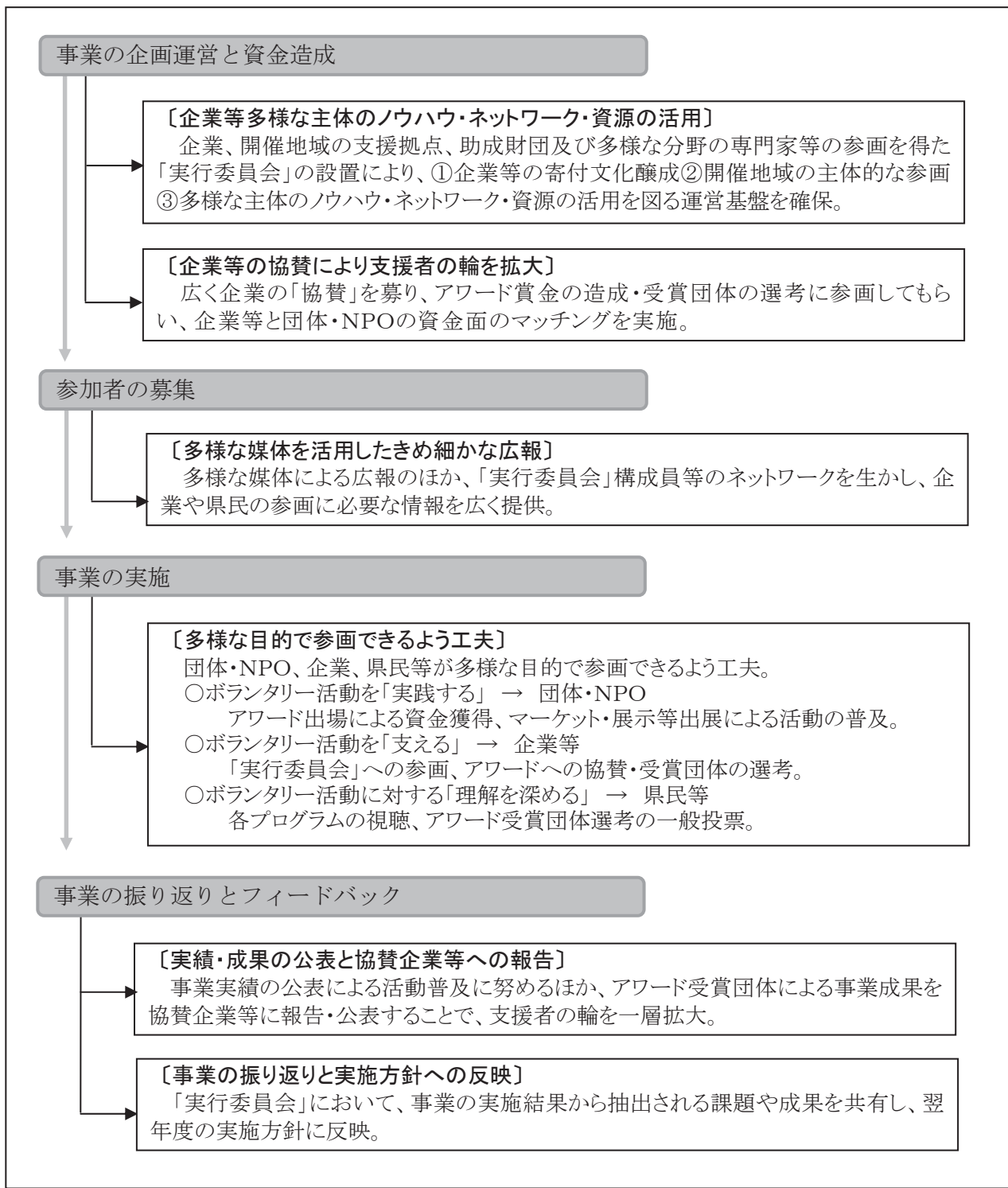
地域と協働開催する「出前会議」や、「NPO部会」幹事による地元市町への働きかけなどにより、一部の市町において、本会議と同趣旨のしくみが形成されつつあります。今後とも、各地域で整備が進む市町設置のボランティア・市民活動支援センター等地域支援拠点に対して、本会議の意義や運営ノウハウを普及するとともに、NPOによる協働事業提案の実現を図る「行政・NPO協働事業助成」「ボランティア活動支援拠点・NPO協働事業助成」、行政システムに精通した専門家が行政の予算・政策形成のしくみ等に関するアドバイスを行う「プログラムオフィサー派遣事業」等の活用促進を通じて、地域におけるNPOと行政の協働促進に向けた取り組みを支援していきます。

ひょうごボランティア活動メッセ(ひょうごボランティア・スクエア 21) (県民政策部)

事業概要

阪神・淡路大震災を契機としたボランティア活動の機運を一層高め、定着させていくため、例年1月17日前後に、県内団体・NPOが一堂に会し、企業等寄付者と団体・NPOの資金面でのマッチングを図るアワード、フォーラム、展示等を通じて、企業等の寄付文化醸成及び県民のボランティア活動への理解・参加を促進するイベントを開催しています。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

◇「実行委員会」等による事業の企画実施

(実行委員会)

企業、開催地域の支援拠点、助成財団及び多様な分野の専門家等の参画を得た「実行委員会」を設置することで、①企業等の寄付文化醸成を図る本事業を効果的に実施する基盤を確保するとともに、②開催地域の主体的な参画を促し、③多様な主体のノウハウ・ネットワーク・資金等の資源を生かした事業の企画運営を行っています。

| | |
|--------|---|
| 役 割 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画・予算と事業報告・決算の審議 ・役員を選任・会則の制定改廃の審議 ・事業の実施 ほか |
| 組 織 | 全体会のほか、部会を設置することで各実行委員の主体的な参画を促進 <ul style="list-style-type: none"> ・アワード部会 (ボランティア・市民活動元気アップアワード) ・フォーラム部会 (ひょうごボランティア・市民活動フォーラム) ・会場部会 (地域活動パネル展・ふれあいマーケット ほか) |
| 構 成 員 | 企業・労組、助成財団、団体・NPO、学識経験者、支援拠点、行政等 22団体・個人 (開催地である姫路市の行政・NPOを含む) |
| 開催回数 | 6回/年度 (このほか各部会ごとに2・3回) |
| 主な協議内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○18年度事業計画等 <ul style="list-style-type: none"> ・推進体制 ・事業の内容・日程・開催地域・広報・予算 ・資金造成 (協賛金の募集) ほか ○18年度事業報告等 <ul style="list-style-type: none"> ・18年度事業の総括 ・19年度以降の事業のあり方・19年度事業の実施方針 ほか |

(協賛企業等)

企業等に対しては、「実行委員会」のほか、広く「協賛」による参画を求め、アワードにおける企業と団体・NPOとの資金面でのマッチングを図るなど、団体・NPO等の支援者の輪の拡大を図っています。

| | |
|-------------|--|
| 役 割 | <ul style="list-style-type: none"> ・資金提供 (ボランティア・市民活動元気アップアワードの賞金造成) ・ボランティア・市民活動元気アップアワードの受賞団体の選考 |
| 協賛数等 (協賛金額) | 県内20企業 (949千円) |
| 協賛を得る工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット・ホームページ等における協賛企業名の公表 ・受賞団体による企画提案事業の終了後、その成果を協賛企業等に報告 ・企業名を冠した冠賞のしくみづくり |

◇事業の内容・実施結果

(開催日・開催場所)

阪神・淡路大震災を契機としたボランティア・市民活動の機運を一層高め定着させるため、例年1月17日前後に被災地域で開催することとしていましたが、平成17年度以降は、こうした取り組みを全県に広げていくため、被災地域外でも開催しています。平成18年度は、平成19年1月28日(日)を中心に、姫路市内の「イーグレひめじ」で開催しました。

- ・平成12年～16年 神戸市
- ・平成17年度 西宮市
- ・平成18年度 姫路市

(プログラム・実施結果)

県内各地域の団体・NPOが一堂に会し、企業等寄付者と団体・NPOの資金面でのマッチングを図るアワード、フォーラム、展示等を通じて、企業等の寄付文化醸成及び県民のボランティア活動への理解・参加を促進するイベントを開催しています。

事業の実施に当たっては、団体・NPO、企業、一般県民が、ボランティア活動を「実践する」「支える」「理解を深める」など多様な目的で参画できるよう工夫しています。

| プログラム | プログラムの内容・実施結果 | 出演・出展団体数 | 来場者数 |
|----------------------------------|---|----------|-------|
| ボランティア・市民活動 元気アップ アワード | <ul style="list-style-type: none"> ○ アワードというしくみにより、団体・NPOによる事業企画等の提案発表及び団体・NPOと企業等資金提供者のマッチング機会を提供し、企業等の寄付文化醸成に努めています。 ○ 受賞団体の選考に当たっては、学識経験者や協賛企業等による「審査員投票」のほか、来場者による「一般投票」を実施し、多様な主体の参画を確保しています。 ○ 企業等から資金提供を受けて実施した団体・NPOの事業の成果を、当該企業等に報告するとともに広く公表し、さらなる支援者の輪の拡大に努めています。 <p>【元気アップコース】 (21団体応募) これから実施する新たな企画提案事業内容を審査 ・元気アップ大賞 [賞金 100万円] (1団体受賞) ・元気アップ賞 [賞金 15万円] (3団体受賞)</p> <p>【こつこつコース】 (29団体応募) これまでの活動実績を審査 ・こつこつ大賞 [賞金 20万円] (1団体受賞) ・こつこつ賞 [賞金 5万円] (10団体受賞)</p> | 15 | 300 |
| ひょうごボ ランティ ア・市民活動 フォーラム | 『『コミュニティの再生』はみんなの力で』をテーマに、基調講演、県内NPO・ボランティアグループ、活動支援機関、労組等によるパネルディスカッション、来場者も参加できるグループディスカッションを行いました。 | — | 430 |
| ふれあいマ ーケット | ボランティア活動のPRを行うとともに、障害者の社会参加について広く市民に啓発するため、小規模作業所等による物品・食品の販売を通じて、ボランティア活動団体と来場者の交流を図りました。 | 9 | 800 |
| 地域活動パ ネル展 (1/20~2/1) | 県内の地域団体等が、取り組み事例の報告やパネル等の成果物を展示し、地域組織とNPO等の交流連携及び地域活動の一層の活性化を図りました。 また、前年度の元気アップコース受賞団体の企画提案内容を展示し、ボランティア活動の啓発を図りました。 | 61 | 2,150 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ○活動資源マッチングシステムコーナー ○地域づくり活動情報紹介コーナー ○企業・NPO協働奨励事業表彰式 ○ひょうご県民ボランティア活動賞表彰式 | 48 | 386 |
| 合計 | — | 133 | 4,066 |

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向**(団体・NPOと企業・県民等支援者がダイレクトにつながる環境の整備)**

本事業では、企業・県民等と団体・NPOの資金面でのマッチング機会を提供してきましたが、平成18年度から、運営委員会の仲介により、企業・行政等の「資金、活動の資機材・スペース、人材等」と団体・NPOの活用ニーズの個別マッチングを図る「ボランティア活動資源マッチングシステム」のモデル運用を開始するなど、ひょうごボランティアプラザを介した、様々な活動資源の調達・分配のしくみを提供しています。

さらに今後は、団体・NPOの自律的な財政基盤の確立を図るため、行政等の関与を極力控え、団体・NPO自らが、活動の社会的意義や成果を積極的にアピールすることを通じて、企業・県民等の共感や信頼を獲得し、支援者の輪を拡大していく必要があります。このため、「地域づくり活動情報システム『コラボネット』」によるNPO法人閲覧資料の公開や、団体・NPOが自らの活動に対する支援の募集情報を発信できる「ひょうごボランティア活動支援ナビ」の活用促進を図るほか、支援対象となる団体・NPOの選定に役立つ「NPO評価」等の検討を通じて、団体・NPOと企業・県民等支援者がダイレクトにつながる環境の整備に取り組みます。

(企業自身による社会貢献活動の促進)

これまで、団体・NPOに対する支援者の輪を拡大する観点から、本事業や「ボランティア活動資源マッチングシステム」等により、企業等と団体・NPOの活動資源のマッチング等を図る事業を展開してきました。

今後は、これらの取り組みを一步進め、地域社会を構成する重要なファクターである企業自身による社会貢献活動を促進していくため、大企業が中心となっている活動を中小企業にまで広げていく必要があります。このため、社会貢献活動の意義や実践ノウハウの普及、中小企業や取引先・消費者等ステークホルダーの機運醸成に努め、多様な主体がそれぞれの役割を果たしながら相互のパートナーシップを築く「ひょうごの地域づくり活動」をより大きく確かなものとしていきます。

県民行動プログラムに基づく活動の促進（県民政策部）

事業概要

地域ごとの個性と特色を生かした地域の将来像「地域ビジョン」の実現をめざし、県民の主体的な取り組みである「県民行動プログラム」をはじめ、県民局を中心に県内各地域の地域経営の指針となる「地域行政推進プログラム」、多様な主体がともに取り組めるような「シンボルプロジェクト」からなる「地域ビジョン推進プログラム」（第2期）を平成17年度末に策定し、平成18年度から推進しています。

参画と協働の方法

幅広い県民の参画と協働のもと、地域夢会議、地域ビジョン委員会の開催、実践活動を通じて、地域の魅力を高める多様な取り組みを進めるとともに、県民と行政がともに取り組む「シンボルプロジェクト」の展開を図ります。また、地域がかかえる課題を共有し、ともに取り組む契機として「みんなの夢会議」を開催しています。

地域ビジョン委員を中心とした活動の展開

〔地域夢会議〕

- ・ 県民誰もが参加できる「地域夢会議」（地域ビジョン委員会と県民局が主催）の場で、県民行動プログラムの取り組みを紹介、参画を呼びかける等、つながりづくり、取り組みの輪の拡大に努めた。
- ・ それぞれの活動を深めるために、参加者とともに、これまでの取り組みを振り返るとともに、これからの課題について検討。
- ・ テーマを設定し、グループでの意見交換を実施（県民局単位で開催）。

〔地域ビジョン委員(会)〕

- ・ 各県民局ごとに、公募・推薦で選ばれた委員で構成。
（第3期委員各地域100名程度、任期2年間〔H17～H18年度〕）
- ・ 地域ビジョン委員で構成される委員会が中心となって夢会議を運営したほか、広報誌の発行などによる情報発信、県民行動プログラムの展開状況等のとりまとめなどを実施。

〔県民行動プログラムの推進〕

- ・ 平成18年度からの第2期地域ビジョン推進プログラムのスタートとして、幅広い県民の呼びかけを行いながら、テーマごとにプログラムに基づく実践活動を展開。さらに県民と行政がともに取り組むシンボルプロジェクトを展開。

〔みんなの夢会議の開催〕

- ・ 全県を対象とし、各地域が課題としている共通のテーマをもとに、全員参加型の意見交換を実施。また、各地域で取り組まれている地域づくり活動を発表。

参画と協働の実施状況

◇地域夢会議

団塊世代等の地域活動への参加をテーマとした、『地域見本市「地域ってこんなところよ、お父さん!」』（阪神北地域）、若者の意見を聞くことを主眼とした「丹波の森夢会議」（丹波地域）など県民誰もが自由に参加し、意見交換する地域夢会議を県下各地域で開催しました。

◇地域ビジョン委員会の開催

第2期地域ビジョン推進プログラムの推進を図るため、六甲山の魅力を活かすプログラムグループ（神戸地域）や但馬の近代化遺産の調査・マップづくりグループ（但馬地域）など、県民行動プログラムによる実践活動を進めるとともに、第3期地域ビジョン委員の2年間の活動を総括しました。

◇「みんなの夢会議」の開催

県民行動プログラムやシンボルプロジェクトなど、地域ビジョンの取り組みをはじめ、地域課題や地域の個性を生かした様々な地域づくり活動が「つながる」「ひろがる」「深まる」をテーマに、全県を対象に「みんなの夢会議」を開催しました。

| 開催地域 | テーマ | 開催日 | 参加人数 |
|-------|-------------------------|------------|-------|
| 西播磨地域 | 「地域資源を生かし、みんなで地域の魅力を発信」 | H19. 2. 17 | 約200名 |
| 北播磨地域 | 「循環型の地域づくりをめざして」 | H19. 3. 18 | 約200名 |

参画と協働の主な課題と今後の取り組み方向

（求められる多世代の参画）

地域の課題に対応するためには、幅広い世代の県民がともに課題を知り、考え、取り組んでいくことが大切です。多世代交流の機会づくりや、次代を担う若い世代が問題意識をもって、地域づくりを考える機会を設けること、実践活動にかかわる人の結びつきの拡大支援、また、働く人や団塊の世代などシニア世代の巻き込みなど新たな主体の参画を促します。

（取り組みの輪の一層の拡大）

異なる地域の団体の取り組みは、自分たちの活動のヒントになります。他の地域や団体と連携して活動することで、取り組みの輪の広がりが期待されます。ホームページや地域SNSなどによる情報発信は交流と協働の輪を広げます。また、地域のさまざまな人的資源を活用して、地域の課題に対応していくという視点も重要です。「知っている人を知っている」人や組織を介して、ネットワークをつくり、広げていくという発想で取り組みます。

（地域資源の活用）

地域の個性や特性を生かすためには、地域資源を再発見することが大切です。昔を学び直すことや外部の視点も取り入れながら、地域資源の総棚卸しを行ってみることも必要です。歴史、文化、自然、地理、産業、人材などの情報をみんなで共有できるしくみをともにつくります。

(取り組みを評価する)

これまでの取り組みを振り返り、点検・評価を行うことが活動の展開と参画の輪の一層の拡大につながります。また、共通の目標となる指標を設定することも大切です。21世紀兵庫長期ビジョンがめざす社会像の達成状況を評価する「美しい兵庫指標」のしくみの改善や地域ごとの指標のあり方についても取り組みを続けます。

＜参考：シンボルプロジェクト一覧＞

| 地 域 | 名 称 | 概 要 |
|-----|--|---|
| 神 戸 | 神戸夢交流～神戸の魅力を活かした多彩な交流の展開～ | 「楽しいまち・神戸」の実現をめざして、六甲山、都市近郊の農漁業、多文化など神戸の魅力を活かした多彩な交流活動を展開し、人、団体、地域内外のネットワークの拡充を進めます。 |
| 阪神南 | 阪神南なぎさ回廊プロジェクト | 都市環境・自然環境の保全・再生や整備を進めるとともに、先進的な取り組みを地域の内外に発信することによってイメージを高めながら、元気あふれる環境先進都市づくりをめざします。 |
| 阪神北 | 活力と潤いの生活空間再発見～人が出会えば地域が動く～ | 自らが住む地域の良さ、地域の人と人のつながりの大切さの再発見を通じて地域への愛着を高め、地域の課題に主体的に対応する担い手を発掘し、地域づくり活動に誘導します。 |
| 東播磨 | いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクト | 東播磨を特徴づける貴重な水辺空間であるため池を核とした人づくり、魅力づくりを進めることで、地域の多様な主体の参画と協働による新しいふるさとづくりを進めます。 |
| 北播磨 | 交流による地域の元気づくり&共に支え合うやさしい地域づくり | 若者が地域に参加しやすい環境を地域の人々と協働で整え、地域の元気づくりにつなげるとともに、「命の大切さ」を学び、心肺蘇生法の普及啓発と他人を思いやる心の醸成を図ります。 |
| 中播磨 | 銀の馬車道ネットワーク～連携と交流の地域づくり | 中播磨地域を南北に貫き、生野銀山から瀬戸内海に至る歴史街道・銀の馬車道をシンボルとして、多彩な地域資源の掘り起こしと地域内外の連携・交流によるネットワーク化を進めます。 |
| 西播磨 | 西播磨出る杭プロジェクト～「出る杭」の育成と地域活性化～ | 地域で頑張る人たちを応援する「出る杭大会」の継続開催と「出る杭」を核とした地域づくり活動団体への支援や交流の輪の拡大をめざす取り組みを展開します。 |
| 但 馬 | コウノトリと共生する地域づくりの推進 | コウノトリの住める環境は人間にも安全で安心な環境であるとの認識のもと、名実ともにコウノトリと人とが共生する地域をめざし、各主体が連携しながら取り組みを推進します。 |
| 丹 波 | たんば田舎暮らし支援プロジェクト～ようこそ「たんば」へ 田舎暮らしのススメ～ | 地域の魅力を発信し、地域資源を生かした様々な交流活動を展開するとともに、新規就農、二地域居住、週末滞在など様々な形での田舎暮らしの希望者への支援を行います。 |
| 淡 路 | 淡路島まるごとミュージアム構想 | 淡路島の持つ地域資源と島民の地域活動を有機的につなぎ、エコミュージアムという形で再構築することにより、地域の魅力の向上を図り、ひと・モノ・情報の交流の拡大をめざします。 |

◇各地域県民行動プログラムの推進状況（78 ページ～97 ページ参照）

神戸地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

1 神戸地域ビジョン委員会の取り組み

(1) 地域ビジョン委員が中心となって取り組む実践活動

第3期神戸地域ビジョン委員会の9グループが、県民行動プログラムの「行動提案」に呼応した先導的実践活動に取り組んでいます。

| グループ名・活動テーマ | 活動状況 | |
|---|--|--|
| <p>農都・神戸づくりグループ</p> <p>「農・漁」を学び、地元の農産物を「見る」「食べる」「触れる」を体験し、楽しむコースづくりに取り組む。地産地消をテーマに、神戸の農・漁業の現状を学ぶため、生産者と交流・意見交換を行う。</p> |  <p>▲ 農業見学ツアー</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■味噌づくり・イチゴ狩り体験ツアーを実施 ■神戸県民局制作の「市民農園マップ」の編集に協力 ■農水産物の直売を実施 ■地元で採れた農水産物を使っての親子クッキングを開催 |
| <p>六甲山を活かすプログラムグループ</p> <p>六甲山の良さを知ってもらうため、「六甲山の楽しみ発見」ウォークを開催する。六甲山の楽しみを紹介するマップづくりに取り組む。</p> |  <p>▲ 六甲山楽しみ発見ウォーキング</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■六甲山の楽しみ発見ウォーキング（新緑編）を実施 ■六甲山で採れた木の実や枝を使った工作や植生紹介を実施 ■布引滝・再度山コースを紹介する六甲山マップの制作に取り組んだ |
| <p>神戸経済の活性化グループ</p> <p>「コミュニティビジネスを地域で盛り上げよう」を切り口に、商店街の活性化に向けての活動を見学・調査する。地域の活性化活動を紹介・PRする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■稲荷市場、水道筋商店街、御影市場旨水館などでの取り組みを見学・調査  <p>▲ 夢会議「学生の見た神戸のまち(商店街)」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■「KOBE鉄人PROJECT」を取り上げて1.8mの鉄人28号を設置するなど、NPOや商店街の活動を紹介  <p>1.8mの鉄人28号▶</p> |
| <p>グローバルな魅力づくりグループ</p> <p>多文化共生社会をめざして、留学生を対象にしたツアーやフェスタを開催するなど、留学生や外国人県民との交流の場を提供する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■留学生を対象に、播磨科学公園都市の見学や赤穂市の伝統文化を学ぶツアーを実施  <p>▲ 留学生との県内施設見学ツアー</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■中国の伝統的な楽器や京劇、インドダンスや国際学校によるバンド演奏など、国際的なステージを演出  <p>◀ 文化交流フェスタ</p> |
| <p>環境・循環型社会グループ</p> <p>ごみの減量・資源化をめざして、リサイクル施設等の見学会を実施し、環境問題を学習する。生ゴミ堆肥化装置を利用したリサイクルを研究する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■コープこうべ食品工場などのリサイクル施設、神鋼神戸発電所、キリンピアパーク神戸、神戸市のゴミ処理施設など様々な施設を見学し、環境問題を考えた ■生ゴミの堆肥化装置の展示やその取り組みなどを情報発信 |  <p>▲ リサイクル設備の見学</p> |

| | | |
|--|--|--|
| <p>子育ての支援グループ</p> <p>子どもが普段しない遊び、出来ない遊びを思う存分楽しめる催しを実施する。子育て家庭の交流や子育て中の母親を支援するしくみを考える。</p> |  <p>▲手作りおもちゃのコーナーを設置</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■藤原山公園プレーパーク「ワイワイパーク」、神戸大サテライト施設「のびやかスペースあーち」での子育て支援の取り組みを見学 ■子どもたちが自由に絵を描け、遊べる場を設けて、子育て家庭の交流や子どもの活動の場づくりに取り組んだ |
| <p>青少年育成・居場所づくりグループ</p> <p>青少年の健全育成をめざして、子どもたちが自分らしくふるまえ、表現できる居場所づくりに取り組む。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■「こどもの絵画展」「谷川浩司棋士のトークと子どもたちとの将棋十面差し」「銭太鼓・歌舞伎・楽器演奏」などを実施  <p>▲夢会議「子どもがつくる人・まち・こころ」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■「こどもたちの未来をテーマにイラスト展」「工作、お絵かき、ぬいぐるみ、動くオモチャ遊び」を実施  |
| <p>高齢者のお世話をするグループ</p> <p>健康社会の実現をめざして、介護予防をテーマに「認知症サポーター養成講座」「高齢者の口腔ケア」などの研修会を開催する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■「認知症サポーター養成講座」「口腔ケア」「食育」「骨粗しょう症」「利用者の立場から見た介護保険制度」などの研修会を開催 ■「タオルを使った健康体操」を実演 |  <p>▲ 認知症サポーター養成講座</p> |
| <p>コミュニティの活性化グループ</p> <p>安全と安心のまちづくりをめざして、「防災、防犯に関するアンケート」を実施し、その結果を分析して、提言する。</p> |  <p>▲ 夢会議「安全と安心のまちづくり」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■防災福祉コミュニティを対象に、「防災、防犯に関するアンケート」を実施 ■アンケート結果の分析をまとめた冊子「地域コミュニティの活性化について」やパネルを制作し、広く情報発信 |

(2) シンボルプロジェクト『神戸夢交流』の展開

六甲山、都市近郊農・漁業、多文化など神戸の魅力を活かした多彩な交流活動に取り組む『シンボルプロジェクト～神戸夢交流～』として、「ゆめまつり」を開催。

神戸地域ビジョン委員会を中心に、様々な団体が出展・出演し、多くの県民が参加・交流するとともに、神戸地域ビジョンや神戸地域ビジョン推進プログラムの周知を図りました。

- ◇ 日時：平成18年11月5日（日）
- ◇ 場所：デュオドーム、神戸生活創造センター
- ◇ 出展・出演団体数 35グループ・個人
- ◇ 参加・交流者数 30,000人（うち体験型の催しに参加した方は3,000人）



2 神戸地域ビジョンネットワークによる交流と連携

地域で活動する団体・グループ・個人などが、さまざまな活動の情報を交換し、相互の活性や交流に取り組む「神戸地域ビジョンネットワーク」を運営しています。

- ◇情報誌「神戸ゆめネット」の発行（年4回発行）
- ◇ホームページ「web版神戸ゆめネット」の運営

阪神南地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

阪神南地域の県民行動プログラムは、ビジョンのめざす阪神市民文化社会を築くため、次の4つを行動目標にして、県民の参画と協働により推進しています。

【行動目標Ⅰ】多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる




【行動目標Ⅱ】自律と協働による温かいコミュニティをつくる

【行動目標Ⅲ】自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する







【行動目標Ⅳ】豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

(1) 実践グループの活動状況





【行動目標Ⅰ】多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる

| グループ名 | 平成17年度の取り組み | 平成18年度の取り組み |
|-----------------|--|---|
| ①芸術文化のネットワークづくり | ●阪神芸術文化の集いⅡ 平成18年2月26日(日) 兵庫県立芸術文化センター ・小ホール(308名参加)  | ●第2回阪神ニューアーティストコンテスト ‘新人舞踏家コンテスト’ 平成18年10月22日(日) アルカイクホール・オクト (10グループ参加)  |
| ②阪神南再発見クラブ | ●話し方講座～話し上手・聞き上手になろう 平成18年2月8日 から3月22日(6回) 集・住・間T i o ティオ (延べ141名参加)  | ●わが町自慢を募集し、「阪神南ええとこ100選」を選び、歴史・文化・風土・残したい町の風景などを記録・保存・ガイドマニュアル作成  |
| ③いきいきシニア阪神南 | ●食育と歌レク体操の講習、指導、実践 平成18年3月3日(金) 芦屋健康福祉事務所 (39名参加)  | ●“脳の活性化こそ健康の秘訣”をテーマに「長生き音頭と脳の活性化体操」の実施 平成18年9月26日(月) 上ヶ原公民館(25名参加)  |




【行動目標Ⅱ】自律と協働による温かいコミュニティをつくる

| グループ名 | 平成17年度の取り組み | 平成18年度の取り組み |
|----------------|---|--|
| ④のびのび子育て楽しい地域 | ●ワークショップと1日プレーパーク実施 平成18年3月12日(日) 尼崎市南塚口町 (延べ117名参加)  | ●プレーパークの実施とリーダー養成 平成18年11月23日(木) 尼崎市南塚口町(森公園) (約100名参加)  |
| ⑤安全と安心の街づくり | ●芦屋市、西宮市、尼崎市の阪神電鉄全鉄道駅ユニバーサルデザイン調査 平成18年3月19日(日) 阪神鉄道17駅 (23名参加)  | ●阪神南全鉄道駅ユニバーサルデザイン調査 芦屋市、西宮市、尼崎市の全鉄道駅(JR・阪神・阪急)のユニバーサルデザインを調査し、マップを作成  |
| ⑥『五つ星社会』・連帯と活動 | ●高齢者の憩いの場づくり 独居高齢者を対象とした食事会と歌のプレゼントを行い、憩いの場の提供 平成18年3月20日(月) エルホーム芦屋(30名参加)  | ●講演会「ホスピスの現場から」の開催 緩和医療の現場や将来の展望について講演 平成18年10月3日(火) 西宮市役所東館(120名参加)  |

【行動目標Ⅲ】自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する

| グループ名 | 平成 17 年度の取り組み | 平成 18 年度の取り組み |
|-----------------|--|---|
| ⑦花と緑の街づくり | ●花と緑づくり 絶滅しつつある海浜植物を保存・再生するため、プランターで育成  | ●「簡便な生ゴミの手づくり堆肥化」勉強会実施 平成 18 年 10 月 2 日（月） アクタ西宮 西宮市消費生活センター会議室（23 名参加）  |
| ⑧阪神南環境ネットワークづくり | ●都市水路の環境整備とビオトープ化 都市水路の現状を調査し、ビオトープ化の検討  | ●「阪神南水辺フォーラム 2006」の開催 平成 18 年 12 月 3 日（日） 西宮市民会館（50 名参加） 貴重な水辺を次世代に残していくための方策等を検討  |
| ⑨阪神南エコライフの街づくり | ●エコバスによる環境学習会（一般参加型） 平成 18 年 3 月 13 日（月） 新日本製鐵(株)広畑製鐵所、龍野「童謡の発祥の地」、西日本衛材(株)（48 名参加）  | ●エコサポーター養成講座（6 回） 平成 18 年 5 月 13 日（土） ～11 月 18 日（土） 環境問題を知り、知識技能を地域で広げる人材を養成  |

【行動目標Ⅳ】豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

| グループ名 | 平成 17 年度の取り組み | 平成 18 年度の取り組み |
|----------------|--|--|
| ⑩阪神南のツーリズムを創る会 | ●ガイド養成講座の検討 ●3 市でのツーリズム情報の収集や他府県や他市でのツーリズム先進事例の研究 | ●地域ガイドボランティア養成講座（7 回） 平成 18 年 9 月 13 日（水） ～12 月 13 日（水） 阪神南地域のツーリズム資源を発掘、ガイドとしての心得などを学ぶ内容を提供  |
| ⑪阪神南ビレッジ | ●「かふえ・de・あまがさき」の開催 平成 18 年 2 月 23 日（木） ～2 月 27 日（月） リベル商業ビル館内（阪神電鉄出屋敷駅前） （延べ 1,000 名参加）  | ●にぎわいのまちづくり 西北街舞台「ある晴れた日に」前夜祭で、オープンカフェを出店 平成 18 年 7 月 14 日（金） 西宮市高松公園  |

(2) 広報活動の状況

各グループ間の活動状況等の情報を毎月発信するとともに、委員会の活動を紹介するチラシを作成し、地域づくり団体・グループ等への地域ビジョン推進の普及啓発を行いました。



(3) 阪神なぎさ回廊プロジェクトの推進状況

環境先進都市づくりの取り組みを情報発信する地域協働イベントとして「阪神南なぎさフェスタ 2006」を平成 18 年 11 月 26 日（日）に尼崎の森中央緑地において実施しました。

親子の水辺でのふれあいイベント、尼崎 21 世紀の森づくり、御前浜における環境保全活動の情報発信などの取り組みが進められている。

また、「阪神なぎさ回廊」、「尼崎 21 世紀の森」、「御前浜環境再生・整備」等の事業を推進しています。



阪神北地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

地域ビジョンの4つの行動目標に即し、地域ビジョン委員会が県民行動プログラムを取りまとめ、ビジョン実現に向けた取り組みを進めています。

・シンボルプロジェクト・

「活力と潤いの生活空間再発見事業」～人が出会えば、地域が動く～ を実施

団塊の世代を始めとする各層に、阪神北地域の魅力を再発見し、地域への愛着を持ってもらい、地域活動への取り組みを促すため、川西市において、地域見本市「地域ってこんなとこよ、お父さん！」～知ろう、創ろう我がまちの魅力～を開催。参加者320名、出展団体58団体





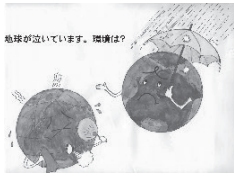

行動目標1 多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる

| プログラム | 主な取り組み内容 |
|---------------------------|--|
| 多世代交流でふれあえるまちづくりを進める | <p>世代交流を進めていくためのノウハウを学ぶため、地域で活動している人を招き、「世代間交流の促進に関する意見交換会」を宝塚市で実施。</p> <p>多世代交流に対する意識調査のため、「現役世代を対象としたアンケート」を行うとともに、世代間交流の一環として、「学生との討論会」(大手前大学)や「多世代交流会」(第1分野合同企画、於:宝塚市)を実施。</p> |
| 多世代で楽しくのびのびと子育てしやすい環境をつくる | <p>目標として掲げる「多世代で子育て」を実現するため、子育て支援の現状・あり方を考える「パネルディスカッション」(川西市)、「フリートーク」(三田市)を開催。</p> <p>こどもを通じての世代間交流の一環として、「多世代交流会」(第1分野合同企画、於:宝塚市)を実施。</p> |
| メイクにより、いきいき元気な人づくりを進める | <p>「お化粧をして外見を変えることによって、心がいきいきと元気になって活動的になっていく」そういった人を増やし、いきいきと元気なライフスタイルを育む社会をつくるため、三田市や伊丹市の高齢者施設や「多世代交流会」(第1分野合同企画、於:宝塚市)において「メイク指導の講座」を実施。</p> |


行動目標2 自律と協働による温かいコミュニティをつくる

| プログラム | 主な取り組み内容 |
|----------------------------------|--|
| 高齢者・障害者が明るく楽しく健やかに幸せに“健幸”づくりを進める | <p>高齢者・障害者が明るく楽しく健やかに幸せになるよう、「出前演芸」による懇親の場を創出するため、出前県民演芸団を結成。「地域サロン “はじまるよ～”」を宝塚市・川西市・三田市・猪名川町で開催。</p> |
| “食”と“音楽”と“紙芝居”を通じて地域間、世代間交流を進める | <p>地域間、世代間の交流を進めるため、川西市東谷コミュニティ文化祭や伊丹市で行われた「もちつき会」において、「紙芝居・フルート演奏等のイベント」を実施。</p> |
| 多くの住民参加によりコミュニティを活性化 | <p>コミュニティの活性化を図るため、「人材活用を中心としたしくみを検討」とともに、地域の魅力を発信する「シンボルプロジェクト(地域見本市)」を企画・運営。</p> |


行動目標3 自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する

| プログラム | 主な取り組み内容 | |
|------------------------|--|--|
| 水循環の仕組みを知り、水を大切にす る |  | 水資源の大切さを普及するため、猪名川流域を視察する「エコバスツアー」を実施。 メンバーが足で集めた情報に基づき、武庫川・猪名川流域の「河川マップ(水の歴史探訪)」を作成。 |
| 緑を知り、緑を育てる | “緑を育てる人を育てる活動”の運動底辺を広げるため、「花と緑のフェスティバル」(宝塚市)や「ありまふじフェスティバル」(三田市)などに参加し、樹木の名称とその情報が入った2次元バーコードを記載した「この木なんの木 QR カード」を公開実演。 |  |
| ゴミの減量・省エネに取り組む |  | ゴミの減量及び地球温暖化防止への取り組みを進めるための活動の一環として、「こどもと地域の環境会議」を企画・運営。 |
| 地域の環境を考える次代を担う子どもたちを育む | こどもたちをはじめ地域が一体となって環境問題の解決に取り組んでいくため、「こどもと地域の環境会議」を県民局などと協働して開催。「楽しく学べる環境学習」や「展示ラリー」を担当。 |  |

行動目標4 豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

| プログラム | 主な取り組み内容 | |
|-------------------------|--|--|
| 地域の自然と文化、史蹟を訪ね、地域交流を進める |  | 地域の良さを地域内外に発信し交流を図っていくため、川西市の「文化施設等の視察」や伊丹市・三田市・宝塚市の「街並探訪」を実施。 |
| コミュニティ・ビジネスを通じて地域を活性化する | 人と地域をつなげるビジネスの立ち上げに向け、「人材バンクを検討」とともに、地域活動の拠点施設である「公民館」に注目し、川西市・宝塚市の「公民館の運営状況の調査」を実施。 | |

◇ ビジョン活動の普及啓発等

| 活動内容 | 主な取り組み内容 | |
|---------|--|--|
| 広報活動 | 地域ビジョン委員会だより「夢じゃーなる」の発行や地域夢会議の開催を通して、委員会活動を普及啓発。 |  |
| ビジョン勉強会 | 「男女共同参画社会づくり」をテーマに「勉強会」を実施。 | |

東播磨地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

第3期ビジョン委員会では、15の地域づくり活動プランが提案され、重点行動プランとして新東播磨地域ビジョン推進プログラムに盛り込まれました。これまで、夢会議や地域づくりフォーラムなどを通じて住民の活動への参画を募りながら、県民局施策とも連携、協働して実践活動を進めてきました。

◇シンボルプロジェクト「いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクト」の推進状況

- 【体制づくり】・いなみ野ため池ミュージアム運営協議会の設立（多様な参画と協働の場づくり、各ため池協議会の連携の強化充実）
- 【人づくり】・講座「いなみ野ため池学」の開設
- 【魅力づくり】・「ため池博覧会」の継続開催
- 【企画開発】・「いなみ野パールプロジェクト」（ぬばたま貝による淡水真珠養殖）の実施（8カ所）

◇重点行動プログラムの実践活動状況

○だれにも心地いいハートランド



悪質商法から身を守る知識普及啓発事業

住民が振り込め詐欺や悪質リフォームなどの悪質商法から身を守るためには、地域全体での見守りや声かけが大切である。高齢者や障害者ボランティアグループなどを中心に、最近の悪質商法の事例や対処方法などについて情報提供や啓発活動を行った。



子育て支援からの地域づくり

子育て支援に関する「人・場・機会」をコーディネートするシステムをつくることをめざし、子育て支援者のためのワンランクアップ講座の開催や、相互の情報交換、提供の場としてホームページを運営した。



東播磨ふれあいおでかけマップの作成

東播磨地域のバリアフリーを当事者の目線で検証し、バリアがあることにより外出が困難な人々に情報を発信している。これまでに、JR、山陽電鉄の各駅及びその周辺について「東播磨ふれあい・お出かけマップ」を作成してきた。〔実施駅〕JR土山、宝殿、明石、大久保、東加古川各駅、山陽電鉄高砂、荒井、東二見、西二見、別府駅

○いつも楽しいハートランド



ため池回廊史跡ウォーキングモデルづくり

ため池を中心に、周辺の史跡、民俗文化等をひとつのストーリーとして組み立て、実際にガイドを行うことにより、ため池を「人々の交流の場」「人、文化、自然を結ぶ場」にする。「ため池回廊通信」16巻、小冊子「ため池文化史跡回廊」を発行した。



東播磨の子どもたちに将棋を広める

情操教育として青少年の健全育成に効果がある将棋を子どもたちに広め、大人としての必要な力を身につけるよう育成する。平成17、18年度はプロ棋士を迎え「東播磨ハートランド稲美万葉杯将棋大会」を開催した。



子ども社会体験学習の応援

子どもたちが「ほんまもん体験」や「わくわく体験」をすることで、子どもたちの夢見る力、希望を持ち続ける力、共に生きる力を育てていくことを活動の目的とする。子どもわくわく体験広場「職業人と語ろう」「音楽好きな子集まれ!!」などを開催した。



弁論大会を通じて子どもたちの想いを世間に

子どもたちの想いや願いを聞き、ともに育みあう場として、平成14年度から毎年、中学生を対象に「ハートランド弁論大会」を開催している。また、中学生と市町長等が未来を話し合う「未来の街を考える」会を開催した。



ハートランドぐり石ネットづくり～地域づくり活動の支援事業

「人と人との交流」から「人的支援の活用」まで幅広いネットワークづくりを中心とした活動を実施した。毎年、ボランティアの井戸端会議を実施している。また、県民局から「地域づくり活動サポーター設置事業」の委託を受け、地域づくり活動に関する情報の発信、相談アドバイス等、地域資源のつなぎ役として活動を行った。

〇いつまでも美しいハートランド



水辺に学ぶプロジェクト

河川、ため池、海辺など、東播磨の水辺の豊かな自然や歴史、文化をみんなで学び、「美しい水辺空間」として守り、生かすための取り組みを行ってきた。水辺に関する学習会、見学会、イベント等を開催するほか、東播磨のシンボルプロジェクトである「いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクト」に参画し、「いなみ野ため池博覧会」「いなみ野ため池塾」などで活動を行った。



循環型社会を目指して

循環型社会をめざして、地域のひとりひとりが生活のなかで実践できることをテーマに、従来の価値観やライフスタイルを見直すための啓発活動に取り組んでいる。18年度は、「里山・炭焼き体験環境学習エコバスツアー」等の視察や東播磨生活科学センターとの共催による地域創造市民塾などを実施した。



地域の環境再生を目指して

地域住民が主体となり、家庭から排出される生ゴミを隣保で共同処理し、堆肥化して循環使用する運動を地域に根付かせていく。毎月、「家庭生ゴミ処理研究集会」を開催して普及に努めてきた。平成17年度に設置された実験装置を活用し、さまざまな実験を行うとともに講演会の開催等、啓蒙活動を実施した。



みんなでつくろう美しいまちを

まちの景観づくりを住民自身の手で、やりがいや生きがいをもって進めることができるよう、主として啓発を中心に活動を行っている。まちづくりは人材づくりの観点から管内市町長等を講師とする「まちづくりリーダー養成講座」等を開催した。

〇どこよりも力強いハートランド



「アイデア塾」の開催

地域住民の発明心を喚起奨励することで、生き生きとした元気地域づくり、産業元気に寄与するため、「アイデア塾」を開設した。アイデア塾では、「発明ごっこ教室」を開催し、アイデアのブラッシュアップ、発想展開方法の勉強や特許出願などの講義、アイデアの発表と討議を行った。



生涯現役人生実現の取り組み

2007年、団塊の世代が大量に退職を迎え、日本経済が大きな負担を強いられる状況が予想され、その打開策のひとつとして、定年退職者が社会に貢献できる活動の場を提供するしくみづくりを進める。まず、森林保全活動をテーマに取りあげ、東播磨・丹波地域文化交流会議を実施するなど地域を超えた取り組みを進めてきた。



光り輝かそうJR加古川線沿線地域

JR加古川線沿線地域を活性化し、東播磨、北播磨、丹波の人的、物的交流を促進する活動を行う。昔なつかしい歌声喫茶を加古川線の列車のなかで再現する「歌声列車」をこれまでに3回運行した。

北播磨地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

北播磨地域ビジョンのもと、一人ひとりが主人公になり、委員自らが主体となって「ひょうごのハートランド」をめざそうとスタートした県民行動プログラムでは、10のプログラムで具体的な活動が開かれています。

そのプログラムも、①活動の計画と見通し ②実践活動の開始 ③地域住民との情報交換 ④地域住民とのネットワークの確立と協働 など、それぞれの活動に合わせた段階を踏まえながら着実に地域住民との協働のもと活動の広がりを実感しています。

【だれにも「心地いい」ハートランド】

心肺蘇生法を普及させ「命の教育」を推進していこう

命の大切さを考える「命の教育」講習と心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の実技講習会を、中学校を中心に展開しています。平成14年度から始めた「命の教育」講習も18年度に受講者1万5千人を突破し、家族、友人の命の大切さを考え、行動できる人が1人でも北播磨に増えるように活動中です。



女性にも住みやすい「ハートランド」をめざして

男女がともにいきいきと暮らすことができ、女性や子どもが住みやすい地域づくりを考えるようにするため、セミナーを開催し、寸劇などをおして、一人ひとりが自分にあったライフスタイルを選択できる社会の実現をめざしています。



ちょっと素敵な北バーン創造委員会

北播磨の西脇・三木・加西・小野加東の各青年会議所の会員が北播磨地域ビジョン委員会に参加し、そのメンバーが中心となって、ビジョン委員以外の多くの若者を巻き込みながら、これからのさまざまな街づくりの活動に若者が積極的に参加できるよう、その対策やシステムを多くの住民とともに考え、地域に取り入れる活動を進めています。



【いつも「楽しい」ハートランド】

地域子どもの日をつくろう

地域の高齢者と子どもたち、保護者の3世代交流のイベントを実施しています。また、輪ゴムや割りばしなどを使った簡単な工作のノウハウを普及させ、さまざまな子どもの育成グループと協働しながら活動しています。



北バーン！！創祭り

身近な隣保や町内会の祭、村や里の氏神さんの祭、市や町などの祭情報を収集、その原点を探りながら、地域コミュニティについて考えるとともに、交流の場の創造をめざしています。

チームあいあい ☆子ども夢プラン☆

北播磨地域ビジョン委員会に参加している若者が中心になり、子どもたちが自ら考えた体験イベントを実施しています。実施に当たっては、ボランティアも募集し、多くの若者が指導者やリーダー、スタッフとして参加し、子どもたちの健全育成を図るとともに、委員やボランティア自らも青少年育成リーダーとしての資質を養っています。



【いつまでも「美しい」ハートランド】

歩いて見ようよ 北はりま

地域の自然・文化・歴史の再発見や歩く人の健康維持などをめざし、27コースを収録したウォーキングマップを作成しました。ウォーキングイベントを共催することで、コースマップを内外の人に利用してもらい、ウォーキングで交流する人を増やしていきます。



北播磨の自然を生かした活動を考えるグループ

山、川、田んぼ、北播磨の大きな自然をフィールドとし活動している人たちが北播磨地域ビジョン委員会に参加し、地域の人口が減少していく中で、大きな財産である自然を守り、自然とともに楽しみながら地域コミュニティを活性化させていく方法を、実践活動の中から見いだしていこうとその活動方針について検討しています。

【どこよりも「力強い」ハートランド】

JR加古川線沿線駅を交流の場に

地域の玄関としてふさわしく、地域住民の交流の場になるようJR加古川線の駅等の周辺整備に参画しました。委員が参加したJR黒田庄町駅では、新しい駅舎も完成し、周辺住民により喫茶コーナーや朝市などが行われ、新たなにぎわいスポットとなっています。

今後は、この取り組みをJR加古川線各駅に広めるとともに、JR加古川線の活性化も含めて取り組んでいきます。



街づくりダイエツ推進会議

資源の循環サイクルの確立をめざし菜の花エコ・プロジェクトを研究するため、バイオディーゼル燃料を活用したバスなど6台の実験走行を行っています。今後は、環境に優しいバイオディーゼル燃料の普及方法について新たな取り組みとして、市町の公用車によるデモンストレーションなどを行い、住民の皆さんと一体になった菜の花プロジェクトの推進・普及方法を検討していきます。



【北播磨地域ビジョンシンボルプロジェクト】

| 地域行政推進プログラムの柱 | 県民行動プログラム | 活動の状況 |
|---------------------|----------------------------------|---|
| 交流による地域の元気づくり | ちょっと素敵な北バーン創造委員会 | 夢会議や県民行動プログラムの活動に子どもたちや両親に参加してもらい、幅広い年齢層が交流しながらビジョンの活動を展開できるように工夫しています。 |
| 共に支え合う やさしい地域づくり | 心肺蘇生法を普及させ 「命の教育」を推進 していこう | 平成18年度末で「命の教育」を受講した中学生が15,000人を越え、北播磨人口の5%超に到達しました。 この子どもたちが「人の命は人が救う」勇気を持ちつづけてくれることによって、地域に他人を思いやる大きな輪が広がっています。 |

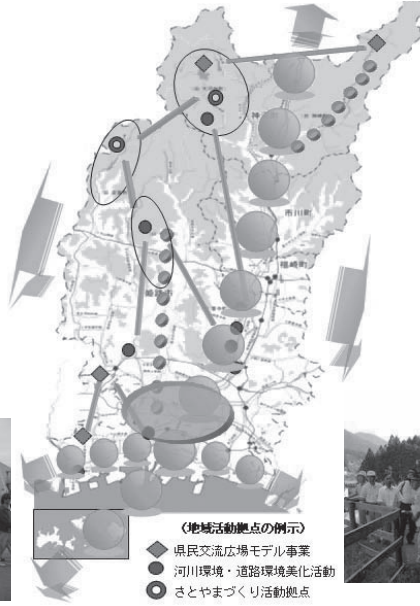
中播磨地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

シンボルプロジェクト

「銀の馬車道ネットワーク」

～「銀の馬車道」を活用した連携と交流の地域づくり～

姫路市を核として、南北に連なる市川・夢前川沿いの「銀の馬車道」と東西方向に延びる臨海軸を骨格として成り立っている中播磨地域の特性を踏まえ、これらの地域骨格に沿って、人の輪と地域の力、地域の資源をつむぐ様々な地域住民と行政の活動をネットワーク化することで、中播磨地域ビジョンの実現をめざします。



各地をつなぐフォーラム



モニターツアー



銀の馬車道イベント



大学生探検隊



モニターツアー

◇ 実践グループ活動の展開

中播磨の元気を応援する人の輪づくり

子育て支援、地域で大きく育てよう!! (委員17名)

児童・生徒の登下校時における声かけ運動や、紙芝居や人形劇などの遊びを通じた若い母親の子育て支援に取り組みました。

姫路東小学校をはじめ、4つの小中学校区で、児童生徒の下校時に、声かけ運動を行うとともに、各地で子育て支援活動に参加したほか、18年11月には姫路市立安室幼稚園で、親子ふれあい教室を開催しました。



中播磨の高齢者健康づくり (委員23名)

高齢者等の健康で楽しい生活づくりのお手伝いとして、各地で体力測定を実施し、高齢者に自己の体力を知ってもらうとともに、個人にあった運動や生活改善を勧めてきました。

18年度は、福崎町立田原小学校と姫路市立高岡小学校で、上体起こしほか6種目の測定を行いました。



地域の力を育むコミュニティの場づくり・仕組みづくり

ふれあい交流の場「夢サロン」開催 (委員14名)

公民館などを活用して、地域のみんなが世代を超えてふれあい、交流する場づくりを進めました。

これまで2回の「夢サロン」を開催したほか、18年度は、子どもを対象とした紙すき体験会の実施をはじめ、中播磨各地のふれあいサロン・ふれあい喫茶を訪問して、これらを掲載したマップを作るとともに、これらのサロンをつなぐフォーラムも開催しました。



ともに生きるみんなの安全と安心な暮らし

地域一体となった防犯への取り組み (委員8名)

犯罪被害が危惧される無人駅のパトロールや現状調査等を行い、防犯上の課題やその対応策等について検討しました。

JR播但線や姫新線、山陽電鉄の無人駅について、パトロールやアンケート調査を行い、防犯上の課題について話し合いました。また、無人駅監視システムや県警交通監視センター、広域防災センター(三木市)の視察見学も行いました。



たのしい絵マップ～地域と施設・作業所をつなぐ～ (委員8名)

障害者と地域との交流のきっかけづくりとして、授産施設や作業所の内容、そこで製作されている商品を紹介する絵マップづくりに取り組みました。

18年の夏から、グループメンバーが手分けして対象施設を訪問して聞き取り調査を行い、楽しい絵マップが完成しました。



1 主な参画と協働施策の実施状況

私たちが守ろう！播磨灘と市川・夢前川、さとやまの豊かな自然**「山・川・海」子どものための水のネットワークづくり（委員17名）**

中播磨の自然環境に関する取り組みを調査し、実践活動のネットワークづくりに取り組みました。

18年6月、自然環境保護の実践に役立てるための観察会を実施したほか、11月には、姫路グリーンライオンズクラブ、船場川であそぶ会と一緒に、船場川の環境保全をテーマとしたフォーラムを開催しました。

**ゴミ減量化活動の輪を拡げよう（委員13名）**

ゴミ減量化をテーマとするフォーラムやイベント等を通じて、ゴミ減量化活動の啓発に取り組みました。

昨年の「ザ祭り屋台イン姫路」と「国際交流フェスティバル」では、地域ビジョン委員以外の多数の応援も得て、ゴミの分別投棄の啓発活動を行いました。また、ゴミ処理施設などの見学勉強会を行ったほか、3月25日には、ゴミ減量をテーマにフォーラムを開催しました。

**中播磨のものづくり・人づくり・地域づくりの魅力を発信****歴史街道「銀の馬車道」でつなぐ人と文化（委員14名）**

「銀の馬車道」沿いの町々を訪ね、各町の歴史や文化を探る探訪会を行うとともに、探訪会と併せて、各地をつなぐミニフォーラムを開催しました。

生野から神崎、市川、飾磨など、馬車道沿線で探訪会を実施したほか、18年5月には、亀山本徳寺「銀の馬車道イベント」を開催し、ミニフォーラムや特産品の販売のほか、飾磨街道でミニ馬車を運行しました。

**交流で育む産業づくり（委員15名）**

中播磨地域の特性に着目し、①観光コースの企画づくり等の「競争力ある観光地づくり」②海洋性レクリエーションの振興等の「みなと交流の促進」③楽農・楽魚を通じた「地産地食」の推進に取り組みました。

18年10月には、観光コースの企画づくりのため、委員の家族や友人を含め24名で家島に渡り、坊勢島、男鹿島を探索しました。

**◇ 中播磨地域ビジョン推進フォーラム等の開催（平成18年度）****中播磨地域ビジョン推進フォーラム**

地域活動団体との連携や協働など、実践活動の輪の拡大に向けた具体的な取り組み方法について意見交換を行いました。

開催日 平成19年2月3日

場 所 姫路労働会館（参加者約160名）

テーマ 人の輪が築く元気な中播磨

- 内 容
- ・委員会実践活動グループの活動報告
 - ・テーマ別交流会（5テーマ）
 - ・全体発表（テーマ別交流会の概要報告）

**「ふれあいサロン」ミニフォーラム ～ひろげよう つながりの輪～**

地域のふれあいサロンが集まり、今後の活動の充実や新しいサロンの輪を広げるため、各サロンの特色や活動状況を知り合い、交流を深めました。

開催日 平成19年2月25日

場 所 夢前町公民館（参加者約160名）

- 内 容
- ・ふれあいサロン事例発表
 - ・講演「人づくり地域づくり」（神戸新聞姫路支社長 中野景介氏）
 - ・健康体操、草笛コンサート

**「ゴミ減量の輪を拡げよう」フォーラム ～美しい中播磨は私たちの手で～**

美しい中播磨づくりをめざして、ゴミ減らしや環境保全に取り組む団体・企業の活動事例の発表や参加者との意見交換を通じて活動の輪を広げました。

開催日 平成19年3月25日

場 所 姫路総合庁舎職員福利センター（参加者約50名）


- 内 容
- ・活動団体の事例発表
 - 水すましグループ、夢花フォーラム、夢前川を美しくする会
 - マックスバリュ西日本(株)
 - ・意見交換



西播磨地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況


1 県民行動プログラムの主な取り組み

出る杭大会の開催・出る杭大賞の選定

| | | |
|--------|--|---|
| 趣旨・実績 | <p>○意欲ある人の社会的認知・応援のため、西播磨フロンティア祭のイベントにあわせ、「出る杭大会」を開催している。平成 18 年 4 月 29 日には第 5 回出る杭大会を開催（参加：45 団体）し、約 1 万人の来場者でにぎわった。</p> <p>○来場者の投票や地域ビジョン委員による審査により「出る杭大賞」などを選定した。受賞団体にはビジョン委員が自らの募金活動により集めた活動資金を副賞として贈呈した。</p> <p>○行政との「参画と協働」に資するため、県及び市町の代表的な施策を出展する「行政の出る杭」コーナーを設けた。</p> |  |
| 展開 今後の | <p>○新たに設置したシンボルプロジェクト部会（H18. 8. 8 設置）により、次回以降の企画運営を行い、蓄積されたノウハウや人材を活用しながら、大会を充実発展させていく。</p> | |


第5回出る杭大会 開会式

子育て支援情報の収集と発信

| | | |
|--------|---|--|
| 趣旨・実績 | <p>○子育て中の人たちや子育て支援団体とのネットワークの輪を広げ、人の交流と子育て支援情報の共有化を進めるため、ビジョン委員自らが取材・編集した子育て情報を発信している。</p> <p>○子育て支援情報誌「わっ！と西播磨」（第 1 号～第 4 号各 30,000 部）を発行し、ビジョン委員自らが西播磨地域の全小学校、子育て学習センターなどに直接配布した。（H18. 2. 10、H18. 7. 10、H18. 12. 15、H19. 3. 12）</p> |  |
| 展開 今後の | <p>○情報誌「わっ！と西播磨」の定期的な発行を行うとともに、ウェブサイト上での情報発信を行う。</p> <p>○子どもたちや母親を中心としてイベントを企画する。</p> | |


子育て支援情報誌

福祉（安心安全）マップ等の作成

| | | |
|--------|--|---|
| 趣旨・実績 | <p>○障害のある人の社会参加支援を目的として、車イスの方が外出した際の利便性・安全性の向上を図るため、「西播磨福祉トイレマップ」（5,000 部）を発行した。（H14 年度）</p> <p>○小規模作業所等を地域に認知してもらうことを目的に「西播磨の小規模作業所等紹介冊子ーいのち・かがやくー」（5,000 部）を作成、配布した。（H16 年度）</p> <p>○平成 18 年度には、既存のトイレマップの内容充実を図るため、現地調査を実施し、市町別地図のカラー化や案内板の有無やスロープ・手すりの設置状況など項目ごとの一覧表と高齢者関連施設を掲載した「西播磨福祉マップ」（5,000 部）を作成し、障害者や高齢者などマップを必要とする人へ配布した。</p> |  |
| 展開 今後の | <p>○既存のマップのウェブサイトでの発信や、他の福祉マップとのネットワーク化の方策を検討していく。</p> | |

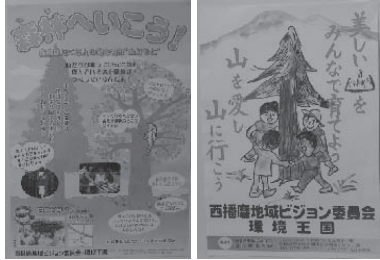
西播磨出る杭マップ


環境保全意識の伝達


| | | |
|--------|---|---|
| 趣旨・実績 | <p>○西播磨地域の恵まれた「森・川・海」を生かし環境創造活動につないでいくとともに、環境保全の意識を醸成し環境保全の輪を広げていく。</p> <p>○夏休み期間中に森・川・海で行われる行事をとりまとめたリーフレット（20,000 部）を作成し、地域ビジョン委員が西播磨地域の全小学校を訪問し、小学生全員に配布した。（H17. 7. 14）</p> <p>○環境意識啓発の「のぼり旗」「ステッカー」「ジャンパー」を作成し、各種イベントなどでPR活動を行った。</p> |  |
| 展開 今後の | <p>○各地で開催されるイベント会場において、意識啓発活動グッズを使った啓発活動を行う。</p> <p>○各地区の学校、自治会、子ども会、老人会などと連携して活動を行う。</p> | |

ステッカー

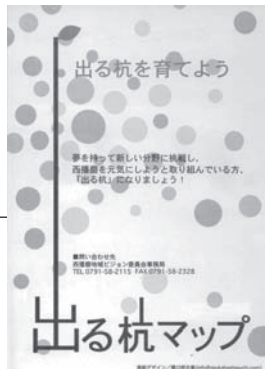
1 主な参画と協働施策の実施状況

| 身近な森林・里山の保全と地元産木材の利活用 | |
|-----------------------|---|
| 趣旨・実績 | <p>○身近な森林や里山保全の意識啓発の必要性・重要性について再確認するため観察会を実施した。(H17. 11. 5 宍粟市千種町、H18. 5. 21 赤穂市)</p> <p>○「第3回環境フォーラム in あいおい」を開催し、西播磨各地から参加者を得て、上下流住民の交流を図り、意見交換等を行い森林保全に対する再認識の場とした。(H18. 3. 5)</p> <p>○森林の価値や重要性をアピールするポスターを作成し、森林保全の必要性の意識啓発を行った。</p> |
| |  <p>意識啓発ポスター</p> |
| 展開 今後の | <p>○豊かな清流を育む森林を保全するため、上下流住民が交流を進め、森林保全の必要性について意識啓発を進めていく。</p> <p>○学校、自治会、森林組合などと連携した森林環境学習を推進する。</p> |






| 西播磨のええとこの発掘と発信 | |
|----------------|---|
| 趣旨・実績 | <p>○西播磨の誇りを地域内外の多くの人にアピールするため、西播磨の地域資源を収集し、情報発信する。</p> <p>○ビジョン委員から寄せられた地域資源情報(約300件)の整理、検討を進め、「西播磨の誇り」データベースとして構築し、ビジョン委員自らがホームページを立ち上げ、発信中である。</p> <p>○各地の人々から寄せられた「西播磨のおすすめスポット」情報を新たに設け、発信した。</p> |
| |  <p>ホームページ「西播磨の誇りデータベース」</p> |
| 展開 今後の | <p>○既存のホームページが、より良く使いやすいものとなるよう、内容の充実や改善に努めつつ、それらデータを活用した地域の活性化につながる方策を検討していく。</p> |

| 西播磨の元気盛り上げ隊(たい) | |
|-----------------|---|
| 趣旨・実績 | <p>○企画から運営まで西播磨の地域住民が主体となって開催した「ふれあいフェスタ 2004 in テクノ」(H16. 10. 17)、「オータムフェスタ 2005 in テクノ」(H17. 10. 30)、「オータムフェスタ 2006 in テクノ」に参画している(来場者約8,000人)。</p> <p>○特産品販売、うまいもん市、フリーマーケットが開催される中、地域ビジョン委員会は、「ステージ」の企画運営や「ちびっこミニサッカー大会」を担当した。</p> <p>○18年度には、「まるごとテクのり(自衛隊、消防隊、ハーレー隊の展示・試乗)」、「ちびっこミニサッカー大会」、「大コン(大根)テスト」などを担当した。</p> |
| |  <p>オータムフェスタ2006 in テクノ</p> |
| 展開 今後の | <p>○19年度に西播磨地域で開催される「ふれあいの祭典」などに、地域住民・団体が主体となって取り組み、西播磨地域の発展と地域づくりを推進する。</p> |

2 シンボルプロジェクトの取り組み

| 西播磨出る杭プロジェクト | |
|--------------|---|
| 趣旨・実績 | <p>○第5回出る杭大会の開催(再掲)</p> <p>○「出る杭」を核とした地域づくり活動への支援や交流の輪の拡大方策の検討を行うため、シンボルプロジェクト部会を設置した。</p> <p>○地域づくり活動団体を広くアピールし、同じような活動をしている団体同士の連携を支援するため「出る杭マップ」を作成した。</p> |
| |  <p>出る杭マップ</p> |
| 展開 今後の | <p>○出る杭大会の蓄積されたノウハウや人材を活用しながら、行政や県民との協働による企画運営を行い、今後の大会を充実発展させる。</p> <p>○現在、地域SNSを活用したネットワークの構築中であり、今後は出る杭交流会の開催など地域活動団体に様々な支援を実施する。</p> |

但馬地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

| 将来像 | プログラム名 (委員数) | 取 り 組 み 状 況 |
|-------|---|---|
| 自立の郷 | 次世代会議 -但馬の星づくり-(4人)  | 積極的にまちづくりに参加する若者を増やすほか、行動を起こそうとする若者への支援を行い、次世代のリーダー（但馬の星）を輩出する。 (取り組み状況) <input type="checkbox"/> 次世代会議ごだん会の開催 ・第1回「但馬の人の本物の生き方」 ・第2回「地域の特性を活かしたマーケティング」 ・第3回「若者のライフスタイルと働き方の変化」 ・第4回「街の活性化とイベントのあり方」 |
| | 但馬まちづくりセンターの創設 (10人)  | まちづくり人フォーラムを開催し、まちづくり実践者のネットワーク（但馬まちづくりセンター）を形成する。 (取り組み状況) <input type="checkbox"/> まちづくり人フォーラムの開催 ・「但馬にこんなすてきな人が住んでいる」 ・「地域の子どもを守るパトロール隊大集合」 |
| 賑わいの郷 | 但馬の近代化遺産の調査・マップづくり (11人)  | 但馬の近代化を支えてきた建造物や土木構築物を調査し、マップを作成（情報発信）する。文化財登録など、まちづくりへの活用方策を検討する。 (取り組み状況) <input type="checkbox"/> 現地調査の実施 ・但馬内の近代化遺産（矢田川橋等）を調査 <input type="checkbox"/> 講演会の開催 ・豊岡市街の復興建築群とまちづくり |
| | 但馬の観光による活性化・多彩な交流促進 (7人)  | 既存観光資源のネットワーク化を進める。グリーン・ツーリズムの推進等農作業体験を通じた都市との交流を促進する。 (取り組み状況) <input type="checkbox"/> 但馬地域の主要な観光個所を現地調査 ・朝来市感動めぐり ・兵庫の屋根めぐり ・北但馬の自然めぐり |
| | 但馬の川と峠の物語 (10人)  | 但馬の川や峠の果たしてきた役割や歴史を調査し、新たな地域資源としてその魅力を情報発信する。 (取り組み状況) <input type="checkbox"/> 現地調査の実施 ・春来峠、桃観峠など但馬の峠や川を調査（地元住民からの聞き取り調査等） |

| | | |
|---|--|---|
| 癒しの郷 | <p>食の安全・安心と農業 (12人)</p>  | <p>食に関する教育（食育）や環境創造型農業の普及を通して、安全な食と農業に関する消費者理解を促進する。</p> <p>（取り組み状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 研修会等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な農業を実践する団体现地視察 ・食の安全・安心と生き物育む農業ざっくばらんトークの開催 <input type="checkbox"/> 食の安全・安心に関するアンケート調査の実施 <input type="checkbox"/> 食の安全・安心に関する紙芝居の作製 |
| | <p>環境にやさしい生活 ー 5R生活の推進ー (5人)</p>  | <p>マイバッグ運動の推進による家庭ゴミの減量化など、環境にやさしい生活を推進する。</p> <p>（取り組み状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 但馬マイバッグキャンペーンの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングセンター等において、チラシを配布しマイバッグ運動を推進 <input type="checkbox"/> 環境にやさしい生活フォーラムの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ委員の発表と意見交換 |
| | <p>森・川・海の再生 (12人)</p>  | <p>日常の住民生活と環境保全との共存関係を検討し、森から川、海へとつながる自然環境の再生を進める。</p> <p>（取り組み状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 現地調査等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全団体の活動に参加し森・川・海の現状を把握するほか清掃活動を実施 <input type="checkbox"/> 研修会の開催 |
| | <p>ふるさと音楽祭「たじまのうたまつり」 (9人)</p>  | <p>但馬の歌の発掘、紹介を行う。歌を通して様々な団体や地域の人々との交流を促進する。</p> <p>（取り組み状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> うたのひろば等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館、保育所においてうたを通じた交流会を開催 <input type="checkbox"/> こうのとり音楽祭の開催 |
| 慈しみの郷 | <p>地域の助け合いのネットワークづくり (14人)</p>  | <p>住民参加型の「地域助け合いのネットワーク」を形成し、障害児（者）、高齢者等を支援する。</p> <p>（取り組み状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 研修会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・地域において福祉活動を行う団体による活動・事例発表 <input type="checkbox"/> 意見交換会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における課題について障害者の事例発表と意見交換 |
| | <p>地域防災力の向上 (5人)</p>  | <p>平成16年の台風23号災害から得た教訓等を継承、発信する。防災意識の普及啓発を進め、地域の防災体制の向上を図る。</p> <p>（取り組み状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 防災施設等の見学会 <ul style="list-style-type: none"> ・但馬広域防災拠点、兵庫耐震工学研究センターなど見学 <input type="checkbox"/> 講演会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・台風23号時の対応等について区長等を講師に講演会を開催 |
| <p>シンボルプロジェクト「コウノトリと共生する地域づくりの推進」</p> <p>コウノトリ翔る郷として人間と自然とが豊かに共生する地域をめざし、但馬夢テーブル委員会においては、安全安心な食と農業の普及啓発や環境にやさしい消費生活の推進などの取り組みを行った。</p> | | |

丹波地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

丹波地域ビジョン委員会では、1部会と9つの実践活動グループが11のプロジェクトに分かれて、丹波地域ビジョンが掲げる5つの将来像の実現をめざした活動に取り組みました。また、ビジョン委員会の活動などを紹介する「うりぼうニュース」を年4回発行しました。

シンボルプロジェクト 《たんば田舎暮らし支援プロジェクト》

～ようこそ「たんば」へ 田舎暮らしのススメ～



丹波は大都市圏から近い距離にあり、歴史や文化、自然が豊かな地域という特性がある。この特性を生かして都市住民との交流活動を展開し、交流から丹波への定住につなげていこうと、イベントなどで「田舎暮らし案内所」を設置し、「たんば田舎暮らし」のPRや相談活動を実施するなどして、約650名の田舎暮らし希望者を集めた。

・「田舎暮らし案内所」の設置 17年10月～19年1月（9回）

将来像1 丹波のことは自分たちで決める仕組み

●集落・地域を活性化しようプロジェクト

集落や地域の自慢や魅力となるような史跡や風景、風習などを発掘し、それを地域活性化につなげようと調査活動やPRを行った。

- ・全自治会対象のアンケートの実施と報告書配布
- ・「昔話を聞く会」 18年6月～19年3月（24回）
- ・第2回集落自慢大会M-1（むらワン）グランプリ 18年11月26日



●地域づくりニューリーダー塾（愛称：ひょうたん塾）の開塾プロジェクト

丹波の地域づくりを担うリーダーの育成を目的に、研修や視察などを行い、地域づくりやリーダーシップについて学んだ。

- ・部会12回/年（塾の企画・運営について検討）
- ・塾10回/年（視察5回、座学研修2回、開塾式・中間報告・閉塾式）



将来像2 都会に近い田舎

●みんなで丹波地域の里山に入ろうプロジェクト



丹波の住民や都会に住む方たちに、丹波の里山を生かして交流していただこうと、里山マップを作成。また、住民との里山見学会の実施や同じ加古川水系の東播磨地域ビジョン委員と交流会を開催し、地域外とのネットワークを広げた。

- ・里山見学会 17年11月～18年11月（6回）
- ・加古川水系 南北交流会 19年2月24・25日

●食を通じた都市との交流をすすめようプロジェクト

都会に住む方を丹波に招き、田舎暮らしを体験するとともに、丹波の食材を使った伝統食を囲んで地元の方と交流を深める体験ツアーを、シンボルプロジェクトとともに開催した。

- ・里山の恵みを味わう体験ツアー（51名）18年4月23日
- ・晩秋のたんば 楽しみを見つけるツアー（69名）18年11月23日



将来像3 多世代が支え合う豊かなコミュニティ

●みんなで高齢者の地域参加を支えようプロジェクト

高齢化の進行する丹波において、高齢者が元気で積極的に地域参加することを目標に、

「いきいきサロン」の支援や高齢者の健康づくりを手助けする人材育成の研修会を開催した。

- ・「にこにこサロン」立ち上げ（篠山市井ノ上）18年4月～（6回）
- ・健康づくり指導者研修会 18年6月22日～（8回）
- ・元気とどけ隊の活動 18年5月21日～



●青少年の心の応援の輪を広げようプロジェクト

丹波の住民の方たちに、不登校やひきこもりについて現状を啓発するとともに理解を深めていただき、地域で支援するネットワークを広げるため、アンケート調査や講演会などを行った。

- ・子ども・青少年に関するアンケート調査 18年4・5月
- ・パネルディスカッション・フリートーク
「現代社会にあえぐ子どもたち」（70名）18年7月9日
- ・ひきこもりを考える交流学習会（60名）に協力 18年10月14日



将来像4 幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動

●ふるさとの「食」をとり戻そう！プロジェクト

丹波の食材や伝統食などを発掘し、伝統食レシピを作成して、食に関するイベントなどでレシピの配布や試食を行い、地産地消を進める取り組みを実施した。

- ・伝統食レシピの収集
- ・イベントでの伝統食PR 18年4月～18年12月（5回）



将来像5 無意識のうちにつくられているバリアがない地域

●男女が一人ひとりの人間として担う地域社会の実現プロジェクト



自治会や集落における男女の担う役割について考え、男女が等しく地域社会づくりに貢献できるよう、男女共同参画の実現をめざしたテーブル会議や自治会での出前朗読劇を開催した。

- ・出前朗読劇 18年9月～19年2月（4回）
- ・みんなが参画できる集落づくり PartⅡ 19年2月10日

●世界のみなさん、こんにちはプロジェクト

丹波の外国人登録者数は年々増加しているが、それに伴い日本語習得や就職など日常生活における問題も増加している。丹波で生活する外国人を支援し、多文化共生社会を進める活動を展開した。

- ・多文化共生社会づくりフォーラム「地球家族 in 丹波市」に協力 18年8月27日
- ・外国人研修生等受け入れ工場訪問 18年4月～12月（3回）
- ・外国料理店の出店（柏原藩織田まつり「うまいもんフェスタ」）18年10月8・9日
- ・キムチづくり講習会 18年12月2日



●障害者が普通に生活できる社会づくりプロジェクト

障害のある人もない人もともに助け合って生活し、誰もが暮らしやすい社会づくりに向け、丹波全域でトイレ調査を実施し、意見交換会や声かけ運動推進員の募集などを行った。

- ・いつでも、誰でも使えるトイレの調査 202カ所
- ・障害者団体との意見交換会「あいわの会」 18年2月～19年2月（3回）
- ・丹波の森ふれあい劇場を支援（700名） 18年6月11日
- ・障害者施設ふれあい訪問 18年6月14・15日、7月28日（2回）
- ・障害のある方への声かけ運動（声かけ運動推進員500人達成）




淡路地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況



淡路地域ビジョン委員会では、「人と自然の豊かな調和をめざす環境立島『公園島淡路』」の実現を図るため、実践目標ごとに、ビジョン委員を中心に地域の方々とともに、県民行動プログラムを推進しており、平成18年度の主な取り組みは次のとおりです。

I 県民行動プログラムの推進状況

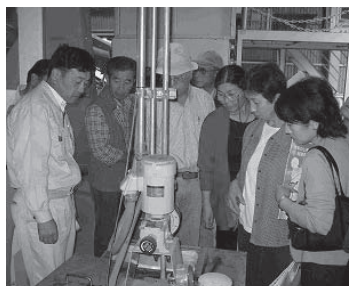
◆花いっぱい美しい島 ～淡路らしい美しい地域景観の形成を促進し、より良い環境づくりをめざします～

| プログラム名 | 主な取り組み内容 |
|---|---|
| <p>あわじ菜の花エコプロジェクト [活動のねらい、期待される効果] 休耕田等に菜の花を栽培し、菜種油を料理に利用後、廃食用油（菜種油に限らない）を回収し、軽油代替燃料等として再利用する資源循環型システムを構築する。</p> | <p>○ 菜の花の栽培拡大 10月～11月には、希望者に菜の花の種子を配布。H18年から油取り用の「ななしきぶ」を希望者に配布。</p>  <p>○ 6月と10月に洲本市五色町において、8月には淡路市において、菜種の収穫祭を開催。</p> <p>←菜種油で作った天ぷらはサクサク美味しい</p>  |
| <p>地球温暖化防止（6%削減淡路島づくり） [活動のねらい、期待される効果] 地球温暖化防止等の環境問題を解決するには、私たち一人ひとりのライフスタイルを見直す必要がある。様々な世代の人たちに環境について学んでもらうことにより、地球環境への関心を高め、家庭から社会へと環境再生構築社会の一助とする。</p> | <p>○ 地球温暖化防止の普及啓発 淡路島内3市で「淡路縦断バイオマス勉強会」を開催し、さらに淡路島のバイオマス資源の活用を検討する「淡路バイオマス・フォーラム」を洲本市で開催。また、徳島県上勝町などの先進地を視察し、淡路島での具体的な取り組みを検討した。</p>  <p>○ 環境学習の取り組み 小学校へ出向き、子どもたちに地球環境への関心を高めてもらう取り組みを実施。</p>  <p>子どもたちへの授業風景(富島小)→</p> |


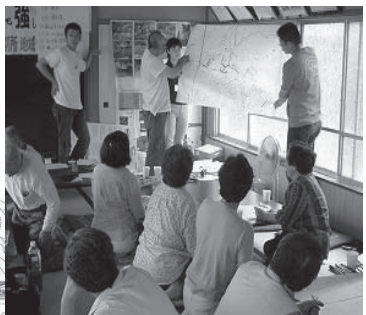
◆人をはぐくむ島 ～個性輝くたくましい、知恵ある子どもを育てます～

| プログラム名 | 主な取り組み内容 |
|---|---|
| <p>地域でつくる自然ふれあい「手づくり」公園 [活動のねらい、期待される効果] 身近にある自然の中で、自由に遊べる空間をつくり、自然体験・自然観察などにより、自然の大切さを学び、淡路の自然に誇りを持つ。</p> | <p>“いざなぎの丘で遊ぼう”を地元のボランティアグループとともに12月に開催し、みかん狩り、竹細工、散策、合唱等を実施。 (参加者 親子96人)</p>  <p>竹細工を楽しむ子どもたち→</p> |
| <p>子どもたちへの夢教育 [活動のねらい、期待される効果] 様々な分野で活躍する人の体験談等を通して自分の将来の夢や目標を持ってもらい、それに向かって努力するたくましい子どもを育てる。</p> | <p>JAXA（宇宙航空研究開発機構）職員による講演会を開催 「夢に向かって～宇宙開発による未来の可能性～」をテーマに実施。宇宙開発のほか宇宙の成立やロケットが飛ぶ原理などの説明とともに、本物の宇宙食の展示も行い、約80名の参加者が熱心に見入っていた。</p>  <p>宇宙についてクイズに挑戦</p> |


◆魅力ある産業を興す島 ～個性豊かな地域産業が息づく、活気みなぎる島をつくります～

| プログラム名 | 主な取り組み内容 |
|---|--|
| <p>資源循環型農業の推進 [活動のねらい、期待される効果] 淡路地域では、家畜ふん尿の利活用が望まれる。ひょうごのやさしい土づくりを進め、たい肥の安定供給を行うことで、有機物資源の有効活用を図り、良質で安全・安心な農産物の栽培を推進する。</p> | <p>これからの環境や農業を考えるうえで、環境にも配慮した農業の推進を図るため、玉葱炭化処理やBDF精製処理など島内の資源循環に取り組む施設の見学会を実施。プログラムの輪を広げるため、ツアー参加者を島内の一般県民から募集した。(参加者 46人)</p>  |


◆安全で安心な島 ～安全で安心して、すべての人が心豊かに暮らせるまちづくりを進めます～

| プログラム名 | 主な取り組み内容 |
|---|--|
| <p>安全・安心の島づくり推進隊 [活動のねらい、期待される効果] 自然災害から生命財産を守るためには、公共事業のみならず、県民自らの取り組みが必要である。避難行動を支援する注意喚起やハザードマップ情報などが、うまく住民に伝わる方法や補完する情報について検討する。</p> | <p>地元の自治会と共催でワークショップを開催し、身の回りに潜む危険箇所や隣近所の災害弱者について再確認し避難経路図や「地域の見守り相関図」を作成し、公会堂に掲示した。</p>   |

◆心あふれる交流の島 ～思いやりの心でもてなすことで、多様な交流を行い活気ある島づくりを進めます～

| プログラム名 | 主な取り組み内容 |
|--|---|
| <p>花づくり・まちづくりの交流 [活動のねらい、期待される効果] 花づくりを家庭からまちへと広げ、淡路島全体を花壇に見立てた花づくりを実施していく。</p> | <p>「第5回あわじオープンガーデン」を開催した。(参加庭園 61カ所) 「花と緑の輪がつなぐ人の和」をテーマに北淡路地区は5月6日から7日、南淡路地区は5月13日から14日に開催した。(来訪者 14,000人)</p>  |

◆総合的推進

| プログラム名 | 主な取り組み内容 |
|--|---|
| <p>地域情報の発掘・発信 [活動のねらい、期待される効果] 淡路の魅力について、これまでとは違う視点でPRすることにより、観光、地域交流等多方面で活用する。</p> | <p>島内の土木・建築の近代化遺産 18カ所や著名な建築家が手がけた現代建築 14カ所のマップ情報をホームページで発信した。</p>  |

II シンボルプロジェクト「淡路島まるごとミュージアム構想」の推進状況

この構想を推進し定着させるためには、地域住民が主体となって議論し、行動する過程が重要になります。このことから、次の取り組みを進めています。今後は、同構想の趣旨・考え方などの普及・啓発を積極的に図るとともに、「宝さがし」を全島的に広めるなど、具体的に推進していきます。

- 推進組織の設置・運営（地域活動団体等の代表、県民局、3市から構成）
 - 同構想の考え方や今後の進め方等について、継続的に勉強会を開催
 - 住民に参画を促すには、各委員がより理解する必要があることから、風土資産調査結果を参考に、地域資源を発掘し、磨き、発信する過程（宝さがし）を率先して実践するモデルスタディの取り組みを展開
- 地域資源と体験学習をテーマ性やストーリー性を持たせてつなぐ体験学習プログラムを開発